

私立獣医科大学における
大学院教育・研究の相互評価報告書

令和7年12月

一般社団法人 日本私立獣医科大学協会

目 次

1. 経緯と調査の方法	
(1) 経緯と調査の方法	1
(2) 調査対象期間	1
(3) 調査項目	1
(4) 評価者	1
2. 各調査項目における相互評価	
(1) 研究科の理念・目的・教育目標等	2
(2) 教育・研究指導の内容・方法と条件整備	9
(3) 学生の受入れ	34
(4) 教職員等	46
(5) 施設設備および情報インフラ	114
(6) 学生生活の支援・配慮等	118
(7) 大学院の管理運営体制（事務組織含む）	121
(8) 大学院の点検・評価	122

はじめに

一般社団法人 日本私立獣医科大学協会は、その前身である私立獣医科大学協会時代の平成 14 (2002) 年に、獣医学教育の改善ならびに国際化を目指し、第一次相互評価として「私立獣医科大学における獣医学教育の相互評価」を実施・公表した。そして、それ以降 平成 30 (2018) 年まで 2 年毎に学部教育・大学院教育・教職員組織・教育施設設備・財務・学生生活・就職・附属動物病院などの幅広い項目について相互評価を継続してきた。その後も相互評価を継続しているが、コロナ禍もあって、第十次相互評価「私立獣医科大学における臨床教育および動物病院の総合評価報告書」は 2021 年 (令和 3 年) に公表され、今回 (第十一次相互評価) の報告書は 2 年毎の公表は叶わず、令和 7 (2025) 年度の公表となった。

コロナ禍は日本の大学教育に多大な困難をもたらしたが、同時に e-ラーニングなどのリモート教育を急速に普及させ、教育のデジタルトランスフォーメーション (DX) を推進する契機となった。大学院教育は、大学学部教育の基礎の上に築かれる、学術の理論および応用を教授研究し、その深奥を極めることを目的とした高等教育段階であり、大学院生に一人の研究者として、特定の専門分野における高度な知識、研究能力、論理的思考力、問題解決能力などを養うために展開されている。日本私立獣医科大学協会では、大学院教育に関して、これまでに二度の相互評価を実施しており、会員 5 大学の獣医学大学院教育・研究の充実と高度化を目指して社会の要望に応える明確な努力目標を設定すべく、平成 16 (2004) 年の第二次相互評価において各会員大学の大学院の教育・研究環境等の状況を把握し、9 年後に平成 25 (2013) 年の第七次相互評価において各会員大学の自校改善と大学院生へのより良い教育環境の提供に寄与することを目的に、経年変化を把握した。今回、12 年前の第七次相互評価後のさらなる大学院教育・研究環境の改善状況、とくにコロナ禍を契機にした教育・研究環境等の現状把握し、新たな社会の要望に応える獣医学大学院教育・研究の充実と高度化を目指して、大学院教育に関して三度目の相互評価を行うこととした。

今回の大学院教育に関する相互評価では、第七次相互評価に準じて、大学院研究科の理念・目的・教育目標、教育・研究指導の内容・方法と条件整備、学生の受入れ、教職員、施設設備および情報インフラ、学生生活の支援・配慮、大学院の管理運営体制について、点検・評価し、可能な限り多方面から現状を把握し、会員私立 5 大学の現状を一覧とした。本報告書の公表が、私立獣医科大学における大学院教育・研究環境の発展とさらなる整備充実に寄与することを願うとともに、第十一次相互評価作業に取り組まれた会員私立 5 大学の教職員各位にお礼を申し上げたい。

令和 7 年 12 月

第 11 次相互評価 担当
酪農学園大学大学院
獣医学研究科長 山下 和人

1. 経緯と調査の方法

(1) 経緯と調査の方法

- ① 令和6年(2024)年6月に開催された理事会において、第11次相互評価の実施について決定され、テーマは平成25年(2013)年9月に実施された「私立獣医科大学における大学院教育・研究の相互評価」とすることが承認された。
- ② その後担当校である酪農学園大学において質問事項の精査等を行い、同年11月27日付けで、相互評価の依頼文、調査票を加盟大学事務局へ送付し、調査依頼を行った。
- ③ 令和7(2025)年6月に各大学より調査票が提出され、担当校にて調査票の取りまとめを行った。また、各大学より評価委員を選出いただけるよう依頼した。
- ④ 同年8月8日に第1回私獣協相互評価委員会を開催し、委員の顔合わせ及び相互評価にかかる要領や注意事項について共有した。
- ⑤ 第1回私獣協相互評価委員会後から同年9月末にかけて、各委員が分担して相互評価を実施した。
- ⑥ 同年10月から12月にかけて相互評価内容の確認と相互評価報告書案の作成を担当校にて実施した。
- ⑦ 同年12月9日に第11相互評価報告書案の内容について各大学の相互評価委員へ確認を依頼した。
- ⑧ 各委員よりいただいた意見・指摘事項について対応後、令和7(2026)年12月24日に報告書を事務局へ提出した。

(2) 調査基準日

令和6(2024)年5月1日

(3) 調査項目

- ① 研究科の理念・目的・教育目標等
- ② 教育・研究指導の内容・方法と条件整備
- ③ 学生の受入れ
- ④ 教職員等
- ⑤ 施設設備および情報インフラ
- ⑥ 学生生活の支援・配慮等
- ⑦ 大学院の管理運営体制(事務組織含む)
- ⑧ 大学院の点検・評価

(4) 評価者

評価委員長	酪農学園大学大学院 獣医学研究科長	山下 和人
評価委員	北里大学大学院 獣医学専攻主任	田邊 太志
評価委員	日本獣医生命科学大学大学院 獣医生命科学研究科長	盆子原 誠
評価委員	麻布大学大学院 獣医学専攻主任	平 健介
評価委員	日本大学大学院 獣医学研究科 獣医学専攻主任	壁谷 英則

2. 各調査項目における相互評価

(1) 研究科の理念・目的・教育目標等

1. 研究科の理念・目的・目標について

1-1. 理念・目的・目標

各大学の大学院では、第7次相互評価時においても、研究科の理念・目的・目標が設定されており、今回も継続して設定されていることが確認された。文部科学省によると、『大学院は「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者等の養成」、「高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人の養成」、「確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員の養成」及び「知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材の養成」という四つの人材養成機能を担っています。』とされ、これらの人材育成が期待されている。また、言わずもがな、大学院研究科では特徴ある教育を提供することが求められ、そのことによって我々私立獣医科大学は多様な角度から獣医学によって社会に貢献をしていかねばならない。これらの前提を踏まえると、各大学とも、大学院研究科の理念・目的・目標について、第7次相互評価時の内容をベースに比較して変化を遂げているが、酪農学園大学・日本獣医生命科学大学・麻布大学においては独自性に欠ける印象がある。一方、北里大学・日本大学においては、明確なキーワードが提示され、独自性を持った教育を提供していることが伺える。

酪農	有	<p>獣医学研究科は、酪農学園創立の基本精神に基づいて、獣医学とその関連科学を創造的に研究・発展させ、その成果を人類の福祉及び動物・人・環境の調和と共存に寄与させることを目的とする。</p> <p>(1) 獣医学専攻博士課程は、多様化・高度化する獣医学とその関連科学の教育と研究を通して生命・自然を尊ぶ豊かな人間性をはぐくみ、人類と動物の福祉及び動物・人・環境の調和と共存に貢献し、国際的視野にたつて次世代の獣医学の教育と研究を担う人材を養成する。</p> <p>(2) 獣医保健看護学専攻修士課程は、臨床とその基盤となる諸科学の教育を通して、創造的かつ実践的な動物看護師となりうる人材並びに幅広く深い教養と専門知識・技術及び総合的な判断力を涵養し、健全で人間性豊かな生命観と社会的使命感を持った人材を養成する。</p>
北里	有	<p>北里大学全体の理念である「いのちを尊び、生命の真理を探究し、実学の精神をもって社会に貢献する。」に基づいて、未知の領域へ挑戦する精神を備え、高度な技術を駆使し国際的に通用する独創的な研究者及び社会への提言や技術提供ができる指導者等の人材の養成を目的とし、そのための教育研究上の目的は、(1) 公衆衛生（人獣共通感染症対策、安全安心な食の供給）、(2) 高度獣医療（動物の福祉向上、技術のヒトへの応用）、(3) 基礎獣医学（生命現象の解明）、(4) ヒトと動物が共存できる環境の構築とする。</p>
日獣	有	<p>獣医生命科学研究科は、教育理念及び目的達成のために、獣医学、獣医保健看護学及び応用生命科学領域における技術革新、研究水準の向上に対する社会的要請の高まりに対応できる優秀な人材を世に輩出して社会に貢献することを目的とする。</p>
麻布	有	<p>獣医学研究科は、獣医学、動物応用科学を基盤として、動物と人（ヒト）の健康社会・生命科学を探究し、地球上に共存する動物と人（ヒト）に関わる学術の論理及び応用を追究・教授することを理念とする。この理念に基づき、獣医学研究科は、人類と動物の</p>

		福祉、社会の平和、生物としての共生並びに文化の進展に貢献する人材を育てることを目的とする。
日大	有	<p>日本大学大学院獣医学研究科は、日本大学教育憲章と本学の教育理念である「自主創造」に基づき、獣医科学と獣医療に関する豊かな学識と実践的な技術、独創的な研究能力を有し、国際的に活躍できる資質と高い倫理観を兼ね備えた人材の育成を教育目標としている。</p> <p>また、「獣医比較形態学」、「獣医比較機能学」、「獣医感染制御学」、「獣医疾病予防学」、「獣医病態制御学」、「獣医病態情報学」の6つの分野において、高度で専門的な知識、実践的な技術並びに理論感を有し、創造性豊かで国際的に貢献できる人材の養成を教育・研究指導の目的とする。</p>

1-2. アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー

第7次相互評価当時には、大学院研究科のアドミッションポリシー(AP)、カリキュラムポリシー(CP)およびディプロマポリシー(DP)の3つのポリシーについて、酪農学園大学はその設定が不十分とされたが、今回は5大学すべての大学院研究科において整備された。AP、CP およびDPの3つのポリシーについては各大学院に公表が義務付けられているが、ただ策定するだけではなく、大学院の理念・目的・目標に沿った内容としなくてはならない。よって、3つのポリシーについても、おのずと文部科学省の期待する人材育成に向けた内容になっていることと独自性を持つことが要求される。各大学は今後も社会にとって有用な人材を継続して輩出していくために、社会の流れや国際的な状況を鑑み、大学院研究科のビジョンと3つのポリシーを定期的に見直すことが求められる。

酪農	有	<p>○獣医学専攻博士課程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドミッションポリシー <p>多様化・高度化する獣医学とその関連科学の教育と研究を通して生命・自然を尊ぶ豊かな人間性をはぐくみ、人類と動物の福祉及び動物・人・環境の調和と共存に貢献し、国際的視野にたって次世代の獣医学の教育と研究を担う人材を養成することを目的としている。従って、本専攻は建学の理念を理解し、獣医学に関する高度な知識と技術を習得する能力を有し、さらに、その継続的な発展に強い意欲を有する人物を入学させる。入学に当たってはこれらの能力を確認するため、語学並びに専門科目について学力試験を行うとともに、入学の目的、研究の意欲、専門分野における理解度などについて面接を行い、一定以上の基準を有する者を選抜する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムポリシー <p>獣医学とその関連科学を創造的に発展させ、その成果を研究に反映させる教育を実施する。そのため、自ら課題を探求し、その解決に対し幅広く柔軟かつ総合的な判断をする力を養い、次世代の教育と研究について指導的な役割を果たすことができるよう、研究や討論を実践的に積み上げる演習科目並びに獣医学研究実験に重点をおいた教育を実施する。また、急速に発展・変化する獣医学とその関連科学についての高度な知識と技術を習得し、社会のグローバル化に対応することができるよう、各専門分野並びに国際獣医情報学に関する特殊講義を教授する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディプロマポリシー <p>所定の単位を取得し、以下の能力を有する人物に対し学位を授与する。</p>
----	---	---

	<p>健全で人間性豊かな生命観と社会的使命感を持ち、幅広く深い教養と高度な専門知識・技術を基礎として、総合的に判断できる能力</p> <p>社会において必要とされている研究課題を見極めるとともに、課題に対して真摯に取り組み、獣医学とその関連科学の教育と研究に寄与し、さらにそれを発展させ、積極的に社会に発信する能力</p> <p>国際的な視野を有し、次世代の獣医学の教育と研究においてリーダーとして行動できる能力</p> <p>○獣医保健看護学専攻修士課程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドミッションポリシー <p>多様化・高度化する獣医学、動物看護学、動物保健学ならびにその関連科学の教育と研究を通して生命・自然を尊ぶ豊かな人間性をはぐくみ、人類と動物の福祉及び動物・人・環境の調和と共存に貢献し、国際的視野にたつて次世代の獣医保健看護学の教育と研究を担う人材を養成することを目的としている。従って、本専攻は建学の理念を理解し、獣医保健看護学に関する高度な知識と技術を習得する能力を有し、さらに、その継続的な発展に強い意欲を有する人材を受け入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムポリシー <p>動物看護学、動物保健学ならびにその関連科学を創造的に発展させ、その成果を研究に反映させる教育を実施する。</p> <p>自ら課題を探究し、その課題解決に対し幅広く、柔軟かつ総合的な判断をする力を養い、次世代の教育と研究について指導的な役割を果たしうる人材を養成するために、研究や討論を実践的に積み上げる演習科目ならびに研究実験に重点をおいた教育を実施する。</p> <p>獣医保健看護学について基礎・応用と臨床についての2専門分野を設け、それぞれの専門分野についての高度な知識と技術を習得するための科目を開講する。また、他専門分野の科目を選択することが必要な教育課程とし、専門分野に偏らない科目の選択が可能なカリキュラムとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ディプロマポリシー <p>所定の単位を取得し、以下の能力を有する人物に対し学位を授与する。</p> <p>幅広く、深い教養と高度な専門知識・技術及び総合的な判断力を有し、健全で人間性豊かな生命観と社会的使命感を有するとともに、それを達成する能力</p> <p>課題に対して真摯に取り組み、獣医保健看護学とその関連科学の教育と研究に寄与し、さらにそれを発展させ、積極的に社会に発信する能力</p> <p>次世代の獣医保健看護学の教育と研究においてリーダーとして行動できる能力</p>
北里 有	<p>アドミッションポリシー</p> <p>獣医学研究科では、次の(1)～(4)のような学生を求めています。(1) 将来展望を持ち、獣医学の研究学修に積極的に取り組める人。(2) 国際的に通用する独創的な研究を目指すチャレンジ精神を持った人。(3) 生命現象に対して畏敬の念と科学的な探究心を持ち、生命倫理の理解に努める人。(4) 獣医学の研究学修にあたって、自力での課題解決に努める人。</p> <p>カリキュラムポリシー</p> <p>以下の方針に基づき教育課程を編成・実施しています。(1) 基礎獣医学、応用獣医学、臨床獣医学の高度な知識と自力での課題解決能力を身に付けさせるためのカリキュラムを設定します。(2) 専門科目を設定して、当該分野の特別講義、特別演習を3年間で実施します。(3) 専門科目の特別実験および博士論文作成を4年間で実施します。(4) 獣医学専攻全専門科目を網羅する形の獣医学特別講義(一部を英語で講義)を2年間で実施します。(5) 問題解決能力を涵養するため教員と討議をします。</p>

	<p>ディプロマポリシー</p> <p>「未知の領域へ挑戦する精神を備え、高度な技術を駆使し国際的に通用する独創的な研究者及び社会への提言や技術提供ができる指導者等の人材養成を目的とし、(1)基礎獣医学、応用獣医学、あるいは臨床獣医学の研究課題を博士論文にまとめる能力、(2)高度な知識と技術、(3)深い学識と豊かな人間性、(4)問題に即応した課題解決を自ら具視化できる独創的で国際的に通用する研究者、高度専門職業人、あるいは指導者となる能力、これらの資質・能力を習得した者に学位を授与する。</p>
<p>日 獣 有</p>	<p>入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）</p> <p>日本大学大学院獣医学研究科は、教育理念及びディプロマポリシーに基づき、「獣医比較形態学」、「獣医比較機能学」、「獣医感染制御学」、「獣医疾病予防学」、「獣医病態制御学」、「獣医病態情報学」の各専門分野における基盤的かつ先端的な専門知識と技能を備え、国際的に活躍できる指導的な人材を育成したいと考えている。具体的には博士課程獣医学専攻では、生命科学に関する質の高い基礎研究能力を有する人材、感染症の診断・病態の解明や疾病制御・予防に関する最新の知識と高度な技術を有する人材、及び高度な獣医療技術と動物倫理・福祉に関する専門知識を持った人材の育成を目指している。そのために、次のような能力・資質を有する入学者を国内外から求めている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 日本大学の教育理念を理解し、獣医学を通じて国際社会に貢献したいと考えている人 2 生命倫理を尊重し、動物福祉を行動規範とする人 3 幅広い視野と科学的な視点から獣医科学及び獣医療のより深い修得を目指す人 4 獣医科学及び獣医療に関する学識と独創的な研究を遂行するための十分な基礎的能力を有する人 5 豊かな教養と協調性を備えた人 <p>入学試験では、大学院生として博士（獣医学）の学位取得に対して強い意志を有する学部学生及び社会人大学院生として社会で活躍しながら学位取得を目指す人材を、語学力と専門知識を問う筆記試験及び研究能力を問う口述試験により選抜する。入学試験は、一般入学試験及び社会人特別選抜入試ともに年度内に2回実施する。</p> <p>教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <p>大学院獣医学研究科は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる人材を養成するため、博士課程獣医学専攻において以下に示す教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を設定している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 本研究科では、「獣医比較形態学」、「獣医比較機能学」、「獣医感染制御学」、「獣医疾病予防学」、「獣医病態制御学」、「獣医病態情報学」の各専門分野における基盤的かつ先端的な専門知識や技能を備えた指導的な人材を育成するため、複数の教員が講義・演習・研究に当たるオムニバス形式の指導体制をとっている。 2 本研究科の学修方法・学修過程には以下の内容が含まれる。 <ol style="list-style-type: none"> ① 自立した研究者の養成と指導的人材の育成 ② 幅広い学術基盤の修得

	<p>③ 能動的学修の充実化</p> <p>④ 国際的に活躍できる人材の育成</p> <p>⑤ 科学的かつ論理的思考のできる人材の育成</p> <p>⑥ 英語による研究成果発信力の修得及び博士論文作成能力</p> <p>3 学修成果の評価方法は、開講される講義への出席と課題レポートの内容、研究科内で実施される研究経過及び成果報告については、プレゼンテーション及び質疑応答の内容により評価する。また、学位（博士）論文作成に関しては、基盤的・専門的な学識と国内外の学術集会での口演発表実績及び専門学術雑誌（英文）への投稿又は掲載実績を重視する。</p> <p>修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）</p> <p>日本大学大学院獣医学研究科は、日本大学教育憲章と本学の教育理念である「自主創造」に基づき、獣医科学と獣医療に関する豊かな学識と実践的な技術、独創的な研究能力を有し、国際的に活躍できる資質と高い倫理観を兼ね備えた人材の育成を教育目標としている。</p> <p>本研究科の定める期間在籍し、教育目標に沿った研究指導を受け、所定の授業科目を履修して、基準となる単位数以上を修得することとともに、所定年限内に研究科が行う博士論文の審査及び試験に合格した者に博士（獣医学）の学位を授与する。</p> <p>1 獣医学領域の研究は、基礎生命科学系から臨床医科学系、応用生物学系に至る、多様かつ学際的特質を有している。大学院獣医学研究科獣医学専攻では、「獣医比較形態学」、 「獣医比較機能学」、 「獣医感染制御学」、 「獣医疾病予防学」、 「獣医病態制御学」、 「獣医病態情報学」の各専門分野において、高度で専門的な知識、実践的な技能、論理的思考力並びに生命倫理観を有し、創造性豊かにして国際的に貢献できる人材の養成を行なう。</p> <p>2 博士課程獣医学専攻の6つの専門分野では、以下に示す目標をそれぞれ設定し、修了認定及び学位授与の方針としている。</p> <p>① 「獣医比較形態学」及び「獣医比較機能学」分野では、基礎生命科学領域の研究者が共有する科学的価値観を前提とした、より質の高い基礎生物学に関する基盤的・先端的知識、技能及び研究成果を得ること。</p> <p>② 「獣医感染制御学」及び「獣医疾病予防学」分野では、動物固有の感染症や人獣共通感染症の疫学、病態解明及び疾病の制御と予防に関する基盤的・先端的知識、技能並びに研究成果を得ること。</p> <p>③ 「獣医病態制御学」及び「獣医病態情報学」分野では、高度化する獣医療に対応するための基盤的・先端的知識、技能及び研究成果を得ること。</p>
麻布 有	<p>アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）</p> <p>獣医学専攻博士課程</p> <p>獣医学専攻博士課程では、より高度な専門性を持つ職業人、研究者及び教育者の養成を目指す。そのために次のような人物を求めている。</p> <p>(1) 獣医学に関連する諸科学の基礎知識を持ち、かつ国際的な視点を持ち合わせている人</p> <p>(2) 獣医学に関する新たな知識の創造及び新技術の開発に取り組み、それによって人類と動物の健康維持に貢献しようとする意識のある人</p> <p>(3) 獣医学にとどまらず、新たな学際的な研究領域に対しても果敢に挑戦しようとする意欲を持っている人</p> <p>カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）</p> <p>獣医学専攻博士課程</p>

		<p>(1) 専門分野や専攻科目の枠を超えた幅広い学識を共通科目の講義により習得させる。</p> <p>(2) 獣医学に関する専攻科目の専門的知識を、各専攻科目に配当された授業科目の講義、演習並びに実験・実習により習得させる。</p> <p>(3) それぞれの指導教員との討論のもとで、自ら主体的に各分野の先端的な研究課題に取り組み、博士論文としてまとめる。これにより、課題解決方法、論理的思考、発展的な課題設定方法についてより深く学ばせる。</p> <p>(4) 研究成果を学内の課程博士論文中間発表及び論文発表会で発表させるとともに、国内外の学会及び学術誌において発表することを支援する。これにより、日本語のみならず、英語を始めとする外国語でのプレゼンテーション及び質疑応答能力を養わせる。また、対外的な評価を受けることで、自己の研究能力を客観的に評価する機会を与える。</p> <p>ディプロマ・ポリシー（卒業又は修了の認定に関する方針）</p> <p>獣医学専攻博士課程</p> <p>(1) 博士課程にあつては、所定の修業年限である 4 年以上在学し、必修 20 単位、選択 10 単位計 30 単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、かつ博士論文を提出した者について行う学位論文の審査（ルーブリック評価）及び最終試験に合格した者に、博士（獣医学）の学位を与える。</p> <p>(2) ただし、博士課程に 3 年以上在学し、定められた授業科目につき課程修了必要単位を修得し、かつ、特に優れた研究業績を上げ、指導教員を含む 3 人以上の本研究科委員会委員が推薦し、博士論文を提出した者について行う学位論文の審査及び最終試験に合格した者には、修業年限の特例により博士（獣医学）の学位を与える。</p> <p>(3) また、博士課程修了にあたっては、以下の水準に到達していることを目安とする。</p> <p>1) 幅広い視野に立った学識を有し、それぞれの専門領域における高度な学識（専門的知識と見識）並びに研究技術を習得している。さらに、その学識と研究技術に基づいて独自に課題を設定し、それを解決・展開できる能力を身に付けている。</p> <p>2) 必要に応じて他の研究者及び研究機関との連携を図ることができる能力を身に付けている。</p> <p>3) 研究成果を国際的に公表するために必要な英語でのプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力及び論文作成能力を身に付けている。</p>
日大	有	

1-3. 理念・目的・目標の公表について

1-3-1. 理念・目的・目標の学内（教職員および学生等）への公表

第 7 次相互評価時と同様に、大学院研究科の理念・目的・目標は、各大学において印刷物ならびにホームページで学内者向けに公表されている。

酪農	有	教育の目的については大学院学則に明記されており、学内向け HP より確認することができる。また、大学院生全員に配布される「大学院要覧」にも記載し、大学院生への周知も諮っている。
北里	有	学生便覧及び大学 HP で公表している。

日獣	有	教育の目的については大学院学則に明記されており、同学則は学内向け HP より確認することができる。
麻布	有	履修ガイド
日大	有	大学院要覧（入学時配布）・ホームページにて公表

1-3-2. 理念・目的・目標の学外への公表

大学院研究科の活動に関して世間に説明責任を果たすべく、様々な情報を多様な方法で公表することが求められている。また、大学院進学を目指す人材に向け、それぞれの大学院研究科で設定する理念・目的・目標を学外に向けて公表することでミスマッチのないように努める必要がある。「1-3-1. 理念・目的・目標の学内（教職員および学生等）への公表」と同様に、各大学において大学院研究科の理念・目的・目標は学外へ公表されている。第7次相互評価当時には、酪農学園大学において学外公表が実施されていなかったが、今回の相互評価までに公表された。

酪農	有	ホームページ (URL https://gra.rakuno.ac.jp/) にて公表している。
北里	有	
日獣	有	教育理念・目的・目標の学外への公表は、ホームページおよび入学案内などの配付資料での公開を行っている。
麻布	有	ホームページ、入学試験要項、ガイドブック
日大	有	ホームページにて公表

1-3-3. 理念・目的・目標がどの程度周知・徹底されているかの検証

各大学では、大学院研究科の理念・目的・目標が設定され、学内外に公表されているが、その理念・目的・目標に準ずる人材を育成していくためには、まず大学院進学後の大学院生や教育および教育の場を提供する教職員がそれらを確実に理解・把握しておく必要がある。第7次相互評価当時にはすべての大学において理念・目的・目標の周知程度は検証されていなかったが、今回の相互評価では日本獣医生命科学大学において検証されていることを確認できた。しかしながら、他の4大学においてはまったく検証されていないか不十分であると判断されることから、早急な改善が望まれる。

酪農	無	シラバス上において DP との関連を確認しているが、検証というところまでは進んでいない。
北里	無	
日獣	有	実際の実験研究計画を進める上での生命科学倫理委員会および実験動物委員会による確認と指導の実施などにより、個別の案件ごとのきめ細かな教育指導を徹底しており、ほとんどの大学院生は、日本獣医生命科学大学大学院獣医学専攻科としての理念・目的・目標を理解し、個々の研究調査活動においてそれらを周知徹底し、常に確認されている。
麻布	無	
日大	有	新入生ガイダンス時に説明

1-4. 理念・目的・目標について総合的に自己点検・評価をしてください。

各大学において、自己点検・評価では「おおむね適切である」または「適切な部分が多い」とされているが、「1-3-3. 理念・目的・目標がどの程度周知・徹底されているかの検証」については早急な改善が望まれる。現在、情報公開については第7次相互評価当時よりも高い基準で求められていることから、各大学には大学院研究科の活動に関して世間への説明責任を果たしていくために継続的な見直しと対応が求められる。

酪農	B 適切な部分が多い	情報公開等は適切におこなわれているが、周知の検証については取り組みが足りていない状況。
北里	B 適切な部分が多い	理念・目的・目標についての周知の検証はしていないが、その他は適切に行っていると考えられる。
日獣	A おおむね適切である	入学時のオリエンテーション並びに各部門での研究調査の実施にあたるチェックにおいて必ずダブルチェックを実施しておりほぼ全員が満足した結果を示している。
麻布	A おおむね適切である	「建学の精神に則り、本学学部における教育の基礎の上に、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、高い技術力及び研究遂行能力を養い、また、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与すること」を人材養成の目的とし、これを踏まえ各研究科の教育研究上の目的を定めている。これら研究科の教育研究上の目的を実現するとともに、大学が目指すべき道を明確にするため、教育理念に「地位共生系～人と動物の共生をめざして～」を掲げて、これに基づき人と動物と環境の共生の探究及び実現を目指し、社会に貢献し得る人材の育成を図っている。
日大	A おおむね適切である	公表・通知等は適切に行われているものの、検証という点については、毎年度検証するものではなく、カリキュラム変更等の際にあわせ適切性について検討する。

(2) 教育・研究指導の内容・方法と条件整備

1. 教育・研究指導の内容等について

本調査項目において、前回に比べ大学ごとに何かしらの教育・研究指導の整備をおこなっていることは評価できるが、まだ大学間で具体的に実施されている項目に隔たりが見られることから、引き続き検討・対応が必要である。

1-1. 高度専門職業人としての活動を倫理面から支える教育の実施

高度専門職業人としての活動を倫理面から支える教育の実施については、北里大学と日本獣医生命科学大学は earring の受講を義務化しており評価できる。特に日本獣医生命科学大学は、前回と違い対応を行った点は評価される点である。一方酪農学園大学、麻布大学、日本大学では実施されておらず、日本大学は前は実施していたが今回は実施していないことから改善が求められる。大学間で実施の有無があり、差が顕著であることから、全大学での実施が望まれる。

酪農	無	
北里	有	大学院生には、必ず eAPRIN の受講を義務付けて、学位取得の要件にしている。
日獣	有	大学院生には、入学後の早い段階で eAPRIN を受講することを義務付けており、eAPRIN 終了証の取得を学位取得の要件にしている。
麻布	無	
日大	無	

1-2. 実践・実務能力を醸成する教育の実施

実践・実務能力を醸成する教育の実施については、日本獣医生命科学大学は、臨床獣医学特別演習において、動物医療センターにおける一般診療および各科専門診療に従事させることで対応し、前回から大幅に改善された。一方酪農学園大学と麻布大学は特に実施されていない。全大学での実施を目指し、各大学での対応が望まれる。

酪農	無	
北里	有	
日獣	有	「主に獣医臨床系専攻の大学院生が対象となるが、シラバスの臨床獣医学特別演習（専門分野所属者は必修、他は選択）において、動物医療センターにおける一般診療および各科専門診療に従事することで実践的な知識と技術、そして経験を身につけることを設定している。」
麻布	無	
日大	有	6つの分野から構成される各領域における「特別演習」にて各大学院生の研究活動の実践に関する報告を行い、評価している。

1-3. 創造的な教育プロジェクトの実施

創造的な教育プロジェクトの実施については、日本大学が6分野における「特別講義」にて実施を始めた点は前回から改善された。酪農学園大学は、低学年時にレビューやセミナーなどで対応し、北里大学は大学の理念・建学の精神に基づき行われている。日本獣医生命科学大学は、特別なプログラムは設けていないが、特別講義という形で取り入れる方向で検討中とのことであった。麻布大学は特に実施しておらず、対応が望まれる。

酪農	有	低学年時に各人レビューセミナーを行い、研究テーマの設定や創造的な研究に関する集団指導の場としている。
北里	有	建学の精神に基づき行っている。
日獣	無	創造的な教育プロジェクト教育のための教育プログラムは特に設けていないが、今後社会環境の要請に応じて特別講義として取り入れる方向を検討したい。
麻布	無	
日大	有	6つの分野から構成される各領域における「特別講義」にて各大学院生の研究計画に関する報告を行い、評価している。

1-4. 学部教育との接続・連携の整備

学部教育との接続・連携の整備については、酪農学園大学は、前回は学部との連携は整備

されていた体制が今回はなくなっていた点は、改善が必要と思われる。北里大学と麻布大学は前回から継続して整備されていた。日本大学は、「特別講義」という形で実施し前回から改善された。全体として改善されており評価でき、今後も継続的な改善が求められる。

酪農	無	
北里	有	大学院生の学部教育への参画（TA・RA）を実施している。
日獣	無	学部教育との接続・連携の整備は特に項目を設けていないが、今後現在進めている学部でのコアカリを中心とした教育改革と関連づけ取り入れる方向を検討したい。
麻布	有	大学院に進学を希望する学生に対して大学院授業科目の早期履修制度
日大	有	6つの分野から構成される各領域における「特別講義」にて実施している。

1-5. キャリアデザイン教育の実施

キャリアデザイン教育の実施については、酪農学園大学は前回同様実施しておらず改善が必要である。北里大学は大学の理念・建学の精神に基づき実施し、日本獣医生命科学大学は独立したキャリアデザイン教育を設けていないが、今後検討する方向であること、麻布大学はオリエンテーション時にプレFDとして実施し、日本大学も「特別講義」という形で実施しており、前回5大学中4大学が実施していなかったが、今回は3大学が実施しており改善がみられた。今後も全大学の実施に向け継続的な改善が求められる。

酪農	無	
北里	有	建学の精神に基づき行っている。
日獣	無	キャリアデザイン教育は特に独立して設けていないが、今後社会環境の要望に従い取り入れる方向を検討したい。
麻布	有	オリエンテーション期間にプレFDを実施
日大	有	6つの分野から構成される各領域における「特別講義」にて実施している。

2. 教育・研究上の配慮等について

本調査項目において、各研究科も研究費の配分、学会発表や論文投稿料などの配慮など適切に対応されていると考えられる。社会人、外国人留学生などへの対応は、各研究科ごとに差があり、一部では不十分な点もみられるため早急な改善が必要である。複数教員による指導体制も概ね適切に対応されているが、役割分担が不明確な研究科もあり、明確化が今後の課題である。研究分野等の変更希望への対応が行われていない研究科もあり、今後の対応が望まれる。

2-1. 大学院学生の所属教室（研究室）への配分研究費

大学院学生の所属教室（研究室）への配分研究費については、前回同様に全大学で研究費は配分されているが、大学によりその額はさまざまであった。

酪農	有	本学獣医学研究科においては博士課程 400,000 円(後期入学者 200,000 円)、修士課程 279,000 円(後期入学者 139,500 円)の研究指導費が配分される。この予算は大学院生の研究に使用できるが、指導教員の許可なく使用することはできない。また、大学院
----	---	--

		教員の研究活動支援・大学院生指導のため大学院生1人あたり指導教員には100,000円（博士・修士）が配分される
北里	有	所属研究室へ一人当たり年間20万円の研究費を配分している。
日獣	有	獣医学専攻博士課程及び獣医保健看護専攻博士後期課程大学院生に対しては1名につき年間49万円、獣医保健看護学専攻博士前期課程大学院生に対しては1名につき年間34万円を配分している。また、さらに大学院生の配属されている教室については、大学院特別設備整備費として一定額の補助金が設定されている。
麻布	有	所属研究室に大学院経費として獣医学専攻大学院学生1名につき、年間480,000円を配分する
日大	有	所属する大学院生の人数に従って適切に配分されている。

2-2. 大学院学生の研究成果発表の際の学会発表および論文投稿料などの費用への配慮

大学院学生の研究成果発表の際の学会発表および論文投稿料などへの費用への配慮については、前回同様に全大学で対応されているが、北里大学は、国内や海外での発表に対しても補助を行うなど細かに設定されている。日本獣医生命科学大学は論文審査料の補助は特筆すべき点であり、麻布大学は、学会参加・発表・調査研究などが配慮され、さらに女子学生に対しては別に支援をしている。日本大学も大学院研究経費から支出することが可能であるとのことで、全大学とも様々な形で実施しているが主に学会発表についてのものが多い、近年論文審査料は高騰していることから、論文審査料への対応も明確にする必要がある。

酪農	有	研究指導費や研究科特別経費として配分されており、そこから研究成果発表費用を支出することができる。
北里	有	大学院学生の学科会発表及び論文投稿料などの費用は、大学院学生の各回出席補助に関する申し合わせ事項に基づき、また国内・国外の学会に出席する場合は研究科が別途補助している。
日獣	有	本学大学院生、大学院研究生及び大学院特別研究生が筆頭著者である、学術論文あるいは総説1報につき、20万円以上のAPCを補助対象に年間80万円の予算で補助を行っている。
麻布	有	学会参加費及び旅費の助成（旅費年間1人当たり270,000円、①学会発表：270,000円以内 ②学会参加：67,000円以内 ③調査研究：270,000円以内、①②③全て合わせて年間：270,000円以内）のほか、研究環境のダイバーシティ実現を目標とした環境整備の一環として、将来科学技術分野で活躍する意欲のある女子学生の育成を目的とした支援として、大学院女子学生フェロシップによる、論文の校閲費用と投稿費用の助成がある
日大	有	大学院研究経費から支出が可能である。

2-3. 非獣医系課程修了者に対する教育研究指導における配慮

非獣医系課程修了者に対する教育的指導における配慮については、前回同様全大学で特別な配慮は行われていない。今後配慮する必要があるかどうかは検討課題にいれながら、対応を検討する必要がある。

酪農	無	
北里	無	
日獣	無	非獣医系課程修了者に対する教育研究指導における配慮は特に実施していないが、専攻した研究分野において独自に実施されている。
麻布	無	
日大	無	

2-4. 社会人大学院学生に対する教育研究指導における配慮

社会人大学院学生に対する教育研究指導における配慮について、酪農学園大学は前回から改善し、eラーニングの導入、レポート提出などを行っている。日本獣医生命科学大学もオンデマンド型の動画を用いて対応しており、前回から改善された。その結果、全大学で対応しており評価できる。

酪農	有	遠隔講義を受けることができるようにeラーニングでの動画視聴、レポート提出を可能にしている。
北里	有	
日獣	有	獣医学専攻では、特別講義について基本的にオンデマンド型の動画コンテンツを用いることし、社会人大学院学生が講義を聴講しやすいようにしている。
麻布	有	講義について、土日を含めた個別の授業時間割での対応
日大	有	指導教員と調整し、研究活動に必要な時間を確保している。

2-5. 外国人留学生に対する教育研究指導における配慮

外国人留学生に対する教育研究指導における配慮については、酪農学園大学は、英語でのシラバス表記、講義スライドの作成などで対応し前回より改善した。日本獣医生命科学大学は、前回配慮していたが特別な配慮は行っておらず、独自に対応しているとされている。日本大学も指導教員が対応とのことだが、実際に配慮されているかどうかの確認する体制の整備が必要である。麻布大学は前回同様配慮を行っておらず対応が必要である。全体として前回より配慮する大学も増え改善が認められたが、大学によりその体制が不明確な点もあり今後改善が必要である。

酪農	有	英語でのシラバス表記、英語での講義スライドの準備などを行って対応している。
北里	有	英語での講義、もしくは英語のスライドなどで対応している。
日獣	無	外国人留学生に対する教育研究指導における配慮は特に実施していないが、専攻した研究分野において独自に実施されている。
麻布	無	
日大	有	指導教員が適切に対応している。

2-6. 大学院研究生に対する教育研究指導における配慮

大学院研究生に対する教育研究指導における配慮については、酪農学園大と日本獣医生命科学大学が前回から改善がみられた結果、5大学中4大学が配慮をし、麻布大学は特別な配慮はしていないが、学部研究生として一本化しているとのことであるから実質全大学が配慮してお

り、前回から大幅に改善された。

酪農	有	研究生 研究者として研究室に予算配分している。
北里	有	
日獣	有	大学院研究生に対する教育研究指導における配慮は特に実施していないが、専攻した研究分野において独自に実施されている。
麻布	無	大学院研究生制度はなく、学部研究生として一本化している。
日大	有	指導教員と調整し、研究活動を遂行している。

2-7. 論文博士の教育研究指導體制の整備

論文博士の教育研究指導體制の整備については、前回整備されていなかった酪農学園大学が指導體制を整備したことは評価できる。一方で麻布大学の指導體制がなくなった点は改善が必要である。また麻布大学では前回同様指導體制は整備されていない。酪農学園大学や北里大学は、一定の在籍を促すような明確な指導が行われている点は評価できる。全体としては、全大学が指導體制の整備を行うよう明確な形を示した体制の整備が必要である。

酪農	有	大学院研究生として半年以上在籍させ、研究指導している。
北里	有	大学院研究生として在籍することにより論文審査料を減額される制度を設け、研究生としての在籍を促している。
日獣	無	論文博士の教育研究指導體制の整備は特に実施していないが、専攻した研究分野において独自に実施されている。
麻布	無	
日大	有	指導教員と調整し、研究活動を遂行している。学外の研究機関への研究活動者への事務手続き対応及び論文審査の事務手続きを教務課で行っている。

2-8. 複数教員による研究指導體制

2-8-1. 複数教員による研究指導體制の実施

複数教員による研究指導體制の実施については、全大学で実施されており改善され、主指導教員(または指導教員)と副指導教員の体制が5大学中4大学で実施されている。また大学によっては予備審査、中間発表会において主・副指導教員やその他からも意見を募り指導している。全体として全大学が実施している点は評価でき、各大学での継続と改善が望まれる。

酪農	有	前述のレビューセミナーにより集団指導を実施している。
北里	有	
日獣	有	獣医学専攻博士課程及び獣医保健看護専攻博士後期課程大学院生について、主指導教員及び副指導教員によって研究指導を行っている。また、中間発表会を開催することで、主・副指導教員の他からも広く意見を募り研究指導に役立てている。
麻布	有	指導教員及び副指導教員による指導體制をとっている。
日大	有	当該大学院生と指導に関わる教員間で調整し、研究活動を遂行している。

2-8-2. 複数指導制を採っている場合の研究指導責任体制の明確化

複数指導体制を採っている場合の研究指導責任体制の明確化については、各大学も行っており評価できるが、北里大学は不明確であるため改善が必要である。

酪農	有	入学時に、主指導教員と副指導教員を決定している。
北里	有	
日獣	有	主指導教員中心に副指導教員も交えた研究指導体制を取っており、異なる視点での指導および指導教員の定年退職や疾病、事故、異動、などにより指導不能になった際に、その指導を引き継げる者として副指導教員を早期より決定している。
麻布	有	入学後に指導教員及び副指導教員を決定している。
日大	有	各大学院生に対して主となる指導教員を明確に指定している。

2-9. 研究分野（専攻・分野および指導教員）等の変更希望への対応

研究分野(専攻・分野および指導教員)等の変更希望への対応については、前回対応していた日本大学において対応がなく、北里大学は前回同様対応していないため、改善が必要である。

酪農	有	諸事情により変更する場合は、研究科長が責任者となる対応をしている。
北里	無	
日獣	有	研究分野（専攻・分野および指導教員）等の変更希望への対応は、個別の案件に対応し専攻した研究分野において実施されている。
麻布	有	指導教員、変更希望先指導教員、専攻主任、研究科長と協議の上、研究科教授会で審議・決定する
日大	無	

2-10. 中退者および単位修得後退学者（令和1～5年度）

中退者および単位修得後退学者については、前回調査から大きな変化は見られなかった。在学生数は、北里大学が少なく、他4大学は、20～30人前後であった。在籍数の年度別推移は各大学とも一定数の人数を確保していた。中退者は日本獣医生命科学に多い傾向が見られた。麻布大学を除き、数的には多くないが各大学で数名の退学者が見られた。前回調査同様、各大学は中退者・退学者については、その理由を把握し、研究・指導など体制に問題がある場合は、改善が必要である。

酪農	年度	課程博士在籍数(a)	(a)のうち中退者数 (%)	(a)のうち単位修得後退学者(%)
	R1	31	0	3.2% (1名)
	R2	27	7.4% (2名)	3.7% (1名)
	R3	28	0	0
	R4	28	14.3% (4名)	0
	R5	26	0	0
酪農	年度	課程修士在籍数(a)	(a)のうち中退者数 (%)	(a)のうち単位修得後退学者(%)
	R1	2	0	0
	R2	1	0	0
	R3	2	0	0

	R4	4	0	0
	R5	2	0	0

北里	年度	課程博士在籍数(a)	(a)のうち中退者数 (%)	(a)のうち単位修得後退学者(%)
	R1	15	1 (7%)	0
	R2	18	0	0
	R3	16	1 (6%)	0
	R4	18	1 (6%)	1 (6%)
	R5	18	2 (11%)	1 (6%)

日猷	年度	課程博士在籍数(a)	(a)のうち中退者数 (%)	(a)のうち単位修得後退学者(%)
	R1	38	5.2	2.6
	R2	30	3.3	
	R3	25		
	R4	24	4.1	
	R5	26	3.8	
	年度	課程修士在籍数(a)	(a)のうち中退者数 (%)	(a)のうち単位修得後退学者(%)
	R1	11		
	R2	7		
	R3	10		
	R4	16	6.2	
	R5	16	6.2	

麻布	年度	課程博士在籍数(a)	(a)のうち中退者数 (%)	(a)のうち単位修得後退学者(%)
	R1	28	4	0
	R2	26	3	0
	R3	22	1	0
	R4	30	0	0
	R5	29	1	0

日大	年度	課程博士在籍数(a)	(a)のうち中退者数 (%)	(a)のうち単位修得後退学者(%)
	R1	29	1	1
	R2	30	1	1
	R3	28	3	2
	R4	20	0	0
	R5	22	0	0

3. 教育交流、単位交換・単位認定等について

本調査項目において、国内での交流は進んでいると思われるが、単位互換や国外との交流はまだ不十分な点が見られ、今後、国際的な教育の交流を視野に入れ制度の整備が求められる。

3-1. 大学院間の組織的な教育研究交流の実施

大学院間の組織的な教育研究交流の実施について、前回から新たに日本大学が神奈川県内大学院学術交流協定・首都大学院コンソーシアムによる交流を開始し、4大学が実施し改善が見られた。北里大学と麻布大学も、神奈川県内の大学間で学術協定に基づき交流を実施し、広域的な協定となっている一方酪農学園大学が大学院間での交流が実施されていなかった点は改善が必要である。

酪農	無	
北里	有	
日獣	有	日本医科大学大学院医学専攻科、明治薬科大学大学院薬学専攻科と連携大学院協定を締結している。
麻布	有	「神奈川県内の大学間における学術交流協定に関する協定書」に基づき、実施している
日大	有	神奈川県内大学院学術交流協定・首都大学院コンソーシアム

3-2. 国内の大学院等との単位交換の実施

国内の大学院等との単位互換の実施については、前回に比べ実施数が減り、対応が望まれる。

酪農	無	
北里	無	
日獣	無	特に行っていない。
麻布	有	麻布大学大学院獣医学研究科の他の大学院における授業科目履修等に関わる内規による
日大	有	神奈川県内大学院学術交流協定・首都大学院コンソーシアム

3-3. 国外の大学院等との単位交換の実施

国外の大学院等との単位互換の実施もどの大学も行っておらず、制度的な課題が背景にあると考えられる。しかし将来的には国際的な教育の連携に対応することが求められる。

酪農	無	
北里	無	
日獣	無	特に行っていない。
麻布	無	
日大	無	台湾国立中興大学獣医学部 単位認定伴わない

3-4. 学外での経験・活動等の単位認定の実施

学外での経験・活動等の単位認定の実施は、5大学中3大学で実施されている点は評価できる。特に日本大学では他大学院への特別聴講制度を設けている点が特徴的である。未実施の大学もあることから、対応への検討が望まれる。

酪農	有	他大学や研究所において実施した研究成果も認めることができる。
北里	無	

日獣	有	学外での研究調査に関する指導のための単位認定は個別の案件を審査し、一部認めている。
麻布	無	
日大	有	他大学院への特別聴講制度を設けているが、令和元年度から令和5年度まで希望者なし

4. 授業方法、成績評価およびその改善等について

本調査項目において、総じて各大学がシラバスを作成し成績評価方法を明示している点は評価できる。一方でケーススタディ、ディベート、フィールドワークを考慮した授業は、大学によって差がみられ、さらなる対応が必要である。また、学生による授業評価は概ね実施されており評価できるが、未実施の大学については早急な対応が求められる。

4-1. ケーススタディを考慮した授業の実施

ケーススタディを考慮した授業の実施について、前回調査では未実施であった酪農学園大学と日本獣医生命科学大学が演習科目に取り入れ実施した点は評価でき、その結果、実施大学が2校から4校へと増え、全体としても改善が見られた。麻布大学は未実施であるが今後の対応が望まれる。

酪農	有	演習科目で取り入れている。
北里	有	
日獣	有	主に獣医臨床系専攻の大学院生が対象となるが、シラバスの臨床獣医学特別演習に含まれている。
麻布	無	
日大	有	6つの分野から構成される各領域における「特別演習」にて各大学院生の研究活動の実践に関する報告を行い、評価している。

4-2. ディベートを考慮した授業の実施

ディベートを考慮した授業の実施については、酪農学園大学と北里大学が改善し実施した結果、前回から2校増え改善が見られた。未実施の大学の対応が望まれる。

酪農	有	演習科目で取り入れている。
北里	有	
日獣	無	主に獣医臨床系専攻の大学院生が対象となるが、シラバスの臨床獣医学特別演習に含まれている。
麻布	無	
日大	有	6つの分野から構成される各領域における「特別演習」にて各大学院生の研究活動の実践に関する報告を行い、評価している。

4-3. フィールドワークを考慮した授業の実施

フィールドワークを考慮した授業の実施について、酪農学園大学は前回同様実施を継続し、北里大学が一部の講義科目で実施して対応しており、2大学の実施が見られた。一方前回実施していた日本大学は実施をやめていること、日本獣医生命科学大学、麻布大学は未実施である

ことから、何らかの形での対応が望まれる。

酪農	有	研究実験で取り入れている。
北里	有	
日獣	無	個別の研究調査などに対応した形で行っているため、特に実施していない。
麻布	無	
日大	無	

4-4. シラバスの作成

シラバスの作成については、前回同様に全大学で作成しており評価できる。大学によってはHPでの公開も行われている。

酪農	有	シラバスを作成している。
北里	有	
日獣	有	獣医学専攻並びに獣医保健看護学専攻の各分野および授業科目に従って毎年シラバスを作成している。
麻布	有	シラバス作成要綱に則り作成し、ホームページにて公開
日大	有	ホームページにて明示。

4-5. 成績評価方法の明示

成績評価方法の明示については、前回同様に全大学で、シラバスに明示することにより対応しており評価できる。

酪農	有	シラバスに明示している。
北里	有	
日獣	有	シラバスに従って実施された授業成績は、優、良、可、不可の各段階評価を行い学生個人に通知している。
麻布	有	シラバスに明記している
日大	有	シラバスにて明示

4-6. 学生による授業評価の実施

学生による授業評価の実施については、北里大学と日本大学が前回未実施であったが、毎年度または学期ごとに実施するようになり改善がみられた。また北里大学、日本獣医生命科学大学、麻布大学は、その結果を担当教員または大学院生へフィードバックを行っている点は評価できる。日本大学はフィードバックが不十分であり、酪農学園大学は授業評価を実施していないため、改善が必要である。

酪農	無	
北里	有	
日獣	有	学生による授業評価をFD委員会が管理して実施し、データを整理、評価後担当教官へ定期的にフィードバックしている。
麻布	有	大学院学生に対して年度始めと修了時に授業評価を実施し、その結果を研究科長が大学院学生にFD研修会を通じてフィードバックしている

日大	有	学期末に実施。1科目につき1度実施。
----	---	--------------------

5. 臨床系専攻における附属動物病院内での教育研究指導と研究への配慮について

本調査項目において、各大学ともに動物病院での教育研究指導や、臨床研修と研究の両立についてそれぞれの方法で配慮しており、継続的な取り組みが評価できる。酪農学園大学と北里大学は施設利用を通じた支援がある点は特徴的である。日本獣医生命科学大学は研究優先となっており、臨床研修とのバランスについては、今後必要となった場合の対応が望まれる。

5-1. 教育研究指導の配慮

教育研究指導の配慮について、対応は大学ごとに異なっているものの、指導教員を中心とした体制で前回同様全大学において実施されており評価できる。

酪農	有	教育研究指導に関する配慮については指導教員に任されている。
北里	有	
日獣	有	大学院生の診療参加については、シラバスの臨床獣医学特別演習に含まれているが、個別の研究を優先している。
麻布	有	個別に対応している
日大	有	研究指導の教員のもと適宜対応

5-2. 臨床研修と研究を両立させるための配慮

臨床研修と研究を両立させるための配慮については、酪農学園大学、北里大学は、施設利用についての配慮もあり評価できる。麻布大学と日本大学は指導教員のもと柔軟に対応し、日本獣医生命科学大学は診療参加が特別演習に含まれるが、研究を優先しているとのことである。各大学では対応が異なるが、それぞれの大学にあった対応として評価できる。

酪農	有	学内の附属動物医療センター内では臨床研修だけでなく、研究活動に取り組めるよう、施設利用できる配慮をしている。
北里	有	
日獣	有	大学院生の診療参加については、シラバスの臨床獣医学特別演習に含まれているが、個別の研究を優先している。
麻布	有	各指導教員の判断で配慮がなされている
日大	有	

6. 国際化について

本調査項目において、一部の大学は世界水準を目指す積極的な取り組みが見られる一方で、依然として国際化の整備が不十分な大学もあり、国際化への対応が大学間で二極化している。それぞれの大学の事情もあると思うが、今後この差を縮めることが課題である。

6-1. コミュニケーション手段のための配慮

コミュニケーション手段のための配慮については、酪農学園大学と北里大学は、特別なプログラム(講義)を実施しており、積極的な対応が見られる。一方日本獣医生命科学大学、麻布大

学、日本大学は特別な配慮はしていない。その結果、前回と比べ1大学が減り2大学のみ配慮しているとの結果となり、未実施の大学は改善が望まれる。

酪農	有	獣医学・獣医保健看護学専門教育における英語論文の読み書き、英語でのコミュニケーションを伴う講義・実習形式での学習に必要な能力を身に付けることを目標に、獣医学群学生は2年次に”English for Veterinary Skills”を履修する。更にタイ・カセサート大学との単位互換プログラム派遣学生を含めた希望者に対して獣医英会話講座を開設し、獣医英語を用いたコミュニケーションを目標とする学びの場を提供している。
北里	有	
日獣	無	国際化に対応するための語学スキルアップは、基本的に各個人に任されているため、共通の語学教育やコミュニケーション・スキルための授業は準備していない。
麻布	無	
日大	無	

6-2. 外国人研究者の受入れの環境整備

外国人研究者受入れの環境整備については、酪農学園大学、北里大学、日本獣医生命科学大学は、奨学金制度などにより、学費や生活費の免除、サポート体制を整えている。また酪農学園大学や北里大学は宿泊施設の提供も行っており、3大学は積極的な支援の姿勢が見られる。麻布大学は前回同様特に受入れの環境整備は行っておらず、日本大学では前回は行っていたが今回未実施とのことであり、今後対応が望まれる。

酪農	有	社会連携センター国際交流課では、海外にある学術交流協定機関との研究者交流促進のため「海外招聘研究者」を毎年募集・採用している。招聘研究者には毎月生活費を支給し、宿泊場所（借り上げ民間アパート）を提供している。また同課では「酪農学園大学外国人研究員等受入規程」に基づき海外からの研究者受入れを支援し、学内手続きや滞在中の生活全般の相談・サポートを実施している。
北里	有	
日獣	有	国際交流協定の結ばれた大学からの留学者、研究者については、国際交流委員会の国際交流協定に基づいた滞在費、宿泊所、大学院入学費用、学費、学位審査費用等の免除などのサポート制度があり、既に毎年多くの外国からの研究者などを長期・短期を問わず受け入れている。
麻布	無	
日大	無	

6-3. その他の特記すべき国際交流

その他の特記すべき国際交流については、3大学が積極的な国際交流が行われており評価できるが前回より1大学が減っていることから、より積極的な交流が望まれる。個々の大学をみると、酪農学園大学は、2024年12月にヨーロッパ獣医学教育機関協会(EAEVE)の認証を取得した。さらにカセサート大学との単位互換制度、Purdue大学との学術交流、地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS)による国際共同研究、JICAを通じた国際協力(協力隊派遣大学連携、研修員受入事業)にも参加しており、積極的な国際化の取り組みが評価できる。北里大学は、米国2大学、中国4大学、タイ1大学と国際交流協定を締結し、外国人大学院生

を受入れている。日本獣医生命科学大学は、オーストラリア・クィーンズランド大学とは獣医学科教育及び研究機関での相互交流を活発化するための協定強化を進めており、相互に授業料免除、単位の一部認定、様々な補助金などの制度の拡充を図っている点は高く評価できる。

酪農	有	獣医学群では、2024年12月にヨーロッパ獣医学教育機関協会（EAEVE）の認証を取得し、獣医学教育の質の保証と国際化のための取組を進めている。またタイ王国カセサート大学との単位互換制度、米国 Purdue 大学との学術交流の継続を主軸に、学生の国際感覚を養い獣医学教育の国際化推進に取り組んでいる。また地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）による国際共同研究、JICA を通じた国際協力（協力隊派遣大学連携、研修員受入事業）への貢献や、同じく JICA 制度を活用した大学院長期研修員受入等にも大学全体で取り組んでいる。
北里	有	
日獣	有	オーストラリア・クィーンズランド大学とは獣医学科教育及び研究科間での相互交流を活発化するための協定強化を進めており、相互に授業料免除、単位の一部認定、様々な補助金などの制度を拡充する過程にある。
麻布	無	
日大	無	

7. 修了認定、学位授与等について

本調査項目において、各大学はいずれも学位授与の基準や審査体制を整備し、透明性・客観性を確保する仕組みを整えている。一方で、外国人留学生への配慮や学外委員の参加など、対応に差があり十分とはいえない部分もある。論文博士申請者の研究歴や学術論文の基準については、大学ごとに厳格さに差が見られ、また、標準修了年限短縮の基準や論文審査料の設定にも幅があり、運用の公平性という点で課題が残る。今後は、国際性や公平性をより重視した統一的かつ透明性の高い制度設計が求められる。

7-1. 学位授与者数（令和1～5年度）

学位授与者数については、博士課程学位取得者は、各大学とも前回調査と大きな違いはなく、毎年度一定数の学位取得者を輩出している。論文博士取得者数は、前回調査にくらべ北里大学と日本獣医生命科学大学で若干の減少が見られた。外国人の学位取得者は、前回調査は課程および論文博士を合わせ27名であったが、今回は12名と減少していたが2019～2023年はコロナ禍であったことも影響していると思われる。

酪農	年度	博士課程学位取得者数(a)	(a)のうち外国人数	論文博士取得者数(b)	(b)のうち外国人数
	R1	8	0	1	0
	R2	6	1	1	0
	R3	9	0	5	0
	R4	5	3	2	0
	R5	4	2	0	0
年度	修士課程学位取得者数(a)	(a)のうち外国人数			
R1	1	0			

	R2	1	0
	R3	0	0
	R4	2	0
	R5	1	0

北里	年度	博士課程学位取得者数(a)	(a)のうち外国人数	論文博士取得者数(b)	(b)のうち外国人数
	R1	2	0	0	0
	R2	8	1	0	0
	R3	3	0	0	0
	R4	2	0	0	0
	R5	5	0	1	0

日猷	年度	博士課程学位取得者数(a)	(a)のうち外国人数	論文博士取得者数(b)	(b)のうち外国人数
	R1	9		4	
	R2	9	1	4	
	R3	9	2	1	
	R4	5		1	
	R5	5	1	2	
	年度	修士課程学位取得者数(a)	(a)のうち外国人数		
	R1	7	1		
	R2	4			
	R3	3			
	R4	7			
	R5	7			

麻布	年度	博士課程学位取得者数(a)	(a)のうち外国人数	論文博士取得者数(b)	(b)のうち外国人数
	R1	7	1	2	0
	R2	5		2	0
	R3	3		3	0
	R4	8		1	0
	R5	5		3	0

日大	年度	博士課程学位取得者数(a)	(a)のうち外国人数	論文博士取得者数(b)	(b)のうち外国人数
	R1	4	-	1	0
	R2	5	-	1	0
	R3	8	-	0	0
	R4	8	-	2	0
	R5	5	-	0	0

7-2. 学位授与の基準

博士課程の学位授与の基準について、前回調査と大きな違いはなく、基本は必修の単位取得、原著論文の公表となり、その基準は各大学で異なっているが、どの大学も前回と比べ大きな変更はなく明確な基準が定められており評価できる。修士課程は設置している大学は博士課程同様、明確に基準を定めている。

7-2-1. 博士課程

酪農	有	英語原著論文 First Author として 1 報
北里	有	
日獣	有	博士課程を修了するためには、獣医学専攻では 4 年以上、獣医保健看護学専攻では 3 年以上在学し、所定の授業科目について獣医学専攻では 30 単位以上、獣医保健看護学専攻では 12 単位以上修得し、必要な研究指導を受け、かつ、研究科の行う博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。これに加え、学位論文の全文又は一部が既に公表されていること、又は学会誌等に投稿し受理済みであること。
麻布	有	①獣医学専攻博士課程にあつては必修 20 単位、選択 10 単位計 30 単位以上を修得した者 ②学位授与に係る評価基準の要件を満たしている者。
日大	有	①本学大学院獣医学研究科博士課程修了（予定）者 ②博士申請論文発表会における研究発表 ③原著論文（筆頭著者） 1 編以上

7-2-2. 修士課程

酪農	有	関連学会等の講演要旨写し等
北里	無	
日獣	有	修士課程課程を修了するためには、2 年以上在学し、所定の授業科目について 30 単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、研究科の行う修士論文の審査及び試験に合格しなければならない。
麻布	無	
日大	無	修士課程を設置していない

7-3. 対象となる学術論文の基準

対象となる学術論文の基準は、前回調査と同様に博士課程においては全大学が明確に基準を定めており評価できる。修士課程は明確な基準が定められておらず改善が必要である。

7-3-1. 博士課程

各大学の博士課程における学術論文の基準は、酪農学園大学は、査読付き英語原著論文が 1 報（短報の場合は 2 報）、北里大学は、査読付き学術誌に英文または和文の論文を 1 報以上、日本獣医生命科学大学と麻布大学は、全文又は一部公表済みであること、日本大学は、学協会誌またはそれと同等の学術雑誌へ 1 報以上となっている。

酪農	有	レフェリー制度を有する英文学術雑誌
北里	有	
日獣	有	全文又は一部が既に学会誌等に公表されていなければならない。
麻布	有	全文又は一部が既に学会誌等に公表されていなければならない。
日大	有	学協会誌またはそれと同等の学術雑誌

7-3-2. 修士課程

修士課程は特に定められておらず、改善が必要である。

酪農	無	
北里	無	修士課程を設置していない
日獣	無	学会誌の公表等については特に規定されていない。
麻布	無	修士課程を設置していない
日大	無	修士課程を設置していない

7-4. 学位審査における主査、副査の構成、人数、資格についてご記載ください。

学位審査における主査、副査の構成、人数、資格については、各大学とも主査1名、副査は、酪農学園大学は3名以上、北里大学は3名以上、日本獣医生命科学大学は4名、麻布大学は3名以上、日本大学は2名以上となっている。前回調査で主査が主指導教員であった酪農学園大学と北里大学は審査委員に主指導教員は含まないとし改善され、また北里大学は、副査は1名以上学外から定められている点は公平性の点においても評価できる。麻布大学では3人以上は他の研究科の教授とし、日本大学は研究科内の教授のみの構成となっている。全体として審査委員の構成、資格が厳格に定められているが、公平性という観点からも審査委員に主指導教員を含まないなどの体制の改善が望まれる。

酪農	博士課程：当該専攻担当及び関連専攻担当の研究科委員から3名以上の審査委員を選出し、うち1名を主査とする。修士課程：3名以上の審査委員（主指導教員は除く、副指導教員、学外専門研究者等は可）
北里	主査1名、副査3名以上をもって構成されるが、指導教員は原則として審査委員にはならない。また副査の内1人以上は、他大学院又は研究所等の教員等をもって委員に充てるものとする。
日獣	学位審査にあたって主査は、獣医学専攻及び獣医保健看護学専攻の基準に従って研究科委員会が定めた適合資格を有するものに限られる。次いで副査については合資格および適合資格を有するもので構成され、通常は主査を含め博士の審査では5名、修士の審査では3名構成される。
麻布	審査委員会は、教授1人以上を含む研究科教授会構成員及び他の研究科教授会構成員3人以上をもって構成する。ただし、審査委員のうち1人以上は当該研究科教授会構成員とする
日大	主査1名、副査2名以上、資格は研究科の教授

7-5. 学位審査の透明性・客観性を高める措置

7-5-1. 学位審査の透明性・客観性を高める措置

学位審査の透明性・客観性を高める措置として、前回より改善しすべての大学で対応されていることは評価できる。公开发表、中間発表などの発表会を行う大学が多い中、日本獣医生命科学大学は、審査基準を得点化し合格点を設け評価を行っている点は評価できる。

酪農	有	公開論文があることと公开发表による審査
北里	有	
日獣	有	論文審査会についてはプレゼンテーションにおいては学内の教員、学生に対してオープンにしている、また、令和2年4月より学位論文審査基準を制定し、論文の評価項目に対して得点化し、合格点を儲け評価を行っている。
麻布	有	3, 4年次に公開の中間発表(通常8月)を行い、最終論文発表(通常2月)を公開にて実施している。また、その際、審査委員(主査、副査)以外の教員からも評価を受ける仕組みになっている。学位授与に係る評価基準に則り評価を行っている。
日大	有	論文発表会の実施

7-5-2. 学位審査における学外の研究者の参加

学位審査における学外の研究者の参加は、日本大学を除く4大学は審査委員としての参加を認めており、北里大学は副査として必ず1名以上の参加を定めている。日本大学は、論文発表会においては参加可能としており、日本大学だけ限定的である点は改善が必要である。

酪農	有	学外専門研究者が、学位論文審査の副査として参加することができる。
北里	有	
日獣	有	審査委員会は通常、博士の審査は主査を含む5名、修士の審査は主査を含む3名で構成されるが、このうち学外からの委員の参加は審査分野に精通し本学大学院教員資格に照らし合わせて、合資格以上の者を学内委員の半数に満たない数で参加させることができる。
麻布	有	獣医学研究科教授会構成員と同等の資格を持つ、学外の大学院、研究所等の教授等を審査委員会委員に加えることができる
日大	有	研究に携わった方は論文発表会に参加可

7-6. 学位審査における外国人留学生への配慮

学位審査における外国人留学生への配慮としては、前回と結果は変わらず継続した改善が必要である。配慮している大学は、英語での発表や英語論文の作成などが行われ、日本獣医生命科学大学では学位審査費用などの減免する措置もあり、一定の配慮が見られ評価できる。麻布大学は特に配慮されておらず今後の対応が望まれる。

酪農	有	日本語または英語での発表を可としている
北里	有	
日獣	有	外国人留学生については申請された書類を基に学位審査費用などを減免することができる。
麻布	無	
日大	有	英語論文での作成及び審査

7-7. 課程修了認定方法の明示

課程修了認定方法の明示について、全大学が規定を作成し、要項、学則、学生便覧、HP、履修ガイド、オリエンテーションなどで明示しており評価できる。

酪農	有	<p>課程修了認定のための博士（獣医学）の学位論文に関する取扱要領において、課程修了認定方法を明示している。審査委員は、獣医学研究科委員から主査1名及び副査2名以上を選定し、審査に必要があるときには、当該研究科以外の教員または専門学者を審査委員として加えることができる。学位論文の提出期日および提出物についても、要領に明記されており、その内容は以下のとおりである。</p> <p>----</p> <p>課程修了認定のための博士（獣医学）の学位論文に関する取扱要領（抜粋）</p> <p>（学位論文の提出期日）</p> <p>第3条 前条第1項により4年次末までに学位の授与を受けようとする者は、それより3か月前までに指導教員を通じて、学位論文審査に要する提出物を本研究科長に提出しなければならない。</p> <p>2 前条第2項により3年次末または4年次前期末までに学位の授与を受けようとする者は、それより5か月前までに所定の書類（様式1～3）に優れた研究業績を添え、指導教員を通じて本研究科長に申請し、認められた場合は学位授与日より3か月前までに指導教員を通じて、学位論文審査に要する提出物を本研究科長に提出しなければならない。</p> <p>（学位論文審査に要する提出物）</p> <p>第4条 学位論文審査に要する提出物は以下のとおりとする。なお、提出物については(1)～(5)は紙媒体1部及び電子データ、(6)は紙媒体で学位論文に関するもの全てとする。</p> <p>(1) 学位論文審査申請書 (2) 学位論文 (3) 学位論文要旨 (4) 論文目録 (5) 参考論文</p> <p>レフェリー制度のある学術雑誌に公表済みあるいは掲載を許可されたもので、申請者が筆頭著者の原著論文（英文）1篇以上（短報では2篇以上）とする。申請者が筆頭著者でない論文の内容を学位論文に使用する場合には、共同研究者の承諾書（様式4-1あるいは様式4-2）を添付するものとする。</p> <p>(6) 研究ノート</p> <p>2 研究不正を防止し、論文の根拠となる成績を記録するための研究ノートの取扱いについては別に定める。</p>
北里	有	
日獣	有	<p>全教員及び全大学院生に対して大学院獣医生命科学研究科関係諸規定を送付しており、その中にある規定等で確認をすることができる。</p>
麻布	有	<p>履修ガイド、入学者オリエンテーション、在学ガイダンスにおいて周知している</p>

日大	有	所定の授業科目を履修して、基準となる単位数以上を修得することとともに、所定年限内に研究科が行う博士論文の審査及び試験に合格した者に博士（獣医学）の学位を授与する。
----	---	---

7-8. 標準修了年限短縮による修了認定

標準年限短縮による修了認定について、すべての大学に規定が定められており、特に酪農学園大学、麻布大学、日本大学は、IF、論文数などが明確に規定されより厳格であり評価できる。他大学は比較的柔軟な規定となっているが、今後は明確な基準へと対応への改善が望まれる。

酪農	有	在籍中に筆頭著者として掲載を許可された全ての論文の Impact Factor の総計が 4.0 以上の場合には、早期修了可
北里	有	
日獣	有	獣医学専攻の標準的な修了年限は 4 年、獣医保健看護学専攻博士後期課程は 3 年、獣医保健看護学専攻博士前期課程は 2 年であるが、非常に優れた成果を専攻委員会が審議の結果、認めた場合は、それぞれの専攻において、修了年限を 1 年間短縮することができる。
麻布	有	①3 年以上在学し、定められた授業科目につき課程修了必要単位を修得し、かつ、特に優れた研究業績を上げ、指導教員を含む 3 人以上の本研究科教授会委員が推薦した者は、論文を提出し、学位の授与を申請することができる ②特に特に優れた研究業績とは、学位論文の基礎となる学術論文(単著論文又は共著論文のうち、学位申請者が筆頭著者)が、次の条件を満たすものとする。 イ Current Contents に収録されている雑誌又は Pub Med (Medline) で検索できる学術雑誌に掲載又は受理されたものを 5 編以上有すること。 ロ Current Contents に収録されている雑誌又は各専門領域においてそれらに準ずる評価の高い学術雑誌等に掲載又は受理されたものを 2 編以上有し、かつ、学位を申請する前年度の Journal Citation Reports、SCI でインパクトファクターが総計して 5 以上有すること。ただし、イ又はロの学術論文のうち、獣医学専攻博士課程にあつては 1 編、動物応用科学専攻博士後期課程にあつては 2 編、本研究科又は博士後期課程に入学前 1 年以内に発表したものを含むことができる。
日大	有	「日本大学大学院生物資源科学研究科博士後期課程・獣医学研究科博士課程の標準修業年限短縮に関する内規」に則り審査員会を設置して審査する。 獣医学専攻内の基準としては以下の通り； Journal of Citation Reports (JCR) または PubMed に収録されている英文の論文で、下記のア、イ、ウのいずれかを満たすこと。新規の Impact Factor (IF) 値の付いていない雑誌は対象としない。 ア 筆頭著者論文数は 5 編以上（ただし、1 編以上の原著論文を含むこと。） イ 筆頭原著論文数 3 編以上 ウ 筆頭著者論文の掲載誌の掲載時または最新 5 年間の総 IF 値が 5 以上。

7-9. 論文博士申請者の研究歴の基準

論文博士申請者の研究歴について、どの大学も一定の基準を設けている点は評価できる。総じて 5 年以上の研究歴を基準とする大学が多いなかで、麻布大学はより細分化して定めている。

日本大学は、1年以上大学院研究生として在籍し指導を受ける点は他大学と違う特色がある。

酪農	有	論文提出による博士（獣医学）の学位授与に関する取扱要領（以下は抜粋）において、次のように定められている。 第3条 前条に定める獣医学に関する研究歴とは、次の各号の一に該当する期間、研究に従事したことをいう。 (1) 大学において、獣医学に関する専任教員として研究に従事した期間 (2) 大学院獣医学研究科を退学した者は、大学院に在学した期間 (3) 大学および大学院において、獣医学を専攻する研究生として在学した期間 (4) 本研究科委員会の認める研究機関において、専任職員として研究に従事した期間 (5) 前号に定めた研究機関に所属していない場合でも、学術論文、学会発表等により研究活動を行っていたことが証明される場合にはその発表を行った当該年度（暦年） (6) その他、本研究科委員会が、前各号と同等以上と認める方法により研究に従事した期間
北里	有	
日獣	有	獣医学専攻：研究歴5年以上、獣医保健看護学専攻：研究歴4年以上
麻布	有	(1) 大学院修士課程修了者 5年以上 (2) 6年制大学学部卒業生 5年以上 (3) 4年制大学学部卒業生 7年以上 (4) 旧制大学学部卒業生 6年以上 (5) 旧制専門学校卒業生 8年以上 (6) 短期大学卒業生 9年以上 (7) 前各号以外の者で研究歴15年以上に達し、かつ、研究科教授会の意見を聴いて、研究科長が認めた者 (8) 獣医学以外の生物系(薬学を含む。)学歴及び研究歴に関して第1号から第6号までの一に該当し、かつ、研究科教授会の意見を聴いて、研究科長が資格ありと認めた者 (9) 本学獣医学研究科研究生として在籍した期間については、第1号から第8号までの規定により取り扱う。 (10) 外国の大学院の修士課程修了者、大学学部卒業生及び短期大学卒業生については、第1号から第3号及び第6号に準じる
日大	有	別に定める資格を有する指導教員の下で、1年以上大学院研究生としてその指導を継続して受け、かつ申請時に在籍しているものとする。

7-10. 論文審査料（課程博士、論文博士、学内外等に区分して記載）

論文審査料については、大学間で差があり、4大学の課程博士は審査料無料、論文博士が20～120万円と様々であった。

酪農	課程博士：審査料なし、論文博士：本学卒業の場合は50万円、本学卒業以外の場合は80万円、本学専任教職員の場合には20万円
北里	【課程博士】 (無し)

	【論文博士】 (学内) 1. 本学部専任職員 博士 (獣医学) 400,000 円 2. 1 以外の北里研究所専任職員 400,000 円 3. 本研究科研究生 博士 (獣医学) 400,000 円 (学外) 1. その他 博士 (獣医学) 1,200,000 円
日獣	課程博士：80,000 円、論文博士 200,000 円、論文博士 (本学大学院研究生として在籍していない者) 800,000 円
麻布	論文博士のみ論文審査料が必要となる。内訳は、論文予備調査料 200,000 円、論文審査料 500,000 円
日大	課程博士 0 円、論文博士 20 万 (学内外等含む)

8. 修了者の進路について

本調査項目において、進路指導の「量」は改善されたが、その「質」と「方向性」にはさらなる強化が必要である。進路指導の充実と教育・研究分野へのキャリア支援は相互に関連しており、今後はこれらを連動させた仕組みを確立することが、獣医学分野における持続的な人材育成に資すると考えられる。

8-1. 大学院学生を対象とした進路指導の実施

大学院学生を対象とした進路指導の実施については、前回調査では2大学が未実施であったが、今回はすべての大学で進路指導が実施され、改善が見られた。酪農学園大学と麻布大学は、相談に来る院生がいれば受け付けるという受動的な支援、北里大学、日本獣医生命科学、日本大学は、指導教員、学生課、就職指導課などの組織的なサポートを行っている。全体としては、全大学で進路指導は実施されている点は評価できる一方、支援体制には大学ごとに差がある。受動的な支援を行っている大学は、今後は能動的な支援への対応が望まれる。

酪農	有	相談に来る院生がいれば受けているが、人数は少ない。
北里	有	
日獣	有	本学キャリア支援相談室にてキャリアカウンセリングを実施している。
麻布	有	ガイダンス時にキャリア支援課からの説明に加え、相談に来る院生がいれば受けているが、人数は少ない。
日大	有	研究指導教員を中心に、修了者の希望、能力、適性に基づいた進路指導が行われている。また、就職指導課による大学院生向けガイダンスや各種講座等が開催されている。

8-2. 大学教員、研究機関の研究員等への就任状況

大学教員、研究機関の研究員等への就任状況については、各大学とも修了者のうち臨床に進む学生が全大学ともに多く、次いで教育機関、研究機関の傾向が見られる。次世代の教員・研究者の育成を考えると、より多くの修了者が教育・研究機関へ進むような教育・支援体制づくりが望まれる。

8-2-1. 博士課程

酪農	有				
	「有」の場合は具体的な内容をご記載ください。				
	年度	修了者数 (内女子)	教育機関 (内女子)	研究機関 (内女子)	臨床 (内女子)
	R1	8(2)	2(0)	1(0)	4(2)
	R2	6(1)	0(0)	0(0)	5(1)
	R3	9(4)	5(4)	1(0)	3(0)
	R4	5(3)	1(1)	1(0)	1(0)
	R5	4(3)	2(1)	0(0)	0(0)

北里	有				
	「有」の場合は具体的な内容をご記載ください。				
	年度	修了者数 (内女子)	教育機関 (内女子)	研究機関 (内女子)	臨床 (内女子)
	R1	2 (1)	1 (0)	0	0
	R2	8 (4)	6 (3)	0	2 (1)
	R3	3 (1)	1 (1)	1 (0)	1 (0)
	R4	2 (0)	0	2 (0)	0
	R5	5 (1)	3 (1)	1 (0)	0

日猷	有				
	「有」の場合は具体的な内容をご記載ください。				
	年度	修了者数 (内女子)	教育機関 (内女子)	研究機関 (内女子)	臨床 (内女子)
	R1	8(1)	2(1)	0(0)	3(0)
	R2	8(6)	1(0)	1(1)	4(3)
	R3	9(3)	4(2)	1(0)	3(1)
	R4	4(3)	3(3)	0(0)	1(0)
	R5	3(0)	2(0)	0(0)	1(0)

麻布	有				
	「有」の場合は具体的な内容をご記載ください。				
	年度	修了者数 (内女子)	教育機関 (内女子)	研究機関 (内女子)	臨床 (内女子)
	R1	7(3)	1	0	0
	R2	5(2)	0	0	2(1)
	R3	3	0	0	3
	R4	8(1)	0	0	5(1)
	R5	5(2)	0	0	3

日大	有				
	「有」の場合は具体的な内容をご記載ください。				

	年度	修了者数 (内女子)	教育機関 (内女子)	研究機関 (内女子)	臨床 (内女子)
	R1	4(2)	1(0)	0(0)	2(1)
	R2	5(0)	1(0)	2(0)	0(0)
	R3	8(3)	2(0)	2(0)	0(0)
	R4	8(3)	1(0)	0(0)	4(1)
	R5	5(1)	2(1)	0(0)	3(0)

8-2-2. 修士課程

酪農	有					
	「有」の場合は具体的な内容をご記載ください。					
	年度	修了者数(内女子)	進学 (内女子)	教育機関 (内女子)	研究機関 (内女子)	臨床 (内女子)
	R1	1(0)				
	R2	1(0)				
	R3	0(0)				
	R4	2(2)				
	R5	1(1)				
北里	無					
日猷	無					
麻布	無					
日大	無					

9. 大学院学生等による教育評価等について

本調査項目において、前回調査から大きな変化は見られなかった。教育評価を行っていない大学もあり改善が必要である。また、修了者や就任先での評価は多くの大学が未実施であるため改善が必要である。

9-1. 大学院学生による教育満足度調査の実施

大学院学生による教育満足度調査の実施については、前回調査では2大学のみが実施していたが今回は3大学であった。アンケートを行っている大学は、組織的に定期的な実施を行っており評価できる。一方、未実施の大学は改善が望まれる。

酪農	無	
北里	有	
日猷	有	大学院学生による教育満足度調査は、平成24年度より学部学生と同じように全ての大学院生に対してFD委員会を介してアンケート評価を実施し公表している。
麻布	有	授業評価アンケートを実施している
日大	無	

9-2. 修了者による在学時の教育研究指導に対する評価の実施

修了者による在学時の教育研究指導に対する評価の実施については、前回調査と同様麻布大学のみであった。日本獣医生命科学大学は今後調査を実施する予定とのことであり、未実施の大学も含め改善が望まれる。

酪農	無	
北里	無	
日獣	無	修了者による評価はまだ、完全実施に至っていないが、今後調査を実施していく予定である。
麻布	有	授業評価アンケートを実施している
日大	無	

9-3. 就任先による課程修了者の評価の実施

就任先による課程修了者の評価の実施については、日本獣医生命科学大学は今後行う予定とのことであったが、前回調査同様にどの大学も実施していなかった。就任先からのフィードバックを求めることは難しい面もあるが、教育成果を検証するうえでも重要であると考えられ、対応が求められる。

酪農	無	
北里	無	
日獣	無	就任先による課程修了者の評価はまだ、完全実施に至っていないが今後全ての就任先への調査を実施していく予定である。
麻布	無	
日大	無	

10. 教育研究指導およびその評価体制について自己点検・評価をしてください。

教育研究指導およびその評価体制について自己点検・評価については、前回調査では、C評価が1大学、B評価が2大学、A評価が2大学であったが、今回は、B評価が2大学、A評価が3大学となり、改善が見られた。

酪農学園大学はフィードバックが一部不足している点、北里大学は、修了者や就任先による課程修了者による評価体制の整備が適切ではないという点から、それぞれB評価となっており、今後それぞれの問題点について改善が望まれる。残りのA評価として3大学は、自己点検・評価・公表と評価体制が確立していた。

本調査項目について、すべての大学がB評価以上を示し、教育的研究指導およびその評価体制の整備は全体として良好であると評価できる。A評価を示した大学は、フィードバックを含めた体制は高く評価できる。一方、B評価を示した大学は、評価体制の未整備やフィードバックの不足などについて、改善が望まれる。

酪農	B 適切な部分が多い	教育研究指導については規程や要領を定め適切に行われているが、それらに関するフィードバックについて一部不足している。
北里	B 適切な部分が多い	大学院生に対する教育的研究指導は適切であると思われるが、修了者や就任先による課程修了者による評価体制の整備が適切でない部分があるため整備が望まれる。

日獣	A おおむね適切である	5年間隔で教育研究指導およびその評価体制について自己点検・評価を実施し、公表している。
麻布	A おおむね適切である	毎年4月に研究指導計画書を提出させ、研究計画を見直している。また、3年次及び4年次に中間発表会を実施し、研究の進捗状況をチェックしている。それぞれの発表会後には、研究科教授会構成員から評価をフィードバックしている。 最終学年の12月には審査用論文を提出させ、論文審査委員が予備調査を実施し、承認が得られた後、論文発表会にて発表を行う。論文発表会後の評価をフィードバックし、最終論文に作成に反映させている。以上の体制から、教育研究指導においては、概ね適切であると判断した。
日大	A おおむね適切である	大学院授業担当教員、ならびに大学院生に対してアンケートを行い、改善を行う。フィードバックの仕組みを検討する必要がある。

(3) 学生の受入れ

1. 学生数

1-1. 博士課程

今回の評価では、第7次相互評価（前回評価）と異なり、大学院課程博士について日本獣医生命科学大学では獣医保健看護学専攻（博士後期課程）が加えられている。このため、日本獣医生命科学大学の評価については大学院課程博士を獣医学専攻と獣医保健看護学専攻（博士後期課程）に分け、その上で全大学の獣医学専攻を評価した。日本獣医生命科学大学の獣医保健看護学専攻（博士後期課程）については別途評価を行った。

大学院課程博士の受験者数/合格者数/入学者数について、調査5年間の合計で酪農学園大学 45/41/41、北里大学 25/25/21、日本獣医生命科学大学 30/27/26、麻布大学 39/38/36、日本大学 36/31/30であった。5年間の合格率は北里の100%以外、全ての大学で100%を下回り、86~97%であった。これは前回評価において、麻布大学を除きほとんどの大学の5年間の合格率が100%であった事と大きく異なる。前回評価では、合格率の高さから入学試験の形骸化が懸念されることが指摘されていた。一方、今回は受験生のレベルが低下した可能性は否定できないが、大学院生の確保が重要視されている中で合格率が100%を下回る大学が多かった要因の一つとして、入学試験の厳格化が進んだ可能性が考えられる。令和6年の文部科学省高等教育局からの大学院入学者選抜に関する通知で、大学院には入学者選抜の公平性・公正性の向上、透明性の改善、合否判定基準の明確化などが求められているが、これを踏まえると今後各大学において入学試験の適正化・厳格化が一層進むと考えられる。

大学院課程博士の受験者数では、調査5年間の全大学の合計は175名であり、前回評価の159名に対して16名増加している（1.1倍）。日本大学と日本獣医生命科学大学は減少したが（ともに約0.8倍）、他は同数あるいは増加している。とくに麻布大学は約1.8倍、酪農学園大学は約1.3倍伸びており、訴求力を高めるための取り組みが強化されている事が推測される。調査5年間の入学者数においても、前回評価に比べて全大学の合計で6名の増加であった。我が国において大学院博士課程進学者が減少している流れを考慮すると好ましい傾向と言えるが、これからの少子化の進行を考慮すると十分な伸びとは言いがたい。獣医学における次世代

の優秀な教育者・研究者を確保する上で、大学院の受験者数を増やすための一層の取り組みが強く求められる。

入学者数に占める他大学出身者の割合については、5年間の調査で全大学合わせて約19%であり、前回評価の約21%と比べて若干の減少が見られる。この割合は、酪農学園大学は10%程度、他大学では20%程度となっていた。内部からの進学は重要であるが、幅広く門戸を開き、バックグラウンドの異なる多様な学生を取り込むことは、大学院を活性化・高度化する上で極めて重要である。全体として他大学出身者の割合が極端に少ないわけではないが、多様な学生を確保するための一層の取組の強化が望まれる。

入学者数に占める外国人学生の割合については、5年間の調査で全大学合わせて約10%であり、前回評価の約9%とほぼ同じであった。大学院の国際化が強く求められる中、この割合は十分とは言えず、また前回評価からほとんど増加していないことは懸念する点である。前回評価では、北里大学と日本獣医生命科学大学がそれぞれ20%と17%と高い割合であったが（他は0%～6%）、今回は酪農学園大学と北里大学がそれぞれ17%と14%と高い割合であった（他は6%～7%）。一貫して高い割合を示していたのは北里大学であり、外国人学生確保のための施策が機能していると推測される。獣医学教育・研究のグローバル化に向け、また多様な学生や優秀な人材の確保の観点からも、各大学における積極的な外国人学生の取り込みと外国人学生が学びやすい環境の整備が求められる。

今回の調査で前回評価と最も異なる点は入学者に占める社会人入学者の割合であった。調査5年間の社会人入学者の割合は全大学合わせて44%と入学者の半分近くを占めており、前回評価の18%と比較して2倍以上高い割合となっている。また、この割合は大学ごとに見ても全ての大学で前回評価に比べて増加していた（1.8倍～3.7倍）。その背景として、社会経験に基づく学術的キャリアへの関心の高まり、社会経験で感じた課題を解決しようとする意識の高まり、キャリア形成や自己実現に対する雇用主の理解が進んだこと、さらに大学院講義のオンデマンド化や経済的支援などが充実し、社会人の進学を後押しする環境の整備が進んだことなどが推測される。しかしながら、この流れの背景については改めて深掘した調査が必要と考えられる。働き方やキャリアの多様化が進む中、社会人大学院生が増加することは健全な流れと考えられ、大学にはこの流れを加速するための更なる環境整備やサポートの拡充が期待される。

課程博士修了者数については、入学年度の情報がないためその評価は難しい。それぞれの大学においてコンスタントにその数が維持されており、前回評価に比べても大きな変化はないように思われる。

調査5年間の大学院研究生の数については大学間で大きな差が見られ、日本獣医生命科学大学と日本大学は他と比べて5倍以上多い結果となった。これは前回評価と同様であった。日本獣医生命科学大学と日本大学で大学院研究生が多い理由は不明であるが、区分など制度上の違いが関連しているかもしれない。前回評価の結果と比較が可能な3大学（北里大学、日本獣医生命科学大学、日本大学）については、いずれも今回の調査において大学院研究生の数は減少している。とくに日本獣医生命科学大学では5年間の総計が208名から105名へ、日本大学は131名から98名へと大きく減少している。これについて、今のところ理由ははっきりしない。社会人のリスキリングを通じたキャリアアップが求められる中、大学院研究生を受け入れることは重要と考えられ、今回の減少傾向については更なる情報の分析が必要と考えられる。

学術振興会特別研究員については、各大学一定数の採択が見られている。その中で、北里大

学は5年間の大学院入学者数が最も少ないが(21名)、学術振興会研特別研究員が5年間を通じて各年度2~3名と最も多いことは注目すべき点である。また、北里大学は前回評価から飛躍的に学術振興会研特別研究員の数が増加しており、高く評価される。各大学で大学院生の学術振興会特別研究員への採択に向けた種々のサポートが行われているが、北里大学の取り組み内容が公開されれば各大学の参考になると考えられる。

獣医保健看護学専攻(博士後期課程)については、当該課程を有しているのは日本獣医生命科学大学のみであった。獣医保健看護学専攻(博士後期課程)の存在は、今後の獣医保健看護学の高度化と発展を支える上で重要と考えられ、評価できる点である。当該課程の5年間の受験者数は令和2年度の0名を除けば各年度1~2名であり、コンスタントに志望する者がいることがわかる。他大学出身者の割合は5年間で1名と少なく見えるが、5年間の総数が6名であることを考慮すると、割合として少ないわけではなさそうである。一方、社会人入学者は5年間で3名であり、全体の半数を社会人が占めている。母数が少なく、また初めての評価のため解釈は難しいが、獣医学専攻と同様に社会人からの需要が高いのかもしれない。大学院研究生については5年間で16名と新しい専攻にしては多いように感じる。これも社会人の卒後の学び直しや研究において獣医保健看護学の需要が高いことを反映しているのかもしれない。学術振興会特別研究員については、今のところ採択実績はないが在籍者が増加すれば採択者が現れる可能性は考えられる。

	年度	受験者数	合格者数	入学者数	他大学出身者(*)	外国人(*)	社会人(*)	課程修了者数	大学院研究生	学術振興会研究員
酪農	R1	9	8	8	1	2	2	7	1	1
	R2	5	5	5	0	1	1	5	5	2
	R3	11	10	10	2	1	3	9	6	2
	R4	10	8	8	1	0	5	5	2	1
	R5	10	10	10	0	3	5	4	1	0
北里	R1	2	2	1	0	0	0	2	5	3
	R2	8	8	6	0	0	0	8	3	2
	R3	7	7	6	1	0	0	3	3	3
	R4	6	6	6	3	2	2	2	3	2
	R5	2	2	2	2	1	1	5	3	3
日獣	R1	10(2)	9(2)	8(2)	2(1)	0(0)	4(2)	9(1)	32(2)	1(0)
	R2	4(0)	3(0)	3(0)	1(0)	1(0)	1(0)	9(1)	25(3)	2(0)
	R3	6(1)	6(1)	6(1)	1(0)	1(0)	2(0)	9(0)	22(3)	1(0)
	R4	8(2)	7(2)	7(2)	0(0)	0(0)	2(1)	5(1)	22(5)	1(0)
	R5	8(1)	8(1)	8(1)	2(0)	0(0)	2(0)	5(2)	20(3)	0(0)
麻布	R1	8	7	7	3	1	3			
	R2	6	6	5	1		3			
	R3	9	9	9	5	1	6			

	R4	10	10	9			4			
	R5	6	6	6	1		3			
日大	R1	13	8	7	2	1	6	4	18	1
	R2	6	6	6	3	1	6	5	22	1
	R3	4	4	4	0	0	1	8	19	0
	R4	3	3	3	0	0	3	8	21	0
	R5	10	10	10	0	0	6	5	18	0

(*); 入学者数の中における人数

日本獣医生命科学大学の表()内の数字は獣医保健看護学専攻博士後期課程の内数

1-2. 修士課程

修士課程については酪農学園大学と日本獣医生命科学大学の獣医保健看護学専攻が対象となる。両大学の受験者数/合格者数/入学者数について、調査 5 年間の合計では、酪農学園大学 7/6/6、日本獣医生命科学大学 32/32/31 であった。5 年間で不合格者は酪農学園大学の 1 名のみであり、日本獣医生命科学大学は 5 年間 100% であった。全体の数が少ないので評価は難しいが、これらの結果は受験生が優秀だったと見ることもできる。しかし一方で、入学試験の形骸化の懸念が生じることも否定できない。令和 6 年の文部科学省高等教育局からの大学院入学者選抜に関する通知で、試験内容や出題の意図、また合否判定の基準の公開が求められているが、それに対応することで入学試験の健全性を示せると考える。両大学における他大学出身者、外国人、社会人については、いずれも少ない。これは獣医保健看護学が大学院教育における黎明期の学問であり、またこの研究分野の基盤となる獣医保健看護学の学部/学科を設置する大学が限られていることに起因すると考えられる。

	年度	受験者数	合格者数	入学者数	他大学出身者(*)	外国人(*)	社会人(*)	課程修了者数	大学院研究生
酪農	R1	1	1	1	0	0	0	1	0
	R2	0	0	0	0	0	0	1	0
	R3	3	2	2	0	0	0	0	0
	R4	2	2	2	0	0	0	2	0
	R5	1	1	1	0	1	0	1	0
北里	無								
日獣	R1	5	5	4	1	0	1	7	0
	R2	3	3	3	1	0	0	4	0
	R3	7	7	7	0	0	0	3	0
	R4	9	9	9	0	0	0	7	0
	R5	8	8	8	1	0	0	7	0
麻布	無								
日大	無								

2. 入学等について

2-1. 大学院生の受験料、入学金、授業料等の主な学納金を区分してご記載ください。

2-1-1. 博士課程

課程博士において、各大学に共通した主な納付金の区分は、受験料、入学金、授業料であり、これは前回評価と同じである。一方、今回の調査では、前回評価と比較してこれら以外の区分が減少する傾向がみられた。具体的には、酪農学園大学の諸会費、日本獣医生命科学大学の施設拡充費（平成21年より廃止）、日本大学の設備費、麻布大学の実験実習費（令和3年以降以降）が廃止された。今回、区分が新設されたのは北里大学の諸会費のみであった。

受験料と入学金は全ての大学で5年間同額であり、前回評価の平成23年と比較しても変化はなかった。また、受験料と入学金は大学間で大きな差はなかった。授業料は北里大学の450千円/年から日本大学の850千円/年と大学間で大きな差が見られ、これは前回評価と同様であった。授業料が前回評価から減少したのは酪農学園大学（715千円/年から595千円/年）であり、増加したのは麻布大学（令和3年以降に増額：600千円/年から830千円/年）であった。他の3大学では授業料に変化はなかった。

受験料と入学金を除く年間納付合計金額（授業料、諸会費、実習費等の合計）は全ての大学で5年間同額であり、北里大学の454千円/年から麻布大学の980千円/年と授業料以上に大学間での差が顕著であった。この額を前回評価の平成23年と比較すると、酪農学園大学が129千円/年の減少、日本大学が200千円/年の減少と大幅に減額しており、注目すべき点と言える。他の3大学については微増あるいは変化がなかった。少子化の進行や物価高を背景として大学経営が困難を増す中、全体として学納金の上昇が最小限に抑えられていること、また一部では大きな減額が行われていることは、大学の努力として高く評価すべきと考えられる。

	年度	受験料	入学金	授業料
酪農	R1	30,000	140,000	595,000
	R2	30,000	140,000	595,000
	R3	30,000	140,000	595,000
	R4	30,000	140,000	595,000
	R5	30,000	140,000	595,000

	年度	受験料	入学金	授業料	諸会費
北里	R1	20,000	200,000	450,000	4,000
	R2	20,000	200,000	450,000	4,000
	R3	20,000	200,000	450,000	4,000
	R4	20,000	200,000	450,000	4,000
	R5	20,000	200,000	450,000	4,000

	年度	受験料	入学金	授業料	実習費	厚生福利費
日獣	R1	20,000	200,000	680,000	150,000	20,000
	R2	20,000	200,000	680,000	150,000	20,000

	R3	20,000	200,000	680,000	150,000	20,000
	R4	20,000	200,000	680,000	150,000	20,000
	R5	20,000	200,000	680,000	150,000	20,000

麻布	年度	受験料	入学金	授業料	施設設備費	実験実習費
	R1	30,000	250,000	600,000	150,000	230,000
	R2	30,000	250,000	600,000	150,000	230,000
	R3	30,000	250,000	830,000	150,000	
	R4	30,000	250,000	830,000	150,000	
	R5	30,000	250,000	830,000	150,000	

日大	年度	受験料	入学金	授業料
	R1	35,000	200,000	850,000
	R2	35,000	200,000	850,000
	R3	35,000	200,000	850,000
	R4	35,000	200,000	850,000
	R5	35,000	200,000	850,000

2-1-2. 修士課程

修士課程が設置されているのは酪農学園大学と日本獣医生命科学大学のみである。受験料、入学金およびこれらを除く年間納付合計金額は、両大学ともに博士課程とほぼ同一の設定となっている。大学院の修士課程と博士課程の学納金が同様であることは一般的であり、とくに不自然ではない。今後、他大学にも獣医保健看護学専攻が設置されれば踏み込んだ分析ができると考えられるが、現段階ではこれ以上の評価は難しい。

酪農	年度	受験料	入学金	授業料
	R1	30,000	140,000	595,000
	R2	30,000	140,000	595,000
	R3	30,000	140,000	595,000
	R4	30,000	140,000	595,000
	R5	30,000	140,000	595,000

北里	無
----	---

日獣	年度	受験料	入学金	授業料	実習費	厚生福利費
	R1	20,000	200,000	680,000	150,000	10,000
	R2	20,000	200,000	680,000	150,000	10,000
	R3	20,000	200,000	680,000	150,000	10,000
	R4	20,000	200,000	680,000	150,000	10,000
	R5	20,000	200,000	680,000	150,000	10,000

麻布	無
----	---

日大	無
----	---

2-2. 大学院研究生等の受験料、入学金、授業料等の主な学納金を区分してご記載ください。

前回調査と同様に、麻布大学以外は大学院研究生に相当する立場が設けられている。納付金の区分は全ての大学で前回調査と同じであり、北里大学を除くと受験料、入学金、授業料で構成されている。北里大学は入学金、研究生費、研究費、入室料から構成されている。各区分の金額について、受験料は0千円から35千円、入学金は30千円から100千円と大学により多少の違いが見られた。受験料と入学金を除く年間納付合計金額についても150千円から270千円と大学により相違は見られたが、著しい違いではなかった。前回評価との比較では、酪農学園大学の授業料が100千円/年から200千円/年に増加した以外は変化がなかった。大学院研究生に関しては、各大学で運用や制度に違いがあると推測され、授業料等の大学間の評価は難しい。今回の調査では、前回評価に比べて大学院研究生の数が減少している傾向が示されているが、前回評価と納付金に大きな違いがないことを踏まえると、大学院研究生の数が減少している理由は他にあると推測される。

酪農	年度	受験料	入学金	授業料
	R1	10,000	30,000	200,000
	R2	10,000	30,000	200,000
	R3	10,000	30,000	200,000
	R4	10,000	30,000	200,000
	R5	10,000	30,000	200,000

北里	年度	受験料	入学金	授業料	研究生費	研究費	入室料
	R1	0	100,000	0	20,000	200,000	50,000
	R2	0	100,000	0	20,000	200,000	50,000
	R3	0	100,000	0	20,000	200,000	50,000
	R4	0	100,000	0	20,000	200,000	50,000
	R5	0	100,000	0	20,000	200,000	50,000

日獣	年度	受験料	入学金	授業料
	R1	20,000	55,000	240,000
	R2	20,000	55,000	240,000
	R3	20,000	55,000	240,000
	R4	20,000	55,000	240,000
	R5	20,000	55,000	240,000

麻布	無
----	---

日大	年度	受験料	入学金	授業料
	R1	35,000	50,000	150,000
	R2	35,000	50,000	150,000
	R3	35,000	50,000	150,000

	R4	35,000	50,000	150,000
	R5	35,000	50,000	150,000

2-3. 入学金等の減免措置

入学金等の減免措置については、5 大学すべてで整備されており評価できる。北里大学の詳細は不明であるが、措置の対象は基本的に出身大学の卒業生となっている。日本獣医生命科学大学については、出身大学の卒業生に加えて、学長が特別な事情があると判断した場合は入学金の免除が可能となり、評価できる点である。

酪農	有	酪農学園大学卒業生は入学金免除。
北里	有	
日獣	有	本学出身者及び研究科委員会の議を経て、学長が特別な事情があると認めた者は、入学金を免除する。
麻布	有	施設設備費は、本学を卒業した者に限り免除する
日大	有	学内者（本大学を卒業した者または本大学院を修了した者＜卒業・修了見込者を含む＞）については、入学金及び施設設備資金の納入は無し。

2-4. 学生募集方法、選抜方法および入試科目数等

大学院の選抜試験の回数は、酪農学園大学と日本大学は不明であるが、他の 3 大学では年 2 回実施している。選抜方法については、筆記試験（専門科目と英語）と口述試験が基本となっているが、前回評価と異なり酪農学園大学と麻布大学で外部英語検定試験のスコアが取り入れられている。近年、外部英語検定試験のスコアは国公立獣医系大学院や他の分野の大学院入学者選抜で利用される例が多く、時代の潮流に沿った変化と考えられる。外部英語検定試験スコアの導入は、大学院入試の客観性向上や基準の明確化に寄与するのみならず、入試業務の軽減や一定のスコアを有する学生にとっての進学先の選択肢拡大にもつながる点で、評価に値する取り組みといえる。

大学院入学者選抜において、大学による独自の制度も見られる。酪農学園大学では専門科目の筆記試験で志望専門科目以外に他の科目を 1 つ受験することを定めており、視野の広がりや評価する意図がうかがえる。また、北里大学は唯一推薦入学を設けており、一般的な試験とは異なる視点で優秀な学生を確保しようとしている。これらの独自の制度は大学が考える適切な学生を選ぼうとする姿勢であり、評価できるものである。

酪農	一般の学力入学試験は筆記試験（志望専攻科目必修。その他に選択科目を 1 つ受験）、英語スコア（TOEIC, TOEFL 等）、面接、書類（研究課題調書等）を総合的に評価する。そのほか、外国人留学生選考、社会人特別選考、学内社会人選考も実施している。
北里	募集方法はホームページでの告知及びパンフレット配布にて実施している。 ・推薦 志望専門分野指導教授の推薦を受け、獣医学系研究科長が承認した者は、学力試験を免除し、書類審査及び面接試験により入学志望者の能力・適性等を総合して判定する。 ・一般Ⅰ期 ・一般Ⅱ期 ※1

	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人特別選抜Ⅰ期 ・社会人特別選抜Ⅱ期 ※1 <p>筆記試験「志望専門分野主科目1科目・英語」、卒業論文又は修士論文等の試問、面接試験及び出願書類等により入学志願者の能力・適性等を総合して判定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人留学生特別選抜 ※ <p>筆記試験「志望専門分野主科目1科目（日本語で出題し日本語又は英語で解答）・英語（日本語で解答）」、面接試験及び出願書類等により入学志願者の能力・適性等を総合して判定する。</p> <p>※ ただし、入学志願者によっては、書類審査のみで判定することがある。</p> <p>※1 実施しない場合もある。</p>
日猷	<p>学内、学外へはホームページなどで学生募集方法を告知し、選抜は第一次と第二次の2回の入学試験をそれぞれ10月初旬および3月初旬に実施している。試験科目は外国語として英語、および専門教科として希望する専攻分野の科目および科目からの専門科目の筆記試験および口述試験により評価している。</p>
麻布	<p>募集は大学HP及び募集要項にて募集。選抜試験は、Ⅰ期、Ⅱ期の2回実施している。試験科目は、口頭試問となる。</p> <p>英語の独自試験を廃止し、以下のとおり外部英語検定試験を導入している。（一部抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部英語検定試験は、ケンブリッジ英語検定、実用英語技能検定、GTEC、IELTS、TEAP、TEAP CBT、TOEFL iBT、TOEIC L&R、TOEIC S&Wを対象とし、原則として、自宅受験型の検定試験は対象外としている。 ・求める英語のレベルは、CEFR（Common European Framework of Reference for Languages：ヨーロッパ言語共通参照枠）におけるCEFRB1以上が望ましいものとする。なお、選抜に当たっては、「英語（外部英語検定試験）」及び「口頭試問」の成績と出願書類に基づき、総合的に判断する。 ・外部英語検定試験の有効期間は、各入学試験日から過去2年以内に受験した成績のみを有効とする。 ・動物応用科学専攻博士前期課程を修了見込みの者、又は修了した者が当該課程修了後2年以内に獣医学専攻博士課程に進学する場合は、外部英語検定試験を免除する。
日大	<p>一般入試・社会人入試、書類選考・筆記試験（英語，小論文）・口述試験</p>

2-5. 学内推薦・学内選考における配慮

各大学において特筆すべき配慮は行われていない。これは前回評価と同様であった。学内の学部学生の大学院進学を積極的に後押しすることは、大学院の重要な発展戦略の一つと考えられる。一方、大学院が社会に開かれたものであるためには、入学者選抜において公平性・公正性の観点から疑義が持たれるような学内学生への特段の配慮は行うべきでないと考えられる。

酪農	有	学内社会人選考を実施。
北里	有	
日猷	無	特に設けていない。
麻布	無	

日大	無	
----	---	--

2-6. 他大学・他大学院学生の受入れのための配慮（説明会など）

前回評価では麻布大学の転入学制度以外に各大学で特段の対応は見られなかったが、今回の調査では日本獣医生命科学大学と日本大学が大学院説明会を行うことで対応しており評価できる。一方、今回の調査では麻布大学は対応が「無」となっており、転入学制度については廃止となった可能性がある。背景の異なる学生を確保することは大学院の多様化や健全な発展に重要であり、他大学・他大学院学生の受入れの促進につながる適切な制度の構築や積極的な情報発信は重要と考えられる。

酪農	無	
北里	無	
日獣	有	大学院説明会を実施しており、実施についてはホームページで告知している。
麻布	無	
日大	有	入学センターで随時相談対応，大学院説明会の開催

2-7. 飛び入学に対する配慮

前回評価では日本獣医生命科学大学が唯一「有」となっていたが、今回の調査では飛び入学に対する配慮が行われている大学はない。特に優れた資質を有する学生を飛び入学で大学院に進学させることは、その才能の一層の伸長を図る上で有益と考えられる。ライセンス教育である獣医学科の学生がその途中で大学を辞して飛び入学で大学院へ進学することは現実的には難しいが、突出した能力を有する他分野の学生や外国人のためにも飛び入学が可能となるような制度の構築や配慮が望まれる。

酪農	無
北里	無
日獣	無
麻布	無
日大	無

2-8. 社会人受入れの配慮（入試科目および入学金、指導など）

前回評価と同様に、各大学で小動物臨床獣医師、産業動物獣医師、公務員獣医師、企業・法人勤務獣医師について、それぞれで分けた対応は行っていない。酪農学園大学、北里大学、日本獣医生命科学大学では、選抜試験において一般入試と異なる対応を行っている。また、麻布大学と日本大学では、入学後の計画や時間確保についてのサポートを行っている。このように、各大学において社会人受け入れに対する配慮は行われている。とくに社会人入学者が前回評価に比べて著しく増加（全大学の合わせて 18%から 44%に増加）していることを考慮すると、麻布大学と日本大学で行われている入学後の受講計画や研究計画についてのサポートは高く評価できる。北里大学については、前回評価ではメールや休日を利用した指導、また講義に出席できなかった場合のレポート対応などの配慮などがあったが、今回の調査では削除されている。手厚いサポートを継続することの難しさを示唆しているのかもしれない。日本大学について

ては、前回評価では社会人受け入れについての説明のみの対応であったが、今回の調査ではサポートの内容が深化しており評価できる。社会人大学院生が増加する潮流を考慮すると、社会人大学院生について一層の受入れ環境の整備や配慮・サポートの拡充が望まれる。

2-8-1. 社会人受け入れの配慮（小動物臨床獣医師）

酪農	有	書類審査、面接試験のみで選抜を行う社会人選考を実施（必要に応じ、一般の学力試験同様に筆記試験を課す場合あり）。
北里	有	入試を一般入試とは分けて選抜を行っている。また本学部卒業生の場合は入学金は免除している。
日獣	有	大学院獣医生命科学研究科において学力試験を免除することが出来る。
麻布	有	入学後に受講する講義日程等のスケジュールについて、学生個別に対応し、時間割を作成している。
日大	有	指導教員との間で十分な調整を行い、必要な研究活動時間を確保し、研究を遂行している。

2-8-2. 社会人受け入れの配慮（産業動物獣医師）

酪農	有	書類審査、面接試験のみで選抜を行う社会人選考を実施（必要に応じ、一般の学力試験同様に筆記試験を課す場合あり）。
北里	有	入試を一般入試とは分けて選抜を行っている。また本学部卒業生の場合は入学金は免除している。
日獣	有	大学院獣医生命科学研究科において学力試験を免除することが出来る。
麻布	有	入学後に受講する講義日程等のスケジュールについて、学生個別に対応し、時間割を作成している。
日大	有	指導教員との間で十分な調整を行い、必要な研究活動時間を確保し、研究を遂行している。

2-8-3. 社会人受け入れの配慮（公務員獣医師）

酪農	有	書類審査、面接試験のみで選抜を行う社会人選考を実施（必要に応じ、一般の学力試験同様に筆記試験を課す場合あり）。
北里	有	入試を一般入試とは分けて選抜を行っている。また本学部卒業生の場合は入学金は免除している。
日獣	有	大学院獣医生命科学研究科において学力試験を免除することが出来る。
麻布	有	入学後に受講する講義日程等のスケジュールについて、学生個別に対応し、時間割を作成している。
日大	有	指導教員との間で十分な調整を行い、必要な研究活動時間を確保し、研究を遂行している。

2-8-4. 社会人受け入れの配慮（企業、法人勤務獣医師など）

酪農	有	書類審査、面接試験のみで選抜を行う社会人選考を実施（必要に応じ、一般の学力試験同様に筆記試験を課す場合あり）。
北里	有	入試を一般入試とは分けて選抜を行っている。また本学部卒業生の場合は入学金は免除している。
日獣	有	大学院獣医生命科学研究科において学力試験を免除することが出来る。
麻布	有	入学後に受講する講義日程等のスケジュールについて、学生個別に対応し、時間割を作成している。
日大	有	指導教員との間で十分な調整を行い、必要な研究活動時間を確保し、研究を遂行している。

2-9. 外国人留学生受入れの配慮について（受験旅費補助、面接免除、入試科目および入学金等）

酪農学園大学、北里大学、日本獣医生命科学大学では、書類選考のみで選抜が行える制度が整備されており評価できる。一方、麻布大学と日本大学では特別な制度は設けられていない。これらの内容は前回評価の時とほとんど変わっていない。大学院の国際化が求められる中で、外国人留学生受入れの配慮に進展が見られないことは憂慮すべき点である。これからの国際化を見据え、外国人留学が受験しやすい配慮や制度の拡充が求められる。

酪農	有	書類審査のみで選抜を行う外国人留学生選考を実施（必要に応じ、面接や筆記試験を課す場合あり）。
北里	有	4年間分の学費納入で5年間の履修を認める長期履修学生制度がある。外国人留学生特別選抜入学試験において、次のいずれかの条件を満たし、志望専門分野の指導教授からの事前面接結果報告書及び受け入れ承諾書のある入学志願者については、書類審査のみで合格とすることができるものとする。 ア 外国政府、日本政府又は各種団体等からの推薦を受けている者 イ 本学との学術交流協定に基づく受け入れによる者 ウ 身元保証人となる者が日本国内に在住しており、その身分が確かなものであると判断された者
日獣	有	国外からの受験に限り入試科目のみ書類審査にて行うことが出来る。
麻布	無	
日大	無	

2-10. 定員管理の対応

北里大学、日本獣医生命科学大学、日本大学では定員管理の対応が行われている。前回評価では日本獣医生命科学大学のみが定員管理の対応を行っていたため、全体として適切な定員の管理が進んだと考えられ評価できる。一方、酪農学園大学と麻布大学は定員管理の対応が前回評価と同様に「無」となっている。これについて詳細は記載されていないが、前回評価では定員を上回っていないことが理由であったことから、今回の調査でも同様の理由なのかもしれない。

酪農	無	
北里	有	

日獣	有	原則として第一次入学試験で定員を充足した場合は第二次入学試験を実施しないことで定員を調整している。
麻布	無	
日大	有	

3. 大学院学生の受け入れについて自己点検・評価をしてください。

全ての大学で評価がAとなっており、前回評価のAが2大学（日本獣医生命科学大学と日本大学）、Bが2大学（北里大学と麻布大学）、自己点検・評価をしていないが1大学（酪農学園大学）から大幅に改善されており評価できる。酪農学園大学は、今回、多様な受験区分が用意・運用されたことからA評価となった。北里大学は、前回評価では他大学からの受け入れと留学生が少ないことからB評価となっていたが、今回の調査では他大学出身者の割合が大幅に増え（5%から29%へ増加）、A評価につながった。麻布大学は、前回評価では留学生が少ないことからB評価であったが、今回その割合が増えたこと（0%から6%へ増加）、さらにこれに加えて定員管理が適切に行われていることを加味してA評価となった。日本獣医生命科学大学と日本大学は前回と同様にA評価であった。日本大学については、前回評価で外国人受け入れの整備が不十分であることが述べられていたが、今回の調査では外国人の割合が3%から7%に増加していた。

酪農	A おおむね適切である	様々な受験区分を用意し、希望者にとって適切な入口を用意することができ、運用されている。
北里	A おおむね適切である	大学院生は、一定数の社会人、外国人留学生も在籍し、定員は概ね良好に維持されている。
日獣	A おおむね適切である	これまでのところ高度化した獣医診療および生命科学分野での研究者の育成のための人材開発のための大学院学生の受け入れのための仕組みは、ほぼ適切に運用されていると考えられる。
麻布	A おおむね適切である	入学定員を充足していない年度もあるものの、収容定員に対する在籍学生比率については適切に管理している。
日大	A おおむね適切である	概ね毎年定員を満たす大学院生の入学が有り、適切に機能していると考えられる。

(4) 教職員等

1. 大学院担当教員ならびに研究支援者数について

1-1-1. ～1-1-4. 大学院担当教員の構成（令和5年度末現在）

1-1 大学院担当教員の構成

第7次相互評価当時に比べると、全体として、講師などに若手教員および女性教員が増加している。若手・女性教員の登用が進むことは、教育・研究の活性化や多様性の向上に寄与するものであり、大学院教育の質的向上において重要な成果と評価できる。特に日本獣医生命科学大学では、准教授および講師、女性の教員数が大幅に増えている。

酪農		教授	准教授	講師	(助教)	備考	合計	兼任教員	非常勤教員
----	--	----	-----	----	------	----	----	------	-------

大学院担当教員の 現員数(a)	19	11	6	0	36	名	名		
	1	1	0	0		2	名	名	
	20	12	6	0		38	名	名	
	aのうち博士課程 担当の教員	19	11	6	0	36	名	名	
		1	1	0	0		2	名	名
		20	12	6	0		38	名	名
	aのうち修士課程 のみの担当教員	0	0	0	0	0	名	名	
		0	0	0	0		0	名	名
		0	0	0	0		0	名	名
	aのうち大学院専 任教員	0	0	0	0	0	名	名	
0		0	0	0	0		名	名	
0		0	0	0	0		名	名	
aのうち外国人教 員数	0	0	0	0	0	名	名		
aのうち他大学出 身教員数	13	5	4	0	22	名	名		
aのうち獣医師免 許取得者数	17	11	6	0	34	名	名		
aのうち博士号取 得者数	20	12	6	0	38	名	名		
aのうち獣医学以 外の教育を受けた 教員数と 受けた教育の種類	3	1	0	0	4	名	名		

		教授	准教授	講師	(助教)	備考	合計	兼任教員	非常勤教員
大学院担当教員の 現員数(a)	男性 17名	11名	14名	2名	名	名	名	名	
	女性 0名	1名	1名	2名		名	名	名	
	合計 17名	12名	15名	4名		名	名	名	
aのうち博士課程 担当の教員	男性 17名	11名	14名	2名	名	名	名	名	
	女性 0名	1名	1名	2名		名	名	名	
	合計 17名	12名	15名	4名		名	名	名	
aのうち修士課程 のみの担当教員	男性 名	名	名	名	名	名	名	名	
	女性 名	名	名	名		名	名	名	
	合計 名	名	名	名		名	名	名	
	男性 名	名	名	名		名	名	名	

aのうち大学院専任教員	女性 名	名	名	名		名	名	名
	合計 名	名	名	名		名	名	名
aのうち外国人教員数	1名	1名	名	名		名	名	名
aのうち他大学出身教員数	14名	6名	7名	4名		名	名	名
aのうち獣医師免許取得者数	17名	12名	15名	4名		名	名	名
aのうち博士号取得者数	17名	12名	15名	4名		名	名	名
aのうち獣医学以外の教育を受けた教員数と受けた教育の種類	(医学)2名	(医学・農学)3名	(医学)1名	(医学)1名		名	名	名

		教授	准教授	講師	(助教)	備考	合計	兼任教員	非常勤教員
		大学院担当教員の現員数(a)	男性 22名 女性 5名 合計 27名	23名 4名 27名	12名 5名 17名	0名 0名 0名		57名 14名 71名	57名 14名 71名
aのうち博士課程担当の教員	男性 22名 女性 5名 合計 27名	23名 3名 26名	11名 4名 15名	0名 0名 0名		56名 12名 68名	56名 12名 68名	名 名 名	
	aのうち修士課程のみの担当教員	男性 0名 女性 0名 合計 0名	0名 1名 1名	1名 1名 2名	0名 0名 0名		1名 2名 3名	1名 2名 3名	名 名 名
		aのうち大学院専任教員	男性 名 女性 名 合計 名	名 名 名	名 名 名	名 名 名		名 名 名	名 名 名
aのうち外国人教員数			0名	0名	0名	名		0名	名
aのうち他大学出身教員数	8名		14名	6名	名		28名	名	名
aのうち獣医師免許取得者数	23名	23名	14名	名		60名	名	名	
aのうち博士号取得者数	27名	27名	17名	名		71名	71名	名	
aのうち獣医学以外の教育を受けた教員	4名 農学 2名	4名 学術 1名	3名 獣医保健	名		11名	11名	名	

数と受けた教育の種類	水産学 1 名 医学 1 名	農学 1 名 医学 1 名 理学 1 名	看護学 2 名 農学 1 名						
------------	-------------------	----------------------------	-------------------	--	--	--	--	--	--

		教授	准教授	講師	(助教)	備考	合計	兼任教員	非常勤教員
		麻布	大学院担当教員の現員数(a)	男性 17 名	8 名	7 名	名		32 名
女性 1 名	2 名			3 名	名		6 名	6 名	名
合計 18 名	10 名			10 名	名		38 名	38 名	名
aのうち博士課程担当の教員	男性 17 名		8 名	7 名	名		32 名	32 名	名
	女性 1 名		2 名	3 名	名		6 名	6 名	名
	合計 18 名		10 名	10 名	名		38 名	38 名	名
aのうち修士課程のみの担当教員	男性 名		名	名	名		名	名	名
	女性 名		名	名	名		名	名	名
	合計 名		名	名	名		名	名	名
aのうち大学院専任教員	男性 0 名		0 名	0 名	名		0 名	名	名
	女性 0 名		0 名	0 名	名		0 名	名	名
	合計 0 名		0 名	0 名	名		0 名	名	名
aのうち外国人教員数	0 名	0 名	0 名	名		0 名	名	名	
aのうち他大学出身教員数	名	名	名	名		名	名	名	
aのうち獣医師免許取得者数	17 名	9 名	10 名	名		名	38 名	名	
aのうち博士号取得者数	18 名	10 名	10 名	名		名	38 名	名	
aのうち獣医学以外の教育を受けた教員数と受けた教育の種類	5 名 医学, 農学	1 名 理学	2 名 医学, 理学	名		8 名	8 名	名	

		教授	准教授	講師	(助教)	備考	合計	兼任教員	非常勤教員
		大学院担当教員の現員数(a)	男性 23 名	9 名	0 名	0 名		32 名	0 名
女性 0 名	0 名		1 名	0 名		1 名	0 名	0 名	
合計 23 名	9 名		1 名	0 名		33 名	0 名	1 名	
aのうち博士課程担当の教員	男性 23 名	9 名	0 名	0 名		32 名	0 名	1 名	
	女性 0 名	0 名	1 名	0 名		1 名	0 名	0 名	
	合計 23 名	9 名	1 名	0 名		33 名	0 名	1 名	
aのうち修士課程のみの担当教員	男性 0 名	0 名	0 名	0 名		0 名	0 名	0 名	
	女性 0 名	0 名	0 名	0 名		0 名	0 名	0 名	

		合計 0 名	0 名	0 名	0 名		0 名	0 名	0 名
a のうち大学院専任教員	男性 23 名	9 名	0 名	0 名		32 名	0 名	0 名	
	女性 0 名	0 名	1 名	0 名		1 名	0 名	0 名	
	合計 23 名	9 名	1 名	0 名		33 名	0 名	0 名	
a のうち外国人教員数	0 名	0 名	0 名	0 名		0 名	0 名	0 名	
a のうち他大学出身教員数	18 名	1 名	1 名	0 名		20 名	0 名	0 名	
a のうち獣医師免許取得者数	22 名	8 名	1 名	0 名		31 名	0 名	1 名	
a のうち博士号取得者数	22 名	9 名	1 名	0 名		32 名	0 名	名	
a のうち獣医学以外の教育を受けた教員数と受けた教育の種類	1 名	0 名	0 名	0 名		1 名	0 名	0 名	

1-2. 研究科委員会の構成員について記入してください。

第 7 次相互評価当時とほぼ同様である。北里大学においては、委員会構成員として教授以外に、准教授、講師、助教が明記された。

酪農	主指導資格保持者が獣医学研究科委員会の構成員となる。副指導資格保持者については修士課程の大学院生の指導を行っている場合に陪席することができる。
北里	拡大教授会と同じ構成となっており、教授、准教授、講師、助教よりなる。
日獣	研究科委員会は、本学大学院研究科の研究指導及び講義を担当する教授及び准教授をもって組織する。（日本獣医生命科学大学大学院運営組織規則第 3 条）
麻布	研究科教授会構成員は、資格審査を経た、教授及び准教授によって構成されている。
日大	分科委員（大学院教育を行う教授から構成される。）

1-3. 教員の年齢構成（令和 5 年度末現在）

第 7 次相互評価当時に比べると、全体として、45 歳以下の若手教員が増加している。若手教員の増加は新しい教育手法や研究分野が広がり意味着ことから、大学院教育の質的向上において好ましい状況である。

	年 齢	教授	准教授	講師	合計
酪農	～30 才	0	0	0	0
	～35 才	0	0	3	3
	～40 才	0	3	2	5
	～45 才	1	3	1	5
	～50 才	4	4	0	8
	～55 才	6	2	0	8
	～60 才	6	0	0	6

	～65才	3	0	0	3
	66才～	0	0	0	0

北里	年 齢	教授	准教授	講師	助教	合計
	～30才	0名	0名	0名	0名	0名
	～35才	0名	0名	3名	2名	5名
	～40才	0名	1名	7名	2名	10名
	～45才	0名	4名	3名	0名	7名
	～50才	1名	1名	1名	0名	3名
	～55才	4名	4名	1名	0名	9名
	～60才	7名	2名	0名	0名	9名
	～65才	5名	0名	0名	0名	5名
	66才～	0名	0名	0名	0名	0名

日猷	年 齢	教授	准教授	講師	助教	合計
	～30才	名	名	名	名	名
	～35才	名	名	1名	名	1名
	～40才	名	2名	6名	名	8名
	～45才	名	8名	5名	名	13名
	～50才	3名	7名	2名	名	12名
	～55才	3名	5名	2名	名	10名
	～60才	13名	3名	1名	名	17名
	～65才	8名	2名	名	名	10名
66才～	名	名	名	名	名	

麻布	年 齢	教授	准教授	講師	助教	合計
	～30才	名	名	名	名	名
	～35才	名	名	3名	名	3名
	～40才	名	3名	4名	名	7名
	～45才	名	3名	名	名	3名
	～50才	3名	1名	1名	名	5名
	～55才	4名	2名	1名	名	7名
	～60才	7名	1名	名	名	8名
	～65才	5名	名	名	名	5名
66才～	名	名	名	名	名	

日大	年 齢	教授	准教授	講師	助教	合計
	～30才	0名	0	0	0	0
	～35才	0名	0	0	2	2

～40才	1名	1	3	3	7
～45才	0名	3	0	0	3
～50才	1名	4	1	0	6
～55才	4名	0	1	0	5
～60才	7名	0	0	0	7
～65才	6名	0	0	0	6
66才～	1名	0	0	0	1

1-4. 大学院教員・研究支援のための人的支援体制（令和5年度末現在）

第7次相互評価当時とほぼ同様である。

	教育・研究 支援者	事務系 職員	技術系 職員	TA	RA	ポスト ドクター	有給 研修医	合 計
酪農	定員数	名	名	名	名	名	名	名
	現員数	7名	名	7名	名	名	名	名
	平均延支援時間数	時間	時間	時間	時間	時間	時間	時間
	(時間/週/人)							
北里	定員数	20名	2名	名	名	名	5名	名
	現員数	20名	2名	13名	14名	名	2名	51名
	平均延支援時間数	38時間	38時間	3.6時間	3.2時間	時間	38時間	120.8時間
	(時間/週/人)							
日獣	定員数	名	名	定員なし	定員なし	5名	24名	名
	現員数	43名	2名	51名	17名	5名	20名	138名
	平均延支援時間数	時間	時間	5時間	5時間	40時間	時間	時間
	(時間/週/人)							
麻布	定員数	名	名	名	名	名	名	名
	現員数	名	名	名	25名	2名	9名	36名
	平均延支援時間数	時間	時間	時間	25時間	37.5時間	37.5時間	33時間
	(時間/週/人)							
日大	定員数	—名	名	—名	0名	0名	名	名
	現員数	名	6名	16名	0名	0名	15名	名
	平均延支援時間数	—時間	時間	—時間	0時間	0時間	時間	時間
	(時間/週/人)							

TA：ティーチングアシスタント、RA：リサーチアシスタント

1-5. 大学院学生：研究生：教員：研究支援者の比率（令和5年度末現在）

第7次相互評価当時に比べると、大学院学生数は減少傾向にあるが、麻布大学では大幅に増加した。大学院支援者数は日本獣医生命科学大学および麻布大学で大幅に減少している。

酪農	大学院学生数(a)	31
----	-----------	----

	大学院研究生数(b)	1
	大学院教員数(c)	42
	研究支援者数(d)	0
	$(a + b) / (c + d)$	0.761904762
北里	大学院学生数(a)	17
	大学院研究生数(b)	0
	大学院教員数(c)	48
	研究支援者数(d)	51
	$(a + b) / (c + d)$	17.17 (17/99)
日猷	大学院学生数(a)	64
	大学院研究生数(b)	57
	大学院教員数(c)	71
	研究支援者数(d)	5
	$(a + b) / (c + d)$	1.59
麻布	大学院学生数(a)	29
	大学院研究生数(b)	0
	大学院教員数(c)	38
	研究支援者数(d)	2
	$(a + b) / (c + d)$	0.73
日大	大学院学生数(a)	22
	大学院研究生数(b)	18
	大学院教員数(c)	34
	研究支援者数(d)	6
	$(a + b) / (c + d)$	1.00

1-6. 高度な技術を持つ研究支援職員の育成とその技術を継承していくための方途の導入状況についてご記載ください。

第7次相互評価当時とほぼ同様であった。酪農学園大学においては、研究支援職員によるセミナーや研修会への自主的参加により、積極性がみられた。

酪農	URA 研修や課の業務に関連するセミナー・研修会などに自主的に参加している。
北里	該当しない。
日猷	特に設けていない。
麻布	大学院担当の研究支援職員はいない
日大	現状は個人間での情報共有までである。

1-7. ティーチングアシスタント制度

第7次相互評価当時には酪農学園大学、北里大学、日本獣医生命科学大学、麻布大学の4大学でTA制度が導入され、日本大学のみ制度が存在しなかったが、直近のデータでは日本大学にも内規・研修会を伴うTA制度が整備され、全大学で制度が明確化・運用されるようになった。

たことが確認された。

酪農	有	酪農学園大学大学院ティーチングアシスタント規程およびティーチングアシスタントに関する取扱要領を整備し、ティーチングアシスタント制度を設けている。
北里	有	
日獣	有	大学院獣医生命科学研究科に在学する学生のうち、本学学部の教育研究の補助業務を行う者に対して、本学が手当を支給し、有為な大学院学生の就学ならびに育成に寄与することを目的とする。
麻布	有	博士前期課程の大学院学生のみ採用
日大	有	ティーチングアシスタント学生に関する内規及びティーチングアシスタント（TA）ハンドブックを基に毎年研修会を開催し、TAを運用している。

1-8. リサーチアシスタント制度

第7次相互評価当時には、酪農学園大学と日本獣医生命科学大学および日本大学でRA制度が未整備（あるいは検討中・無し）であったのに対し、現在では酪農学園大学・日本獣医生命科学大学・日本大学を含む全大学で制度が整備・運用され、北里大学・麻布大学と合わせて5大学すべてが研究補助人材の確保、研究体制の強化、若手研究者育成を目的とするRA制度を有しているという点で、進展が認められる。

酪農	有	2024年4月1日規程制定、運用開始、外部資金のみ受け入れとしている。
北里	有	
日獣	有	本学における研究活動の効果的推進、研究体制の充実及び若手研究者の育成を図るため、本学が行う学術研究のプロジェクトにおいて、必要な補助業務を行う研究補助者として従事する獣医学専攻博士課程及び獣医保健看護学専攻博士後期課程に在籍する大学院生を採用する。
麻布	有	研究支援体制の充実、強化並びに若手研究者としての研究遂行能力の育成を図るため、研究プロジェクト等において大学院博士課程に在学しながら研究の補助を行う者をいう。
日大	有	「日本大学リサーチ・アシスタント規程及びリサーチ・アシスタントに関する基準を基に運用。日本大学の大学院研究科博士後期課程に相当する学生を対象とした、若手研究者の育成と研究活動の充実を図ることを目的とする。当該研究プロジェクト予算を基に運用している。

1-9. 有給研修獣医師制度

第7次相互評価当時と比較すると、酪農学園大学・北里大学・麻布大学・日本大学では以前から一貫して有給研修獣医師制度が整備されている。一方、日本獣医生命科学大学のみが以前は制度を持たなかったが、現在は附属動物医療センターに前期・後期・アドバンス課程を設けている。

酪農	有	病院獣医師として附属動物医療センターへ勤務する制度
北里	有	

日獣	有	付属動物医療センターには、前期課程(獣医師法第16条の2に定める研修)1年、後期課程1年及びアドバンス課程1年が設定されているが、大学院と研修医に同時に所属した実績は今のところアドバンス課程である。
麻布	有	
日大	有	

1-10. ポストドクター制度

酪農学園大学・北里大学・日本獣医生命科学大学・麻布大学においてはいずれも外部資金や特任教員制度等に基づく何らかのポストドクター受入制度が継続して整備・運用されている。一方、日本大学のみが現在および5年前ともにポストドクター制度を設けていないという状況が確認された。

酪農	有	外部資金飲みによる受入制度を設けている
北里	有	
日獣	有	本学が行う学術研究を担い、かつ、創造性に富んだ研究者の育成を図るために、優れた研究能力を有し、研究に専念することを希望するものをポスト・ドクターとして本学の資金により有給で採用する。
麻布	有	本学においては、麻布大学特任教員に関する規則に基づき採用される、特任教員Ⅱ種(競争的資金等(文部科学省、厚生労働省、農林水産省等又はそれらの省等が所管する独立行政法人並びに民間団体などから配分される競争的資金を中心とした公募型の研究資金をいう。ただし、文部科学省所管の私立大学学術研究高度化推進事業に係るものを除く。))又は奨学寄附金を受入れて期間を定めて研究を行う者のうち、特任助教がポストドクター制度に該当すると思われる。契約期間は5年を限度としている。
日大	無	

2. 研究環境・研究資金について

2-1. 大学院担当教員の大学院手当について支給基準や種別(金額など)の規定をご記載ください。

第7次相互評価当時とほぼ同様であった。酪農学園大学では、大学院生1人あたり100,000円が研究科特別経費として加算されるようになった。

酪農	指導する大学院生がいる場合、1人あたり100,000円が研究科特別経費として加算される。その他給与に関して、大学院手当については定めていない。
北里	有①学位論文作成等の指導(研究指導又は研究指導の補助)を行う教員：教授：月額12,000円、准教授：月額9,000円、講師：月額7,000円、助教：月額5,000円、助手：月額3,000円 ②科目担当教員(①以外)教授：6,000円、准教授：4,500円、講師：3,500円、助教：2,500円
日獣	大学院担当教員の大学院手当は月額として教授：10,000円、准教授：7,000円、講師：5,000円、助教：3,000円としている。
麻布	学校法人麻布獣医学園給与規程第9条により、研究科教授会構成員(教授・准教授)手当が月額3,000円、第22条(その他の手当、別表第14)により大学院担当手当、月額5,000円が支給される
日大	分科委員会委員は2万円で、授業科目担当者は1万円としている。

2-2. 研究費の配分について

酪農	研究費は以下のとおり定めている。		
	教授・准教授	基礎額 150,000 円	申請による配分 50,000 円
	嘱託教授・嘱託准教授	基礎額 150,000 円	申請による配分 0 円
	講師・助教	基礎額 150,000 円	申請による配分 200,000 円
	嘱託講師・嘱託助教	基礎額 150,000 円	申請による配分 0 円
北里	研究費の配分は、大学院についてはしていない。		
日獣	大学院としての教員に対する研究費の配分枠は設けていない。		
麻布	大学院担当としての研究費は配分されない		
日大	定額研究費が全教員に対して等分に配分されている。研究室に配分される院生教育費は、研究室所属大学院生数で計算されている。		

2-3. 研究室

第7次相互評価当時とほぼ同様であった。日本大学では個室率が大幅に改善され、より広い面積の個室が全教員にあてがわれていた。

		教授	准教授	講師	助教	全体
酪農	個室率	100%	73%	40%		71%
	平均面積	19.92m ²	16.43m ²	42.11m ²		26.15m ²
北里	個室率	89.47%	87.50%	56.20%	33%	71.40%
	平均面積	26.73m ²	21.45m ²	20.33m ²	24.36m ²	23.49m ²
日獣	個室率	89.47%	23.08%	0%	25.00%	46.67%
	平均面積	20.98m ²	7.89m ²	0m ²	7.47m ²	18.47m ²
麻布	個室率	100%	100%	%	%	100%
	平均面積	21m ²	21m ²	m ²	m ²	21m ²
日大	個室率	100%	100%	100%	100%	100%
	平均面積	92m ²	124m ²	99m ²	98m ²	102m ²

3. 研究組織・研究活動などについて

3-1. 研究成果の国内外の大学・研究機関との発受信についての整備状況についてご記載ください。

研究成果の発受信については各大学においてWEB上のホームページなどの通信ネットワークを利用して行われていた。日本獣医生命科学大学については、大学院英語版 HP を充実させていた。外部研究機関との協力体制について、酪農学園大学と日本獣医生命科学大学は協力体制が無いとされ、改善の検討が望まれる。なお、日本獣医生命科学大学については、第7次相互

評価当時には複数の外部研究機関と共同研究を行っていた。

酪農	大学のウェブサイト上にある「教員・研究室一覧」に研究シーズを公開し、リサーチマップと連携することで、業績や論文の詳細を簡単に確認できるようになっている。
北里	大学の広報、国際部、研究支援センター、大学のHP などにより受発信を積極的に行っている。
日獣	年1報を発行する日本獣医生命科学大学研究報告や毎月1回、研究推進課からメールで新着論文発表を確認し、大学として発信すべき内容を選定し、ホームページへ掲載する取り組みを行うとともに、図書館と協力して本学機関リポジトリへの収載を行っている。また、大学院の英語版HPを充実させ、各教員の研究内容や指導方針などを英語で発信している。
麻布	論文として公表する以外に、大学のHPやプレス・リリースによる発信を積極的に行っており、入試・広報渉外課がこれに当たっている。研究成果の受信については、個別に対応している。
日大	論文として公表する以外に、大学のHPやプレス・リリースによる発信を積極的に行っており、入試・広報渉外課がこれに当たっている。研究成果の受信については、個別に対応している。

3-2. 流動研究部門の設置の有無

現時点でも多くの大学では流動研究部門が未設置のままである。北里大学のみが以前から引き続き流動的な研究体制（FSCを中心とした共同研究基盤）を維持しているものの、新規設置や拡充の動きは他大学では認められず、全体として第7次相互評価当時から大きな進展は見られない。

酪農	無	
北里	有	
日獣	無	特に行っていない
麻布	無	
日大	無	

3-3. 他大学および他施設との研究協力体制の有無

北里大学・麻布大学・日本大学で研究協力体制が引き続き維持・活発化される一方、日本獣医生命科学大学では以前（第7次相互評価当時）みられた大学院レベルでの協力枠組みが確認できず、全体としては大学間で格差が広がったように見受けられる。

酪農	無	
北里	有	
日獣	無	特に行っていない
麻布	有	研究科教授会承認の基、短期間、国公立研究機関等に大学院学生を派遣することがある。
日大	有	本研究科は、併設する生物資源科学部と研究施設を共有しており、多くの共同研究を行っている。また、日本大学の他学部との共同研究も盛んである。さらに他大学や他研究施設の研究者とも共同研究を実施している。

3-4. 大学院・研究科として特記すべき研究分野での研究活動状況についてご記載ください。

酪農学園大学が「One Health フロンティア卓越大学院プログラム」への参画により大学院

教育の高度化を進めた一方、北里大学・日本獣医生命科学大学・麻布大学は特記すべき研究活動はみられず、日本大学では以前（第7次相互評価当時）に実施していた国内外研究者による大学院セミナーや外国人講師による英語セミナーがなくなった。全体として、研究科としての特化分野における活動が停滞または限定的となっている。

酪農	北海道大学大学院獣医学研究院が主管とする「One Health フロンティア卓越大学院プログラム」に本学も参画し、大学院教育の充実を図っている。
北里	特になし。
日獣	特になし
麻布	特になし
日大	無

3-5. 研究助成を得て行われる研究プログラムの展開状況についてご記載ください。

酪農学園大学・北里大学を中心に外部資金獲得と大学院生の研究者育成に向けた取り組みが進展した一方、日本獣医生命科学大学・麻布大学・日本大学では以前（第7次相互評価当時）にみられた大規模プロジェクトや戦略的研究基盤形成事業のような体系的研究プログラムの継続性は確認できなかった。大学間で研究助成活用の格差が拡大していると見受けられる。

酪農	大学院生のキャリアアップの一環として学術振興会特別研究員への公募にも積極的に取り組み、採用内定者も輩出している。
北里	研究助成(文科省および厚労省の科研費、農水省の委託研究など)を得ているプログラムの展開状況は概ね良好といえるが、さらに多くの研究助成を獲得できるよう取り組んでいる。
日獣	特になし
麻布	研究科としてはない
日大	無

4. 大学院担当教員の採用・審査基準等について

第7次相互評価当時は、酪農学園大学および北里大学では助教の採用があったが、その後採用しなくなった。一方、日本大学では、第7次相互評価当時は助教の採用はなかったが、その後採用するようになった。

第7次相互評価当時とほぼ同様であった。麻布大学においては、採用における必要研究業績数が少なくなっている部分もあった。例えば、教授（非臨床系・基礎生命科学分野）は、厳正な審査制度を設けた学術雑誌等に掲載された英文の原著論文、短報、総説等の業績を25編以上が資格条件でとされたが、第7次相互評価当時はそれらの30編以上が必要条件であった。日本大学においては、資格条件として論文数などの業績数が明記されるようになった。

	基 準	教授	准教授	講師	助教
酪農	公募制	有	有	有	-
	任期制	無	無	無	-
	年齢制限	無	無	無	-

研究業績等	原著論文 30 報 FA 及び CA6 報 最近 5 年間で 5 報以上				-
教育経験等	採用時に考慮する 外部資金獲得経験が必要				-
臨床経験等(職業経験等を含む)	臨床教員のみ 採用時必須 基準は設定していない				-
社会的活動等	なし	なし	なし		
その他	なし				

基 準	教授	准教授	講師	助教
公募制	有	有	有	
任期制	有	有	有	
年齢制限	無	無	無	
研究業績等	原著論文 20 編以上 最近 5 年間で 5 編以上	原著論文 10 編以上 最近 5 年間で 3 編以上	原著論文 5 編以上 最近 5 年間で 3 編以上	原著論文 1 編以上 (学位論文は除く)
教育経験等	優れた教育実績			
臨床経験等 (職業経験 等を含む)	臨床系の教員については経験を加味する			
社会的活動等	-			
その他	学部基準の他に学科ごとの基準あり博士の学位を有する			

基 準	教授	准教授	講師	助教
公募制	有	有	有	
任期制	無	無	無	
年齢制限	無	無	無	
研究業績等	獣医学専攻博士課程：公開レフェリー制度のある学術雑誌に掲載された英文 40 編以上。ただし、そのうち 10 編以上は筆頭著者としての学術論文またはそれに相当するもの。なお、一般的評価の高い雑誌に掲載された論文については、30 編以上かつそれらのインパクトファクターが 30 以上あれば論文 40 編に相当すると判断。獣医学専攻：公開レフェリー制度のある学術雑誌に掲載された英文 40 編以上。ただし、そのうち 10 編以上は筆頭著者としての学術論文またはそれに相当するもの。なお、一般的評	獣医学専攻博士課程：同様の論文 20 編以上。ただし、そのうち 5 編以上は筆頭著者としての学術論文でなければならない。なお、論文が 15 編以上で、かつそれらのインパクトファクターが 15 以上あれば論文 20 編に相当すると判断。獣医保健看護学	獣医学専攻博士課程：同様の論文 10 編以上。ただし、そのうち 3 編以上は筆頭著者としての学術論文でなければならない。なお、論文が 8 編以上で、かつそれらのインパクトファクターが 8 以上あれば論文 10 編に相当すると判断。獣医保健看護学	

		<p>価の高い雑誌に掲載された論文については、30編以上かつそれらのインパクトファクターが30以上あれば論文40編に相当すると判断。獣医保健看護学専攻博士前期課程：公開レフェリー制度のある学術雑誌に掲載された論文15編以上。ただし、そのうち5編以上は筆頭著者としての学術論文またはそれに相当するもの。なお、論文が10編以上かつそれらのインパクトファクターが8以上あれば論文15編に相当すると判断。獣医学保健看護学専攻博士後期課程：公開レフェリー制度のある学術雑誌に掲載された英文40編以上。ただし、そのうち10編以上は筆頭著者としての学術論文またはそれに相当するもの。なお、一般的評価の高い雑誌に掲載された論文については、30編以上かつそれらのインパクトファクターが30以上あれば論文40編に相当すると判断。獣医保健看護学専攻博士後期課程：公開レフェリー制度のある学術雑誌に掲載された論文30編以上。ただし、そのうち10編以上は筆頭著者としての学術論文またはそれに相当するもの。なお、一般的評価の高い雑誌に掲載された論文については、20編以上かつそれらのインパクトファクターが15以上あれば論文30編に相当すると判断。</p>	<p>専攻博士前期課程：同様の論文10編以上。ただし、そのうち3編以上は英文の筆頭著者としての学術論文でなければならない。なお、論文が6編以上で、かつそれらのインパクトファクターが4以上あれば論文10編に相当すると判断。獣医保健看護学専攻博士後期課程：同様の論文15編以上。ただし、そのうち5編以上は英文の筆頭著者としての学術論文でなければならない。なお、論文が10編以上で、かつそれらのインパクトファクターが8以上あれば論文15編に相当すると判断。</p>	<p>専攻博士前期課程：同様の論文5編以上。ただし、そのうち3編以上は英文の筆頭著者としての学術論文でなければならない。なお、論文が4編以上で、かつそれらのインパクトファクターが2.5以上あれば論文5編に相当すると判断。獣医保健看護学専攻博士後期課程：同様の論文10編以上。ただし、そのうち3編以上は英文の筆頭著者としての学術論文でなければならない。なお、論文が6編以上で、かつそれらのインパクトファクターが4以上あれば論文10編に相当すると判断。</p>	
	教育経験等				
	臨床経験等 (職業経験等を含む)				
	社会的活動等				
	その他	<p>専攻分野について、特に優れた知識、能力及び実績を有すると認められる者</p>	<p>専攻分野について、優れた知識、能力及び実績を有すると認められる者</p>	<p>専攻分野について、教授又は准教授に準ずる知識、能力及び実績を有すると認められる者</p>	

	基準	教授	准教授	講師	助教
麻布	公募制	有	有	有	
	任期制	無	無	無	

年齢制限	無	無	無	無
研究業績等	<p>教授（非臨床系・基礎生命科学分野）のうち、次に定める第1号から第3号までの全てに該当する者又は医師又は臨床検査技師の資格を有する者であって第4号に該当するものは、各研究科の博士課程、博士後期課程及び博士前期課程の研究指導教員の資格を有するものとする。</p> <p>(1) 前条第2項に定める厳正な審査制度を設けた学術雑誌等に掲載された英文の原著論文、短報、総説又は前条第3項に定める業績を25編以上有し、そのうちファーストオーサーの論文10編以上を含むこと。</p> <p>(2) 過去5年間におけるファーストオーサー又はコレスポンディングオーサーの論文5編以上を有すること。ただし、ファーストオーサー又はコレスポンディングオーサーの論文を生涯で20編以上有する者はこの限りでない。</p> <p>(3) 博士の学位を有すること。</p> <p>(4) 医師又は臨床検査技師の資格を有し、10年以上の臨床経験及び博士の学位を有する者にあつては、同学術論文20編以上、そのうち7編以上のファーストオーサーの論文を有すること。ただし、臨床検査技師の資格を有し、5年以上の臨床経験がある場合は、この経験をもって和文論文3編を英文論文1編とみなすことができるものとする。</p>	<p>第6条 准教授（非臨床系・基礎生命科学分野）のうち、次に定める第1号から第3号までの全てに該当する者又は医師又は臨床検査技師の資格を有する者であって第4号に該当するものは、獣医学研究科博士課程、博士後期課程及び博士前期課程の研究指導教員の資格を有するものとする。</p> <p>(1) 第4条第2項に定める厳正な審査制度を設けた学術雑誌等に掲載された英文の原著論文、短報、総説又は第4条第3項に定める業績を20編以上有し、そのうちファーストオーサーの論文8編以上を含むこと。</p> <p>(2) 過去5年間におけるファーストオーサー又はコレスポンディングオーサーの論文3編以上を有すること。</p> <p>(3) 博士の学位を有すること。</p> <p>(4) 医師又は臨床検査技師の資格を有し、7年以上の臨床経験及び博士の学位を有する者にあつては、同学術論文14編以上、そのうち6編以上のファーストオーサーの論文を有すること。ただし、臨床検査技師の資格を有し、5年以上の臨床経験がある場合は、この経験をもって和文論文3編を英文論文1編とみなすことができるものとする。</p> <p>2 准教授（非臨床系・基礎生命科学分野）のうち、前項第1号から第3号までの全てに該当する者又は医師又は臨床検査技</p>	<p>第7条 次に定める第1号から第3号までの全てに該当する者又は臨床検査技師の資格を有する者であって第4号に該当する講師の教員（非臨床系・基礎生命科学分野）は、授業担当教員の資格を有するものとする。</p> <p>(1) 第4条第2項に定める厳正な審査制度を設けた学術雑誌等に掲載された英文の原著論文、短報、総説又は第4条第3項に定める業績を10編以上有し、そのうちファーストオーサーの論文5編以上を含むこと。</p> <p>(2) 過去5年間におけるファーストオーサーの論文2編以上を有すること。</p> <p>(3) 博士の学位を有すること。</p> <p>(4) 臨床検査技師の資格を有し、5年以上の臨床経験及び博士の学位を有する者にあつては、同学術論文5編（ただし、和文論文3編を英文論文1編とみなすことができる。）以上、そのうち2編以上のファーストオーサーの論文を有すること。</p>	

	<p>2 前項の規定にかかわらず、教授（非臨床系・基礎生命科学分野）のうち、第6条第1項第1号から第3号までの全てに該当する者は、環境保健学研究科博士前期課程の研究指導教員の資格及び各研究科の博士後期課程、獣医学研究科博士課程及び博士前期課程の研究指導補助教員の資格を有するものとする。</p> <p>第5条の2 前2項に該当しない教授（非臨床系・基礎生命科学分野）は、各研究科の博士課程、博士後期課程及び博士前期課程の授業担当教員の資格を有するものとする。</p> <p>第9条 教授（臨床系教員）にあつては、次に定める各号全てに該当する者は、各研究科の博士課程、博士後期課程及び博士前期課程の研究指導教員の資格を有するものとする。</p> <p>(1) 第4条第2項に定める厳正な審査制度を設けた学術雑誌等に掲載された原著論文、短報、総説又は第4条第3項に定める業績25編以上（ファーストオーサーの論文10編以上）を有すること。第4条第3項に定める業績は、審査制度のある英文誌、日本獣医師会雑誌に掲載された原著、短報又は総説とする。</p> <p>(2) 過去5年間におけるファーストオーサー又はコレスポンディングオーサーの論文3編以上を有すること。ただし、ファーストオーサー又はコレスポンディングオーサーの論文が生涯</p>	<p>師の資格を有する者であつて第4号に該当するものは、環境保健学研究科の博士前期課程の研究指導教員の資格及び環境保健学研究科博士後期課程の研究指導補助教員の資格を有するものとする。</p> <p>3 前2項に該当しない准教授（非臨床系・基礎生命科学分野）のうち、第7条第1項第1号から第3号までの全てに該当する者は、各研究科の博士課程、博士後期課程及び博士前期課程の研究指導補助教員の資格を有するものとする。</p> <p>4 前3項に該当しない准教授（非臨床系・基礎生命科学分野）は、各研究科の博士課程、博士後期課程及び博士前期課程の授業担当教員の資格を有するものとする。</p> <p>第10条 准教授（臨床系教員）にあつては、次に定める各号全てに該当する者は、獣医学研究科博士課程、博士後期課程及び博士前期課程の研究指導教員の資格並びに環境保健学研究科の博士前期課程の研究指導教員の資格を有するものとする。</p> <p>(1) 第4条第2項に定める厳正な審査制度を設けた学術雑誌等に掲載された原著論文、短報、総説又は第4条第3項に定める業績20編以上（ファーストオーサーの論文8編以上）を有すること。第4条第3項に定める業績は、審査制度のある英文誌、日本獣医師会雑誌に掲載</p>	<p>第11条 次に定める各号全てに該当する講師の教員（臨床系教員）は、各研究科の博士課程、博士後期課程及び博士前期課程の授業担当教員の資格を有するものとする。</p> <p>(1) 第4条第2項に定める厳正な審査制度を設けた学術雑誌等に掲載された原著論文、短報、総説又は第4条第3項に定める業績10編以上（ファーストオーサー又はコレスポンディングオーサーの論文4編以上）を有すること。第4条第3項に定める業績は、審査制度のある英文誌、日本獣医師会雑誌に掲載された原著、短報又は総説とする。</p> <p>(2) 過去5年間におけるファーストオーサーの論文2編以上を有すること。</p> <p>(3) 博士の学位を有すること</p>	
--	---	---	--	--

	<p>で20編以上有する者はこの限りでない。</p> <p>(3) 博士の学位を有すること。</p> <p>2 前項の規定にかかわらず、教授（臨床系教員）のうち、第10条第1項第1号から第3号までの全てに該当する者は、環境保健学研究科博士前期課程の研究指導教員の資格及び各研究科の博士後期課程、獣医学研究科博士課程及び博士前期課程の研究指導補助教員の資格を有するものとする。</p> <p>3 前2項に該当しない教授（臨床系教員）は、各研究科の博士課程、博士後期課程及び博士前期課程の授業担当教員の資格を有するものとする。</p>	<p>された原著、短報又は総説とする。</p> <p>(2) 過去5年間におけるファーストオーサー又はコレスポンディングオーサーの論文3編以上を有すること。</p> <p>(3) 博士の学位を有すること。</p> <p>2 前項に該当しない准教授（臨床系教員）のうち、第11条第1項第1号から第3号までの全てに該当する者は、各研究科の博士課程、博士後期課程及び博士前期課程の研究指導補助教員の資格を有するものとする。</p> <p>3 前2項に該当しない准教授（臨床系教員）は、各研究科の博士課程、博士後期課程及び博士前期課程の授業担当教員の資格を有するものとする。</p>		
教育経験等				
臨床経験等(職業経験等を含む)	<p>第8条 動物病院の診療業務に従事する教員（以下「臨床系教員」という。）にあつては、次に定める各号全てに該当する者とし、臨床教育上の能力も併せて評価するものとする。</p> <p>(1) 過去5年間の年間平均担当症例数及び手術例数が産業動物診療担当者又は小動物診療担当者で100症例（延べ件数）程度あることとし、診療実績を客観的に評価できるものを提出すること。</p> <p>(2) 臨床獣医師としての資格・特殊技能又は専門領域を有することとし、認定獣医師等の証明書がある者は、その複写を提出すること。</p>			
社会的活動等				
その他				

日大	基準	教授	准教授	講師	助教
	公募制	有	有	有	有
	任期制	無	無	無	無
	年齢制限	無	無	無	無

	研究業績等	原著論文 15 編以上若しくは学術上価値ある著書（学術著書）3 冊以上、又はこれに相当する学術上の業績を有する者 学位（博士）を有するもの	原著論文 8 編以上若しくは学術上価値ある著書（学術著書）2 冊以上、又はこれに相当する学術上の業績を有する者 学位（博士）を有するもの	原著論文 5 編以上を有する者又はこれに相当する学術上の業績を有する者 学位（博士）を有するもの	原著論文 3 編以上を有する者又はこれに相当する学術上の業績を有する者 学位（博士）を有するもの
	教育経験等				
	臨床経験等 （職業経験等を含む）				
	社会的活動等				
	その他				

4-2. 大学院担当教員の昇格の基準（採用の基準と異なる場合に記載）

第 7 次相互評価当時と同様であった。

	基準	教授	准教授	講師・助教
酪農	研究業績等	主指導教員は教授（特別な場合は准教授）であり、学術雑誌に掲載・アクセプトされた論文が 30 編以上、このうち筆頭著者論文（First Author）が 6 編以上及び獣医学研究科担当教員資格審査委員会開催月の前月から遡って 5 年間（以下、「最近 5 年間」という。）にアクセプトされた論文（英文）が 5 編以上、このうち筆頭著者論文が 2 編以上含まれていること。 ※いずれも英語論文	副指導教員は教授、准教授、講師、助教であり、学術雑誌に掲載・アクセプトされた論文が 15 編以上、このうち筆頭著者論文が 3 編以上及び最近 5 年間にアクセプトされた論文が 3 編以上、このうち筆頭著者論文が 1 編以上含まれていること。 特殊な例として准教授が	副指導教員は教授、准教授、講師、助教であり、学術雑誌に掲載・アクセプトされた論文が 15 編以上、このうち筆頭著者論文が 3 編以上及び最近 5 年間にアクセプトされた論文が 3 編以上、このうち筆頭著者論文が 1 編以上含まれていること。
		その他採用基準と同様		
北里	採用基準と同様			
日獣	採用基準と同様			
麻布	採用基準と同様			
日大	採用基準と同様			

4-3. 大学院担当教員の資格の再審査の有無

酪農学園大学・麻布大学・日本大学において研究指導教員等の資格再審査（5 年ごとの評価）が明確に制度化されており、教員資格の維持管理が確立している。一方、以前（第 7 次相互評

価当時) は制度がなかった日本大学でも定期評価が導入されている。日本獣医生命科学大学を除く多くの大学で教員資格の質保証体制がより整備・明確化された点において、総じて資格審査制度の厳格化と透明性向上が進んだと評価できる。

酪農	有	主指導資格及び副指導資格については5年に1度再審査をしなくては資格が取り消しとなる。
北里	無	
日獣	無	
麻布	有	研究指導教員、研究指導補助教員及び授業担当教員は、5年ごとに定期的な再評価を受ける
日大	有	研究指導教員、研究指導補助教員及び授業担当教員は、5年ごとに定期的な再評価を受ける

4-4. 大学院担当教員の資格審査の手続き方法についてご記載ください。

酪農学園大学では詳細かつ定量化された研究業績基準が明示され、北里大学・日本獣医生命科学大学・麻布大学・日本大学でも資格審査委員会の役割や再評価手続が明確になっている。大学院教員として求められる研究指導能力・研究実績・継続的活動を重視した制度になっていると見受けられる。

酪農	<p>当該教員より別に定めた様式に沿った内容で申請書の提出を求める。主指導資格及び副指導資格保持者について選考基準は以下のとおり。</p> <p>酪農学園大学大学院獣医学研究科担当教員資格審査基準</p> <p>第2条 研究科の自然科学系教員の資格審査における基準は、以下の各号のとおりとする。</p> <p>(1) 博士の学位(外国で取得した博士を含む。)を有し、現在当該分野において活発な研究活動を行っている者で、かつ、十分な研究指導能力を有すること。</p> <p>(2) 教員資格については研究業績において次の要件を満たしていること。</p> <p>ア 以下の要件の対象は英文の学術論文とする。</p> <p>イ 主指導教員は教授(特別な場合は准教授)であり、学術雑誌に掲載・アクセプトされた論文が30編以上、このうち筆頭著者論文(First Author)が6編以上及び獣医学研究科担当教員資格審査委員会開催月の前月から遡って5年間(以下、「最近5年間」という。)にアクセプトされた論文が5編以上、このうち筆頭著者論文が2編以上含まれていること。</p> <p>ウ 副指導教員は教授、准教授、講師、助教であり、学術雑誌に掲載・アクセプトされた論文が15編以上、このうち筆頭著者論文が3編以上及び最近5年間にアクセプトされた論文が3編以上、このうち筆頭著者論文が1編以上含まれていること。</p> <p>エ 責任著者(Corresponding Author)も筆頭著者と同等に取り扱うことができる。</p> <p>(3) 学術雑誌は以下のように定める。</p> <p>ア カレントコンテンツ、またはMedline(Pubmed)に収録された雑誌</p> <p>イ 日本学術会議登録学術研究団体の発行する雑誌</p> <p>ウ 上記以外でレフリー制があり、獣医学研究科担当教員資格審査委員会が認めた雑誌</p> <p>(4) 再審査を受ける場合、最近5年間の科研費及び公的競争資金への応募数が5件以上あること。</p> <p>2 研究科の社会科学系教員の資格審査における基準は、次の各号のとおりとする。</p> <p>(1) 博士の学位(外国で取得した博士を含む。)を有し、現在当該分野において活発な研究活動を行っている者で、かつ、十分な研究指導能力を有すること。</p> <p>(2) 教員資格については研究業績において次の要件を満たしていること。</p>
----	---

	<p>ア 主指導教員は教授（特別な場合は准教授）であり、学術雑誌に掲載・アクセプトされた論文が20編以上、このうち筆頭著者論文（First Author）が6編以上（うち2編以上は英文論文）及び最近5年間にアクセプトされた論文が3編以上、このうち筆頭著者論文が2編以上含まれていること。</p> <p>イ 副指導教員は教授、准教授、講師、助教であり、学術雑誌に掲載・アクセプトされた論文が10編以上（うち1編以上は英文論文）、このうち筆頭著者論文が3編以上及び最近5年間にアクセプトされた論文が2編以上、このうち筆頭著者論文が1編以上含まれていること。</p> <p>ウ 責任著者（Corresponding Author）も筆頭著者と同等に取り扱うことができる。</p> <p>（3）学術雑誌は以下のように定める。</p> <p>ア カレントコンテンツ、またはMedline（Pubmed）に収録された雑誌</p> <p>イ 日本学術会議登録学術研究団体の発行する雑誌</p> <p>ウ レフリー制のある国内外の諸研究会機関紙</p> <p>エ ISBNがついた著書。単著は学術論文3編以内とし、分担執筆者は学術論文1編とする。</p> <p>オ 上記以外でレフリー制があり、獣医学研究科担当教員資格審査委員会が認めた雑誌</p> <p>（4）再審査を受ける場合、最近5年間の科研費及び公的競争資金への応募数が5件以上あること。</p>
北里	学部任期制教員の再任基準に準ずる。
日獣	大学院教員資格審査委員会を獣医学専攻及び獣医保健看護学専攻に設け、大学院担当教員の資格審査実施し、その審査結果を大学院研究科委員会に報告し、審議の上、承認する
麻布	大学院非担当教員（研究科教授会構成員、研究指導補助教員及び授業担当教員になっていない教員）には、研究科から毎年業績提出を求め、提出のあった場合、資格審査委員会が審査を実施する。
日大	人事委員会で協議の上、大学院分科委員会で承認

4-5. 大学院任期制教員の導入状況

全体として、任期制制度の普及・導入状況に大きな進展は認められない。

酪農	無	
北里	有	
日獣	無	大学院は学部教員の兼担のため、大学院独自で任期教員の制度を導入していない
麻布	無	
日大	無	

5. 国際交流について

5-1. 教員および研究支援者の国際交流の実績(令和元年～5年度)

第7次相互評価当時と比べると、教員の1か月未満国際交流が、酪農学園大学および日本獣医生命科学大学では大幅に増え、北里大学および麻布大学では減少した。

	区分	渡航者						
		R1	R2	R3	R4	R5	計	
酪農	教員：	1ヶ月未満	58	0	0	22	26	106
		1ヶ月以上	0	0	0	0	0	0

	研究支援者：	1ヶ月未満	0	0	0	0	0	0
		1ヶ月以上	0	0	0	0	0	0
北里	教員：	1ヶ月未満	7	1		3	12	23
		1ヶ月以上				1	1	2
	研究支援者：	1ヶ月未満					6	6
		1ヶ月以上	3	2	1			6
日獣	教員：	1ヶ月未満	32	0	0	16	20	68
		1ヶ月以上	0	0	0	0	0	0
	研究支援者：	1ヶ月未満	4	0	0	0	2	6
		1ヶ月以上	0	0	0	0	0	0
麻布	教員：	1ヶ月未満	24	0	0	4	22	50
		1ヶ月以上	1	0	0	0	0	1
	研究支援者：	1ヶ月未満						
		1ヶ月以上						
日大	教員：	1ヶ月未満					1	
		1ヶ月以上						
	研究支援者：	1ヶ月未満						
		1ヶ月以上						

5-2. 国際的な共同研究への参加状況をご記載ください。

全体として 国際共同研究が明確に拡大・高度化している傾向が見られ、とくに酪農学園大学と北里大学では大型国際プロジェクトの採択や複数大学との計画的連携が進み、国際研究ネットワークが質・量ともに向上した点が顕著である。一方、日獣・麻布・日本大学では以前（第7次相互評価当時）と同様に教員個々による個別共同研究が中心となっている。

酪農	AMED（日本医療研究開発機構）・JICA（国際協力機構）による医療分野国際科学技術共同研究開発事業「地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）」が採択され（2023年度～2028年度）、6年間にわたる共同研究プロジェクトによりワンヘルス・教育・官民連携による顧みられない人獣共通感染症介入の共同デザインに関する研究開発について取り組む。大学院生の研究やRAとして参画している。
北里	学術交流協定（大学間協定）があるインドネシア ハサヌディン大学との共同研究、かつて（R4-5）の留学先（米国）との共同研究を実施、 (1) Prof. Hiroyuki Nakai (Oregon Health & Science University)と尿路結石症に関する共同研究実施中、(2) Prof. Guido R.Y. De Meyer (University of Antwerp)とリウマチ性関節炎に関する共同研究実施中、共著論文で参加、事業名：医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業，プログラム名：地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS)，期間：平成29年6月20日から令和5年3月31日、以前、本研究室に在籍したタイ人留学生3名（博士取得後帰国）と共同で研究を進め、5本の共著論文を発表してきた、平成29年から令和2年度まで在籍した、タイ王国からの大学院留学生の学位論文研究に関する学術雑誌への投稿論文の責任著者を務めた、

	KAZAKH NATIONAL AGRARIAN RESEARCH UNIVERSITY との共同研究、中国の大学との共著論文あり、ブラジルの研究者との共著 (Rocha et al., 2021. Microb Pathog.)、中国の大学との研究室間における国際的な共同研究について打ち合わせ中、2021-2022 Hanwoo Research Institute (韓国) と牛精子の品質評価に関する共同研究を実施、タイカセサート大学との共著論文発表実績あり (https://doi.org/10.1016/j.envpol.2023.122837)、Dr. Martin Cohn Oxford University, Dr. Virginia R. Pearson Fox Chase Cancer Center との共同研究、国際共同研究強化(B)「フィリピンにおける牛マダニ媒介性感染症のゲノム疫学調査と実践的診断法の構築」(令和2-5年度)に研究分担者として参加した。
日獣	個別に実施しているが、国際交流協定を結んでいるオーストラリア・クィーンズランド大学とは野生動物の保護活動のための基礎研究部門の共同研究を行い専門誌への共同発表など実施している。
麻布	研究科として組織的な取組は行っておらず、教員個々に国際的な共同研究を行っている。
日大	教員個々に共同研究を行っている。

5-3. 海外研究拠点の設置状況の有無

全大学で海外研究拠点の新規設置はゼロであり、以前より実質的な改善は認められず、特に日本大学は第7次相互評価当時において共同研究ネットワークの拠点をもち活用していたものの、今回は「0」と明記され、拠点はなくなっている。全体として、海外研究拠点の整備状況は横ばいまたは後退していると見てとれる。

酪農	無
北里	無
日獣	無
麻布	無
日大	無

6. 大学院担当教員の活動時間の比率 (1週間の平均の活動時間をご記載ください)

第7次相互評価当時とほぼ同様であった。全体として、教員数は“基礎応用”が臨床“に比べて多い。日本大学では講師数が基礎応用ではゼロとなっていた。大学院教育にかける時間は、酪農学園大学および日本獣医生命科学大学で臨床系教員が基礎応用系教員よりも多い(教授および准教授)。研究活動の時間を見ると、基礎応用系教員のほうが臨床系教員よりも長くなっていた。

【酪農】

No	資格 ^a	区分 ^b	活動時間 (時間/週)					
			学部教育	臨床活動	大学院教育	研究活動	大学運営管理	社会活動
1	教授	応用系	5	1	1	21	5	14
2	講師	応用系	15	0	2	10	11	2
3	准教授	応用系	15	0	5	10	10	7
4	准教授	臨床系	8	3	0	10	5	2

5	教授	臨床系	14	12	0.5	2.5	20	0
6	教授	基礎系	15	0	5	5	15	1
7	講師	基礎系	15	0	2	20	20	2
8	准教授	基礎系	40	0	10	5	0	0
9	助教	基礎系	15	0	0	25	10	5
10	教授	応用系	10	2	2	24	2	0
11	教授	基礎系	20	1	10	10	20	5
12	講師	基礎系	10	0	2	20	10	10
13	准教授	基礎系	20	2	10	50	10	0.5
14	教授	基礎系	40	0	20	20	10	10
15	講師	基礎系	4.5	0	1.5	30	4	0.5
16	教授	基礎系	12	0	0	24	20	0
17	准教授	臨床系	10	40	5	5	10	0
18	教授	応用系	6	0	12	3	24	1
19	准教授	臨床系	26	40	1	5	10	1
20	教授	臨床系	15	20	1	10	1	1
21	教授	基礎系	10	0	0.1	5	2	2
22	講師	臨床系	20	20	2	3	1	0
23	講師	基礎系	20	0	1	15	5	0
24	教授	応用系	20	0	5	5	5	5
25	教授	応用系	9	4	3	10	0.5	0.3
26	教授	応用系	10	0	8	8	7	7
27	准教授	臨床系	6	16	2	5	10	5
28	講師	臨床系	15	12	0	8	5	10
29	准教授	応用系	15	0	0	10	20	5
30	講師	基礎系	25	0	1	10	10	5
31	教授	応用系	20	3	5	20	3	3
32	准教授	臨床系	6	12	2	6	2	1
33	教授	応用系	15	0	2	15	10	2
34	講師	応用系	15	0	8	15	10	8
35	教授	基礎系	10	0	2	2	10	1
36	准教授	基礎系	15	0	0	5	25	0
37	准教授	応用系	15	0	10	5	10	10
38	教授	臨床系	12	14	4	4	15	1
39	講師	臨床系	10	30	10	15	10	10
40	教授	臨床系	9	24	2	1	3	16
41	教授	応用系	20	0	5	10	5	0

【北里】

No	資格 ^a	区分 ^b	活動時間（時間／週）					
			学部教育	臨床活動	大学院教育	研究活動	大学運営管理	社会活動
1	教授	非臨床系	20	0	12	14	3	1
2	教授	非臨床系	6	0	16	20	5	3
3	教授	非臨床系	6	6	6	6	3	4
4	教授	非臨床系	20	0	15	10	3	7
5	教授	非臨床系	15	0	0	15	10	1
6	教授	非臨床系	20	0	0	20	10	0
7	教授	臨床系	14	16	10	5	5	5
8	准教授	非臨床系	20	0	10	10	0	10
9	准教授	臨床系	15	15	10	10	3	3
10	講師	非臨床系	10	0	0	30	5	5
11	講師	非臨床系	10	1	3	40	4	1
12	講師	臨床系	25	5	0	15	10	0
13	講師	臨床系	20	25	0	2	3	5
14	講師	臨床系	15	8	0	10	5	4
15	助教	非臨床系	40	0	0	39	1	0
16	助教	臨床系	15	20	4	15	5	2
17	教授	非臨床系	19	0	3	17	9	7
18	教授	非臨床系	20	0	0	7	20	2
19	准教授	臨床系	8	25	0	15	5	5
20	教授	非臨床系	15	0	0	25	0	0
21	准教授	非臨床系	15	0	10	20	0	0
22	教授	臨床系	15	15	3	8	5	1
23	教授	臨床系	20	5	0	10	5	15
24	教授	臨床系	12	5	3	5	12	3
25	教授	臨床系	10	30	0	7	3	3
26	講師	非臨床系	20	0	0	30	10	0
27	教授	非臨床系	35	0	5	10	15	1
28	准教授	非臨床系	30	0	3	13	12	1
29	教授	非臨床系	25	0	5	10	10	5
30	講師	臨床系	6	25	20	4	10	1
31	准教授	臨床系	10	20	5	10	3	0
32	講師	非臨床系	15	0	0	30	5	2
33	教授	臨床系	18	18	6	6	2	4
34	講師	非臨床系	20	0	2	14	1	3
35	教授	非臨床系	20	0	10	20	3	3

36	講師	非臨床系	16	0	0	32	2	0
37	講師	臨床系	10	15	4	15	2	5
38	講師	非臨床系	17	0	10	5	3	5
39	准教授	非臨床系	18	0	12	12	5	0
40	助教	非臨床系	3	0	6	40	6	0
41	准教授	臨床系	12	24	1	6	4	1
42	講師	臨床系	10	30	0	6	2	0
43	講師	非臨床系	20	0	0	15	10	5
44	教授	非臨床系	10	0	10	10	20	5
45	助教	非臨床系	8	0	15	25	3	2
46	講師	非臨床系	30	0	5	15	0	5
47	講師	臨床系	5	35	0	10	2	3

【日獣】

No	資格 ^a	区分 ^b	活動時間（時間／週）					
			学部教育	臨床活動	大学院教育	研究活動	大学運営管理	社会活動
1	教授	非臨床系	15	0	8	15	2	0
2	教授	非臨床系	5	0	2	1	30	2
3	教授	非臨床系	14	0	10	10	5	1
5	教授	非臨床系	19	0	8	15	5	3
6	教授	非臨床系	15	0	2	16	4	3
7	教授	臨床系	5	10	5	5	10	5
8	教授	臨床系	10	7	10	7	10	10
9	教授	臨床系	5	20	15	10	2	5
10	教授	臨床系	7	13	0	0	15	5
11	教授	臨床系	5	10	10	8	5	2
12	教授	臨床系	8	10	2	10	8	2
13	教授	臨床系	9	1	8	8	10	6
14	教授	非臨床系	20	0	2	6	10	2
15	教授	非臨床系	10	0	15	10	8	2
16	教授	非臨床系	5	0	3	5	25	2
17	教授	非臨床系	5	0	10	15	5	5
18	准教授	非臨床系	20	0	10	5	5	20
19	教授	非臨床系	6	0	4	6	13	1
20	教授	非臨床系	15	0	5	10	5	5
21	教授	非臨床系	15	0	3	4	10	8
22	教授	非臨床系	15	0	8	15	2	0
23	教授	非臨床系	12	0	6	10	8	4

24	教授	非臨床系	10	0	4	10	8	2
25	教授	非臨床系	15	0	5	10	5	5
26	教授	臨床系	15	10	3	4	4	4
27	教授	臨床系	8	8	6	6	4	1
28	准教授	非臨床系	20	0	2	10	1	1
29	准教授	非臨床系	15	0	5	17	2	1
30	准教授	非臨床系	20	0	0	16	4	0
31	准教授	非臨床系	10	0	1	5	16	8
32	准教授	非臨床系	12	0	10	10	0	8
33	准教授	非臨床系	20	0	0	10	10	0
34	准教授	非臨床系	15	0	6	13	2	4
35	准教授	非臨床系	20	0	10	4	2	6
37	准教授	非臨床系	20	0	0.5	10	9	0.5
38	准教授	非臨床系	20	0	2	10	10	3
39	准教授	非臨床系	30	2	0	10	10	3
40	准教授	非臨床系	18	1	2	8	8	3
41	准教授	臨床系	5	15	5	10	5	0
42	准教授	臨床系	5	20	5	5	8	1
43	准教授	臨床系	10	24	1	0	5	0
45	准教授	臨床系	12	8	5	10	5	0
46	准教授	臨床系	20	1	1	15	0	13
47	准教授	臨床系	10	5	2	10	10	3
48	准教授	非臨床系	10	0	1	20	2	2
49	准教授	非臨床系	10	0	8	15	5	2
50	准教授	非臨床系	20	0	0	18	0	2
51	准教授	非臨床系	8	0	10	11	10	1
52	准教授	非臨床系	10	0	10	12	10	5
53	准教授	臨床系	10	6	0	4	3	3
54	准教授	臨床系	10	10	5	5	8	2
55	講師	非臨床系	25	0	1	8	4	2
56	講師	非臨床系	20	0	0	10	10	0
57	講師	非臨床系	18	0	2	12	6	2
58	講師	非臨床系	20	0	2	12	2	4
59	講師	臨床系	10	16	8	10	4	2
60	講師	臨床系	10	10	3	12	2	2
61	講師	臨床系	3	36	1	5	3	1
62	講師	臨床系	10	28	6	2	1	3
63	講師	臨床系	10	12	4	10	4	0
64	講師	非臨床系	14	0	6	8	4	8

65	講師	非臨床系	15	0	0	15	9	1
66	講師	非臨床系	10	0	2	10	1	1
67	講師	非臨床系	10	0	10	10	8	2
68	講師	非臨床系	25	0	5	7	2	1
69	講師	非臨床系	15	0	1	12	8	4
70	講師	臨床系	10	8	8	10	2	2
71	講師	臨床系	12	20	2	4	1	1

【麻布】

No	資格 ^a	区分 ^b	学部教育	臨床活動	大学院教育	研究活動	大学運営管理
1	教授	非臨床系	13.4	0	1.8	10	13.8
2	教授	非臨床系	13	0	0	27	0
3	教授	非臨床系	12.4	0	0	12	10.6
4	教授	非臨床系	10.4	3	1.6	7	13
5	教授	非臨床系	15	0	5	8	10
6	教授	非臨床系	12.3	0	0.9	2.8	20
7	教授	非臨床系	11.2	0	6.8	10	2
8	教授	非臨床系	11.6	0	1	24.4	2
9	教授	非臨床系	9.6	0	0.9	8	20
10	教授	臨床系	13.2	8	0.9	4.9	6
11	教授	臨床系	14.9	5	2	43	10
12	教授	臨床系	17.2	12	2	4	0.8
13	教授	臨床系	17.6	12	3	3	2
14	教授	臨床系	16	4	4	6	8
15	教授	臨床系	14.2	15.3	0.5	5	3
16	教授	臨床系	18.6	16.4	0	2	2
17	准教授	非臨床系	14.9	0	0.9	14.2	10
18	准教授	非臨床系	11.6	0	2	12.4	8
19	准教授	臨床系	14.9	16	0.4	6	1.5

【日大】

No	資格 ^a	区分 ^b	学部教育	臨床活動	大学院教育	研究活動	大学運営管理
1	教授	臨床系	15	20	5	5	5
2	教授	臨床系	8	30	4	8	4
3	教授	臨床系	8	32	5	8	1
4	教授	臨床系	15	24	6	6	5
5	教授	臨床系	20	4	1	15	3

6	教授	臨床系	14	25	5	6	3
7	教授	臨床系	15	8	6	6	25
8	准教授	臨床系	16	14	2	14	3
9	教授	非臨床系	16	0	4	10	10
10	教授	非臨床系	14	0	30	7	3
11	教授	非臨床系	15	0	15	6	8
12	教授	非臨床系	20	0	5	15	5
13	教授	非臨床系	15	0	3	5	20
14	教授	非臨床系	14	0	8	7	10
15	教授	非臨床系	14	0	6	20	4
16	教授	非臨床系	20	0	5	15	10
17	教授	非臨床系	20	0	5	10	15
18	教授	非臨床系	16	0	16	16	2
19	教授	非臨床系	20	0	10	12	1
20	准教授	非臨床系	24	0	5	25	3
21	准教授	非臨床系	28	0	2	10	16
22	准教授	非臨床系	29	0	4	6	20
23	准教授	非臨床系	25	0	1	9	20
24	准教授	非臨床系	15	10	5	10	10
25	准教授	非臨床系	18	0	9	20	7
26	准教授	非臨床系	15	0	10	20	2
27	准教授	非臨床系	35	0	10	5	5

7. 大学院担当教員の研究業績

7-1. 大学院担当教員の研究業績

各大学大学院で資格階層ごとに非常に多くの業績を有する研究者も認められた一方で、業績数にはかなりの個人差が認められた。学術論文数について、第7次相互評価当時は、一般的に基礎系、応用系、臨床系の順で多い傾向が認められたが、今回は特にそのような傾向はみられず、応用系および臨床系の教員でも多くの業績を有していた。和文と英文の割合をみると、基礎系、応用系、臨床系に関わらず、多くの研究者が英文で多くの報告を行っていた。獣医学の発展とその意義の周知のために、今後ますます、多くの高い評価の業績を報告していくための努力が大学院担当教員に必要と考えられた。

【酪農】

No	資格 ^a	区分 ^b	件数											
			著書	学術論文		紀要	総説・ 解説・ 翻訳書 その他	特許	受賞	科学研究費補 助金		研究助成金		
				和文	英文					総額 (万円)	件数	総額 (万円)	件数	

1	教授	応用系	5	50	10	20	50	0	1	40	1	60	3
2	講師	応用系	1	10	35	0	0	0	0	950	5	3	500
3	准教授	応用系	10	1	19	1	7	0	0	1000	2	900	5
4	准教授	臨床系	1	1	13	0	1	0	3	40	1	392	2
5	教授	臨床系	5	1	17	0	0	0	0	312	3	1630	4
6	教授	基礎系	2	0	33	0	0	0	7	650	2	750	1
7	講師	基礎系	10	0	10	0	1	0	1	559	2	70	2
8	准教授	基礎系	0	3	19	0	0	0	1	918	6	1646	14
9	助教	基礎系	0	1	13	0	3	0	4	1352	3	0	0
10	教授	応用系	1	6	11	1	0	0	0	0	0	100	1
11	教授	基礎系	1	5	24	0	0	1	1	400	1	1000	15
12	講師	基礎系	2	1	36	0	2	3	1	416	1	1361	8
13	准教授	基礎系	0	2	6	0	0	0	1	100	1	25	1
14	教授	基礎系	3	0	23	0	3	0	1	897	2	730	2
15	講師	基礎系	1	1	8	3	0	0	3	754	2	465	5
16	教授	基礎系	1	0	5	0	0	0	0	399	1	0	0
17	准教授	臨床系	8	0	21	0	0	0	0	900	2	0	0
18	教授	応用系	0	0	30	0	0	0	5	600	5	0	0
19	准教授	臨床系	26	0	16	0	0	0	1	20	2	0	0
20	教授	臨床系	3	0	9	0	1	0	0	0	0	0	0
21	教授	基礎系	2	0	10	0	0	0	0	0	0	2778	1
22	講師	臨床系	2	0	19	0	0	0	0	338	1	0	0
23	講師	基礎系	0	1	9	0	0	0	3	0	0	0	0
24	教授	応用系	2	5	60	0	2	0	5	3000	4	1000	2
25	教授	応用系	4冊	7	24	1	0	0	1	416	1	416	0
26	教授	応用系	3	3	40	0	3	0	3	500	3	500000	7
27	准教授	臨床系	7	0	45	0	25	0	2	897	2	1017	3
28	講師	臨床系	2	16	10	0	11	0	3	0	0	200	2
29	准教授	応用系	0	4	7	0	0	0	0	858	2	1158	7
30	講師	基礎系	0	0	24	0	5	1	9	1413	2	140	5
31	教授	応用系	0	6	15	4	1	0	0	0	0	0	0
32	准教授	臨床系	10	2	6	0	2	0	4	0	0	1000	6
33	教授	応用系	5	4	22	1	3	0	0	4200	5	50	1
34	講師	応用系	0	3	25	2	0	0	4	420	1	950	3
35	教授	基礎系	4	5	11	0	0	0	0	0	0	0	0
36	准教授	基礎系	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
37	准教授	応用系	0	1	27	0	1	1	2	741	2	390	5
38	教授	臨床系	1	0	10	0	19	0	1	481	1	0	0
39	講師	臨床系	15	0	4	0	1	0	2	450	1	2	150

40	教授	臨床系	3	1	9	0	8	0	5	0	0	0	0
41	教授	応用系	0	7	0	0	4	0	0	0	0	0	0

【北里】

No	資格 ^a	区分 ^b	件数										
			著書	学術論文		紀要	総説・ 解説・ 翻訳書 その他	特許	受賞	科学研究費補 助金		研究助成金	
				和文	英文					総額 (万円)	件数	総額 (万円)	件数
1	講師	臨床系	0	0	10	0	4	0	0	0	0	120	2
2	講師	応用系	0	1	12	0	0	0	0	2,366	3	30	1
3	教授	基礎系	3	0	9	0	0	0	0	0	0	150	1
4	講師	臨床系	4	0	14	0	0	3	10	3,263	4	300	4
5	教授	応用系	7	3	19	0	3	2	0	800	2	1,500	3
6	准教授	臨床系	3	1	2	0	2	0	1	660	2	0	0
7	教授	基礎系	2	0	37	0	1	1	0	494	5	3,120	13
8	助教	臨床系	5	1	4	0	1	0	1	208	1	9	1
9	教授	臨床系	16	0	16	0	19	0	3	0	0	900	5
10	講師	臨床系	3	1	33	1	5	0	0	832	2	0	0
11	助教	基礎系	3	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0
12	准教授	基礎系	3	1	17	1	4	0	0	2,000	1	0	0
13	教授	応用系	0	1	12	0	7	0	0	1,844	5	520	8
14	教授	基礎系	0	0	13	0	2	0	1	50	1	0	0
15	教授	基礎系	4	0	12	0	0	0	0	0	0	100	5
16	講師	臨床系	0	2	7	2	1	0	0	0	0	250	1
17	教授	応用系	4	0	16	0	22	1	0	416	1	6,093	21
18	教授	応用系	1	2	6	0	1	0	0	0	0	2,232	18
19	准教授	臨床系	0	1	6	40	0	0	3	0	0	160	1
20	教授	応用系	3	1	21	0	3	0	0	100	1	100	4
21	准教授	基礎系	0	1	25	0	0	0	1	858	2	0	0
22	教授	臨床系	3	10	12	0	1	0	0	0	0	500	2
23	教授	臨床系	0	1	9	1	4	0	0	500	1	450	1
24	教授	臨床系	8	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0
25	教授	臨床系	3	0	3	0	3	0	0	0	0	0	0
26	講師	応用系	1	0	2	0	0	0	0	403	1	0	0
27	教授	基礎系	0	3	4	0	1	0	0	130	1	0	0
28	准教授	応用系	0	0	15	0	1	0	2	663	3	200	2
29	教授	応用系	2	0	10	0	2	0	1	897	1	235	6
30	講師	臨床系	2	3	15	0	4	1	4	712	3	0	0

31	准教授	臨床系	0	0	17	0	5	0	0	575	1	2,130	3
32	講師	応用系	0	2	19	0	5	0	2	1,916	2	777	5
33	教授	臨床系	5	0	8	2	3	0	1	0	0	1,000	3
34	講師	基礎系	0	0	15	0	2	0	1	910	2	0	0
35	教授	応用系	5	0	22	0	1	0	0	2,200	2	0	0
36	講師	基礎系	2	0	11	0	0	0	0	455	1	0	0
37	講師	臨床系	0	1	19	0	3	0	8	922	2	200	2
38	講師	基礎系	3	0	12	17	1	0	1	1,395	6	950	2
39	准教授	基礎系	0	0	12	0	0	0	0	560	2	0	0
40	助教	基礎系	1	0	11	0	0	0	1	455	1	0	0
41	准教授	臨床系	2	0	4	2	1	0	1	0	0	100	1
42	講師	臨床系	1	0	3	0	2	0	0	0	0	100	1
43	講師	基礎系	1	0	20	0	0	0	1	636	2	30	1
44	教授	基礎系	3	0	46	6	0	0	0	2,795	7	2,500	5
45	助教	応用系	2	0	18	0	0	0	0	200	1	64	1
46	講師	基礎系	2	0	9	1	0	0	0	0	0	200	1
47	講師	臨床系	4	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0

【日獣】

No	資格 ^a	区分 ^b	件数										
			著書	学術論文		紀要	総説・ 解説・ 翻訳書 その他	特許	受賞	科学研究費補 助金		研究助成金	
				和文	英文					総額 (万円)	件数	総額 (万円)	件数
1	教授	基礎系	1	0	17	0	0	0	0	403	3	0	0
2	教授	基礎系	0	0	8	0	1	0	0	1,209	4	0	0
3	教授	基礎系	0	0	3	0	0	0	0	650	4	0	0
5	教授	基礎系	4	0	3	0	1	0	0	0	0	300	1
6	教授	基礎系	3	1	4	0	0	1	0	1,742	4	0	0
7	教授	臨床系	1	0	28	0	3	0	3	0	0	100	1
8	教授	臨床系	1	0	10	0	30	0	0	0	0	0	0
9	教授	臨床系	1	2	50	0	5	0	8	169	1	0	0
10	教授	臨床系	6	2	8	0	0	0	0	0	0	0	0
11	教授	臨床系	8	0	29	0	16	0	0	2,223	3	1,530	1
12	教授	臨床系	0	0	6	0	0	0	0	533	4	0	0
13	教授	臨床系	0	1	11	0	0	0	0	2,054	5	0	0
14	教授	基礎系	3	0	7	0	1	0	0	0	0	0	0
15	教授	応用系	2	2	16	0	0	0	0	0	0	378	1
16	教授	応用系	3	1	16	0	0	0	0	416	3	0	0

17	教授	応用系	5	0	27	0	3	0	0	416	3	32,563	6
18	准教授	応用系	1	1	15	2	1	0	0	0	0	9,433	19
19	教授	応用系	2	0	9	0	0	0	0	1,742	3	1,025	4
20	教授	応用系	3	1	4	0	1	0	0	221	2	150	1
21	教授	基礎系	7	3	12	0	24	0	0	130	1	600	3
22	教授	基礎系	0	0	17	4	0	0	0	0	0	1,937	17
23	教授	基礎系	1	0	12	0	1	1	0	429	3	0	0
24	教授	応用系	3	3	10	0	1	0	1	585	5	500	3
25	教授	応用系	4	0	6	2	0	0	0	0	0	0	0
26	教授	臨床系	12	3	0	0	14	0	0	0	0	0	0
27	教授	臨床系	14	1	10	3	4	0	0	0	0	60	1
28	准教授	基礎系	2	0	7	0	1	0	0	247	2	0	0
29	准教授	基礎系	0	0	6	0	1	0	2	416	3	0	0
30	准教授	基礎系	0	0	9	0	0	0	0	195	1	0	0
31	准教授	基礎系	0	2	3	0	0	0	0	446	4	0	0
32	准教授	基礎系	1	0	9	0		0	0	0	0	0	0
33	准教授	基礎系	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
34	准教授	応用系	4	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
35	准教授	基礎系	2	2	41	0	1	0	0	741	5	0	0
37	准教授	基礎系	0	0	5	0	1	0	0	195	1	0	0
38	准教授	基礎系	2	0	11	0	6	0	0	585	4	200	2
39	准教授	基礎系	6	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
40	准教授	基礎系	6	4	24	0	11	0	1	702	5	520	4
41	准教授	臨床系	0	0	35	0	2	0	0	2,002	5	100	2
42	准教授	臨床系	1	0	11	0	38	0	0	0	0	300	1
43	准教授	臨床系	0	1	25	0	5	0	0	0	0		
45	准教授	臨床系	0	0	6	0	11	0	1	767	5	884	2
46	准教授	臨床系	1	0	2	1	80	0	0	0	0	1,200	8
47	准教授	臨床系	2	7	30	0	58	0	1	1,573	4	1,000	6
48	准教授	基礎系	3	1	1	0	1	0	0	494	4	0	0
49	准教授	応用系	0	0	34	0	0	0	0	429	3	487	7
50	准教授	応用系	1	0	14	0	0	0	0	442	3	315	3
51	准教授	応用系	1	3	24	0	0	0	0	416	3	100	1
52	准教授	応用系	2	3	19	0	3	0	2	442	5	125	3
53	准教授	臨床系	2	2	0	0		0	0	0	0	0	0
54	准教授	臨床系	2	0	9	0	20	0	0	143	1	100	2
55	講師	基礎系	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0
56	講師	基礎系	0	0	6	0	0	0	0	429	3	0	0
57	講師	応用系	2	0	5	0	0	0	0	416	3	0	0

58	講師	基礎系	0	1	30	0	0	0	2	338	2	667	4
59	講師	臨床系	20	2	37	0	54	0	9	715	4	457	9
60	講師	臨床系	5	5	4	0	10	0	0	0	0	0	0
61	講師	臨床系	6	10	26	0	0	1	2	0	0	0	0
62	講師	臨床系	2	0	8	0	10	0	0	0	0	0	0
63	講師	臨床系	3	0	10	0	1	0	0	611	4	0	0
64	講師	応用系	1	1	19	0	2	0	0	0	0	5,400	6
65	講師	応用系	1	0	2	0	0	0	0	650	3	0	0
66	講師	基礎系	3	0	6	0	0	0	0	0	0	90	2
67	講師	基礎系	3	0	5	0	1	0	0	338	3	100	1
68	講師	基礎系	0	0	8	0	2	0	0	1,261	3	0	0
69	講師	応用系	0	7	14	1	3	0	3	0	0	60	1
70	講師	臨床系	6	2	4	0	0	0	1	0	0	0	0
71	講師	臨床系	7	3	10	0		0	0	390	3	120	3

【麻布】

No	資格 ^a	区分 ^b	件数										
			著書	学術論文		紀要	総説・ 解説・ 翻訳書 その他	特許	受賞	科学研究費補 助金		研究助成金	
				和文	英文					総額 (万円)	件数	総額 (万円)	件数
1	教授	基礎系	3	0	10	0	0	1	0	143	1	0	0
2	教授	基礎系	0	0	12	0	0	2	0	380	2	850	3
3	教授	基礎系	6	1	14	0	27	2	0	0	0	1,278	5
4	教授	基礎系	0	0	22	1	0	0	0	530	2	0	0
5	教授	基礎系	1	0	5	0	0	0	0	300	1	3,780	1
6	教授	応用系	1	1	6	0	0	0	0	800	2	450	4
7	教授	応用系	3	0	30	3	0	1	0	0	0	7,000	2
8	教授	応用系	0	0	20	0	1	0	0	500	1	250	2
9	教授	応用系	8	0	25	0	6	0	0	0	0	450	2
10	教授	臨床系	2	1	12	0	1	0	0	0	0	240	2
11	教授	臨床系	3	0	26	0	0	5	3	273	1	19,603	62
12	教授	臨床系	4	23	1	0	24	0	5	100	2	0	0
13	教授	臨床系	1	2	33	0	16	1	1	1,300	3	300	4
14	教授	臨床系	2	1	36	0	15	0	0	910	2	400	2
15	教授	臨床系	12	1	12	0	7	0	1	0	0	300	5
16	教授	臨床系	2	2	8	0	10	0	0	0	0	0	0
17	准教授	基礎系	4	3	6	5	38	2	0	914	3	318	6
18	准教授	応用系	3	2	19	0	2	1	0	0	0	600	10

19	准教授	臨床系	2	2	10	0	5	1	0	0	0	300	2
----	-----	-----	---	---	----	---	---	---	---	---	---	-----	---

【日大】

No	資格 ^a	区分 ^b	件数										
			著書	学術論文		紀要	総説・ 解説・ 翻訳書 その他	特許	受賞	科学研究費補 助金		研究助成金	
				和文	英文					総額 (万円)	件数	総額 (万円)	件数
1	准教授	基礎系	3	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0
2	その他	臨床系	0	0	11	0	3	0	0	0	0	0	0
3	教授	応用系	2	1	13	0	15	0	0	0	0	0	0
4	准教授	応用系	1	0	9	0	3	1	1	341	1	0	0
5	教授	基礎系	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0
6	准教授	基礎系	0	0	8	0	2	0	0	393	1	0	0
7	その他	臨床系	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
8	准教授	臨床系	1	0	4	0	0	0	1	0	0	0	0
9	その他	応用系	3	0	15	0	4	0	0	0	0	0	0
10	教授	応用系	2	0	13	0	1	0	1	0	0	0	0
11	准教授	基礎系	3	2	39	0	71	0	5	0	0	0	0
12	教授	基礎系	3	0	6	0	0	0	0	349	1	0	0
13	教授	基礎系	2	2	17	0	53	0	0	0	0	0	0
14	准教授	基礎系	0	0	15	0	1	0	0	350	1	0	0
15	その他	臨床系	2	2	17	0	2	0	0	349	1	0	0
16	教授	臨床系	6	2	8	0	26	0	0	0	0	0	0
17	教授	臨床系	10	0	4	0	8	0	0	0	0	0	0
18	教授	基礎系	0	1	5	0	0	0	0	408	1	0	0
19	教授	臨床系	14	2	18	0	76	7	6	2,970	2	0	0
20	教授	基礎系	2	2	18	0	2	0	0	0	0	0	0
21	准教授	基礎系	1	0	4	0	6	0	0	356	1	0	0
22	教授	基礎系	0	1	6	0	1	0	0	0	0	0	0
23	教授	基礎系	8	3	9	0	1	0	0	355	1	0	0
24	教授	応用系	0	3	13	0	4	0	1	353	1	0	0
25	准教授	基礎系	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0
26	教授	臨床系	8	1	36	0	2	0	6	0	0	0	0
27	教授	臨床系	2	3	5	0	12	0	2	0	0	0	0
28	教授	臨床系	2	0	10	0	0	0	0	761	2	0	0
29	教授	応用系	0	3	11	0	5	0	0	350	1	0	0
30	准教授	応用系	1	1	15	0	5	0	0	369	1	0	0
31	教授	臨床系	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0

32	教授	臨床系	1	3	9	0	11	0	0	0	0	0	0
33	教授	臨床系	0	2	7	0	1	0	0	0	0	0	0
34	その他	臨床系	1	0	3	0	3	0	0	0	0	0	0

7-2. 大学院担当教員の研究業績の評価法

7-2-1. 大学院担当教員の研究業績の評価法について

第7次相互評価当時とほぼ同様であった。各大学大学院の担当教員としての研究業績評価基準については、主に学術論文数を基本としている点は共通していたが、各大学院間でその他の基準に相違があった。主な違いは、論文形式が英文であるか、原著論文であるかどうか、であった。

酪農	原著論文数を用いて研究業績を評価している
北里	4-1 に記載の基準をもって評価している。
日獣	筆頭著者を中心とした原著数を優先して評価している。
麻布	4 に記載の基準をもって評価している。
日大	原著論文若しくは学術上価値ある著書（学術著書），又はこれに相当する学術上の業績数

7-2-2. 業績の判断対象となる学術雑誌の基準をご記載ください。

学術雑誌の基準では、基本的にはレフリー制度のある学術誌であった。

酪農	ア カレントコンテンツ、または Medline (Pubmed) に収録された雑誌 イ 日本学術会議登録学術研究団体の発行する雑誌 ウ 上記以外でレフリー制があり、獣医学研究科担当教員資格審査委員会が認めた雑誌レフリーのある学術誌（日本学術会議登録） 全て英語論文
北里	1. Web of Science、MEDLINE、PubMed、DOAJ に収録された雑誌 2. 日本学術会議協力学術研究団体が刊行する学術雑誌
日獣	英文でさらにインパクトファクターのあるレフリー誌および英文でさらに J-Stage 登録雑誌に印刷されたものを基準としている。
麻布	評価の対象となる論文は、理系教員においては次に定める各号のいずれかに該当する学術雑誌等に掲載された英文の原著論文、短報又は総説とする。 (1) Web of Science 又は Pub Med に掲載されているもの (2) Clarivate Analytics 社インパクトファクター(IF)が付いているもの (3) 年4回以上の定期刊行の実績のある学会誌 前述の記載にかかわらず、学術上価値のある著書又はこれに相当する学術上の業績も評価の対象となる論文として扱うことができる。 論文の内容は、担当する分野に関連の深いものでなければならない。
日大	日本学術会議協力学術研究団体に登録され、厳正な査読基準を有し、公表されている学・協会誌又は公的援助を受けている等、学術的価値が認められている学・協会誌

7-2-3. 被引用件数、インパクトファクターなどの扱いをご記載ください。

被引用件数やインパクトファクターについては、前者は5大学とも取り扱わないと
したが、後者については取り扱う大学もみられた。

酪農	被引用研修は考慮していない。IFの合計は論文数とみなしている。
北里	特に扱いはない。
日獣	原則としては原著数であるが、筆頭論文のインパクトファクターおよび共著のインパクトファクターの一部を換算し、総論文数を軽減することができる。
麻布	特に設けていない。
日大	特に扱いはない。

8. 教員の研究領域・指導実績（過去5年間：平成31年4月～令和6年3月）

過去5年間（平成31年4月～令和6年3月）の大学院担当教員の研究領域および指導実績は、各大学の大学院の各資格階層によって様々であった。

【酪農】

No	資格 ^a	研究領域コード ^b	研究分野	主な研究テーマ	研究指導実績 (件数)		その他
					主査	副査	
1	教授	42020	医動物学	野生動物などの寄生虫病診断・疫学	0	4	0
2	講師	4202058020	耐性菌、食品微生物	耐性菌、食品微生物	0	2	0
3	准教授	42010	乳牛の栄養生理学	代謝疾病の予防、生産効率の向上、	0	0	0
4	准教授	42020	馬および牛の臨床	酸化ストレスによる炎症評価	0	0	0
5	教授	42020	獣医学（臨床）	循環器と他臓器の多臓器円環、心臓血管外科、体外循環、サルコペニア	3	4	0
6	教授	42020	獣医学関連	解剖学	1	2	0
7	講師	42020	免疫学	樹状細胞動態の解明とその制御による抗腫瘍免疫増強、鳥類の免疫機構の解明	0	0	0
8	准教授	5506040010	救急医学関連、森林科学関連	ブタを用いた敗血症治療の研究、アカエゾマツ精油による生物活性	0	2	0
9	助教	42040	実験動物	胚着床	0	0	0
10	教授	42020	獣医病理学	馬の腫瘍性疾患の病理	0	3	0
11	教授	4202049060	獣医学、ウイルス	ウイルス感染症	1	4	0
12	講師	42020	基礎獣医学	アレルギー	0	0	0
13	准教授	42020	寄生虫病学・臨床病理学	原虫の遺伝子解析と進化系統解析	0	2	0

14	教授	42020	獣医学関連	ヒトの代謝酵素を備えた下等脊椎動物 in vivo モデルの作成	3	5	0
15	講師	49040	寄生虫学	原虫、遺伝子編集	0	0	0
16	教授	42020	消化生理学と内分泌学	消化管ペプチドによる消化管の機能調節、腸内分泌細胞のオルガノイドの開発	0	3	0
17	准教授	55060	救急	敗血症の治療	0	2	0
18	教授	49070	獣医学	感染症	2	5	0
19	准教授	42020	画像診断学	超音波検査を用いた腎静脈血流評価	0	1	0
20	教授	42020	臨床獣医学	生産獣医療における生産性阻害因子の追究	0	2	0
21	教授	4202049050	細菌学	動物の細菌感染症、薬剤耐性菌	1	1	0
22	講師	42020	臨床獣医学	てんかん	0	1	0
23	講師	4404042020	形態学	電子顕微鏡を用いた3次元構築	0	0	0
24	教授	42020	食品衛生	薬剤耐性菌	1	4	0
25	教授	42020	応用獣医学	乳牛、ケトosis、脂肪肝、生産性、予防	1	3	0
26	教授	42020	疫学	感染症の制御	6	5	0
27	准教授	42020	臨床獣医学（獣医内科学）	伴侶動物の消化管疾患の病態解析	0	3	0
28	講師	42010	獣医学・動物生産学	乳牛の運動器に関する臨床研究	0	0	0
29	准教授	49060	ウイルス学、人獣共通感染症学、公衆衛生学	節足動物媒介性ウイルス感染症	0	0	0
30	講師	42020	微生物・感染症	バクテリオファージの感染分子機構とファージ療法への応用	0	0	0
31	教授	42020, 44050, 40030	野生動物、行動生理、水圏生態系	野生動物の生態および伴侶動物の行動に関する研究	2	3	0
32	准教授	54010	腫瘍	腫瘍の新規治療	0	2	0
33	教授	47030, 58020, 63010	公衆衛生、環境衛生、バイオエアロ、感染症対策	バイオエアロゾルによる感染の調査、メカニズムの把握、	0	5	0
34	講師	42020	獣医学	野生動物の感染症疫学	0	0	0
35	教授	42020	生理学	ストレス評価	0	1	0

36	准教授	42020	ウイルス学	ウイルス病原性に関する研究	0	1	0
37	准教授	42020	免疫学、細菌学	マイコプラズマ感染症に対する宿主の免疫応答および病原性について	0	1	0
38	教授	42020	獣医麻酔学	犬猫馬兎における全身麻酔法	10	3	0
39	講師	42020	臨床獣医	肝性脳症	0	4	1
40	教授	42020	臨床獣医	犬猫の肝胆膵疾患の研究、栄養療法の研究、オゾン療法などの代替療法の研究など	5	3	2
41	教授	01010 01030 1040	獣医療倫理	獣医療および教育についての国際比較 パーナード・ローリンの獣医倫理思想	0	1	3

【北里】

1	講師	42020, 42030	獣医臨床繁殖学	乳牛の分娩後繁殖機能回復に関する研究 牛の発情行動に関する研究	0	0	0
2	講師	49050	細菌学	病原細菌の病原機構	0	0	0
3	教授	63030	毒性学	環境汚染物質の毒性評価法の開発	0	7	0
4	講師	42020	獣医内科学	犬猫における腫瘍性疾患の病態解析ならびに新規診断・治療法の開発	0	0	0
5	教授	1201	実験動物学	腎臓病の研究	3	5	0
6	准教授	42020	獣医循環器学	犬猫の循環器疾患に対する新規治療法の開発	0	2	0
7	教授	実験病理学、動物福祉、疾患モデル	獣医病理学	疾患モデル動物の開発・東洋獣医学	0	0	0
8	助教	906	獣医眼科学	犬猫におけるぶどう膜炎新規治療薬の基礎研究	0	0	0
9	教授	42020, 56060, 28030,	眼科学	ぶどう膜炎治療に関する基礎的研究	0	0	0
10	講師	42010	動物生産科学	動物種に共通する妊娠成立機構の解明	0	0	0
11	助教	42020 44040	獣医解剖学	鳥類の翼の筋および靭帯の比較解剖学的研究	0	0	0
12	准教授		獣医病理学	狂犬病の病理発生機序	0	2	0
13	教授	49040 42020	寄生虫学	マラリア原虫の生物学的性状解析、特に有性生殖期に関する研究および野生動物の寄生虫に関する研究	0	0	0
14	教授	42010 42020 42030	獣医生理学	齧歯類の雌性生殖と内分泌学	6	3	0

15	教授	7602	獣医解剖学	哺乳類と鳥類の比較解剖	1	2	0
16	講師	42010	獣医臨床繁殖学	牛の体外受精および受胎率について	0	1	0
17	教授	42020 49060	ウイルス学, 獣医 感染症学	犬猫のウイルス感染症の予防・診断・治療 に関する研究	0	1	0
18	教授	42020	獣医微生物学	牛の肺炎の重症化メカニズムの解明・抗微 生物活性の探索	0	1	0
19	准教授	42020	獣医放射線学	犬猫の核医学治療を実現するための住医療 従事者と飼い主の被ばく線量評価法の構築	0	0	0
20	教授		獣医衛生学	病原細菌の遺伝子制御	0	4	0
21	准教授	42020	獣医薬理学	循環器疾患における細胞外基質分解産物の 役割解明	0	0	0
22	教授	42020 64050	産業動物臨床	と畜時のスタニングと食肉成績の関連性の 研究 放牧牛群における寄生虫感染および飼養管 理による栄養状態への影響	0	0	0
23	教授	42010, 42020	獣医臨床繁殖学	牛の発情および子宮疾患に関する研究	1	0	0
24	教授	42020	獣医外科学	手術侵襲軽減に関する研究	4	0	0
25	教授	42020	獣医外科学	小動物の整形外科疾患における力学的研究	1	1	0
26	講師	42020	獣医伝染病学	猫伝染性腹膜炎に対する予防法・治療法・ 診断法の開発	0	0	0
27	教授	020	獣医生化学	各種動物における鉄代謝に関する研究	2	3	0
28	准教授	49050	細菌学	黄色ブドウ球菌スーパー抗原毒素の病原メ カニズム解明	0	0	0
29	教授	49050 42020	細菌病原性 応用 獣医学	致死的軟部組織壊死感染症の病態発症機序 の解明	0	1	0
30	講師	42020	臨床獣医学	小動物における再生医療研究	0	0	0
31	准教授	42020, 56030	獣医外科学、腎泌 尿器学	腎臓再生、移植	0	2	0
32	講師	4, 202, 049, 050	獣医衛生学	Rhodococcus equi 感染症の病理発生機序の 解明並びに新規治療法の開発	0	1	0
33	教授		獣医放射線学	獣医核医学における従事者の被曝調査 福島県における黒毛和牛の被曝調査	2	0	0
34	講師	53040	腎臓内科学	糸球体障害および尿細管間質障害の基礎的 研究	0	0	0
35	教授		人獣共通感染症学	細菌感染病原機構と食中毒メカニズムに感 ずす研究	3	2	0

36	講師	42030、42020	獣医生理学	排卵、妊娠、泌乳ステージにおける下垂体ホルモンの調節と作用に関する研究	0	1	0
37	講師	42020	獣医繁殖学	牛の精子特性と人工授精受胎率に関する研究 小反芻獣の季節繁殖に関する研究 牛受精卵のガラス化保存に関する研究	0	3	0
38	講師	42020、43020	獣医毒性学	計算科学による新規毒性評価法の構築	0	0	0
39	准教授	42020	比較腫瘍学	癌抑制遺伝子産物の機能解析	0	0	0
40	助教	7602	脳神経科学	統合失調症病態形成機構に関する研究	0	0	0
41	准教授	42020	獣医放射線生物学	放射線照射による細胞間のシグナル伝達機構に関する研究	0	3	0
42	講師	42020	獣医神経病学	犬における椎間板ヘルニアの臨床的研究	0	0	0
43	講師	42020	獣医薬理学	表面電荷と膜構造に基づく血中からの細胞外小胞の新規単離方法の開発	0	0	0
44	教授	42020	循環薬理学	循環器疾患の機序と治療薬の探索	1	2	0
45	助教	42020	寄生虫学	野生動物に寄生している寄生虫の疫学ならびに形態学的研究	0	0	0
46	講師	42020	獣医病理学	ラット新生子の小脳に関する病理学的研究	0	0	0
47	講師	7602	獣医麻酔学	小動物の救急医療	0	0	0

【日獣】

1	教授	4020, 42030, 4420	獣医組織学	骨形成細胞の動態と骨形成パターンに関する研究		4	
2	教授	42030	動物生命科学関連	遺伝性疾患の病態解析と遺伝解析	4	10	
3	教授	42020	獣医生化学	ネコの脂質代謝機構の解明			
4	教授					4	
5	教授	42020, 47040, 63030	獣医薬理学	医薬品や食品成分の血管への新たな薬理学的作用の探求的研究		4	
6	教授	53050, 42020	皮膚・アレルギー学 病態獣医学	1) 腸内環境とアトピー性皮膚炎発症機序 2) 犬の個別化がん免疫療法の基礎と臨床研究		7	
7	教授	7602	獣医消化器病学	炎症性疾患の酸化ストレスに関する研究	2	6	
8	教授	7602	獣医心臓病学	犬猫の代表的心臓病の診断管理に関する研究	5	4	
9	教授		獣医外科学	獣医整形外科/獣医脳神経外科	4	5	

10	教授		獣医呼吸器病学	犬猫における呼吸器病・ 画像診断の臨床的研究		12	
11	教授	42020	獣医神経病学	てんかん	2	1	
12	教授	42020	獣医臨床繁殖学	犬と猫の人工繁殖補助技術に関する研究	1	2	
13	教授	7602	獣医臨床病理学	伴侶動物の悪性腫瘍に対する分子標的療法の開発	3	6	
14	教授	採択 科研費なし	実験動物学	食の嗜好性・嫌悪性の成立を指標とした2つの嗅覚経路の機能的役割分担の解明	4	2	
15	教授	7302 7602	水族医学 比較病理学	水生動物の病理学的研究	3	2	
16	教授	40040, 40030	魚類免疫学	魚類のリンパ組織とその機能特性に関する研究	1	3	
17	教授	42020	野生動物学	野生動物の医学	5	8	
18	准教授	獣医疫学	シェルターメディスン	動物虐待に関わる法獣医学的調査・伴侶動物の群管理に関するシェルターメディスン研究	3		
19	教授	42020	獣医学関連	猫伝染性腹膜炎の病態解析と治療法の開発	1	13	
20	教授	7105, 7602, 8102	食品微生物学	食中毒制御に関する研究		2	
21	教授	42020	ウイルス感染症学	ウイルス準種-宿主相互作用・内因性干渉に関する研究	3	13	
22	教授	42040	実験動物学	脳虚血神経細胞死の病態解明と新規治療法の開発	5		
23	教授	42020 58040	獣医学関連	輸血副作用を惹起する血液型物質の分子機序解明	7	12	
24	教授	7601	野生動物学	大型哺乳類の適正な保護管理に関する研究	6	4	
25	教授	4, 202, 058, 030	獣医公衆衛生学	生物モニタリング	1	3	
26	教授	42010, 42020	人と動物の関係学	犬猫における臨床動物行動学・身体障害者補助犬に関する研究		1	
27	教授	7602	動物看護学	動物看護学、臨床検査学	8	7	
28	准教授	48010, 57020	解剖学・組織学・発生学	Histidine decarboxylase が造血・免疫系組織形態に与える影響			
29	准教授	42040	実験動物学	疾患モデル動物を用いた遺伝性疾患の病態・発症機序の解明		2	
30	准教授	49030	実験病理学関連	中枢神経系の発生異常に伴う病態発生メカ			

				ニズムの解明			
31	准教授	44050	代謝栄養学	肉食動物における 代謝特性の研究			
32	准教授		臨床生化学	加齢に伴う肥満および未病検査に関する研究		5	5
33	准教授	42020 38040	基礎獣医学 生物 活性物質	タンパク質の機能解析・生物活性物質の生 合成			
34	准教授	5060 05070 42020	獣医事法学	獣医療・医療における法的諸問題の検討			2
35	准教授	42020	獣医腫瘍学	犬猫における腫瘍発症機構の解明および新 規分子標的治療法の基盤構築		8	
36	准教授					2	
37	准教授	38020	獣医微生物学	常在微生物菌の宿主に及ぼす影響・野生動 物における薬剤耐性菌			
38	准教授	小区分 42020	獣医ウイルス学	動物コロナ・トロウイルスの病原性発現機 構の解析		2	
39	准教授	6603/6605/ 6910	寄生虫学/寄生虫 病学	衛生節足動物を含む寄生虫性疾患の診断法 および予防法開発		3	
40	准教授	42020, 49040, 15030	獣医寄生虫学	動物の寄生虫病に関する基礎的研究			
41	准教授	42020	獣医再生医療学	間葉系幹細胞を用いた犬猫の幹細胞治療の 研究		1	
42	准教授	42020	獣医腎泌尿器病学	犬及び猫における腎臓病および泌尿器病の 診断および治療に関する臨床研究		3	
43	准教授	7602	獣医外科学	動物の整形外科疾患におけるバイオメカニ クスのアプローチ：原因解析と治療戦略		1	
44	准教授					1	
45	准教授	42020	獣医臨床繁殖学			1	
46	准教授						
47	准教授	42020	獣医臨床繁殖学	牛の分娩前後の栄養代謝とその後の繁殖生 理に関わる研究			
48	准教授	44040	感覚神経系・生殖	配偶者選択機構の解明			
49	准教授	42020	獣医学関連	伴侶動物の腫瘍関連遺伝子に関する研究	2	7	
50	准教授	49050	細菌学	病原細菌の感染機構の解析			
51	准教授	42020	獣医病理学	・動物園飼育動物および野生動物を対象と	4	6	

				した病理学的研究 ・消化管腫瘍の病理学的研究			
52	准教授	42020	・獣医病理学 ・野生動物医学	・犬の乳腺腫瘍の組織分類ならびに分子病理学的研究 ・希少野生動物の保全病理学			5
53	准教授		獣医皮膚科	動物看護師が専門に行う皮膚科診療			
54	准教授		獣医内科学	獣医内分泌学、臨床栄養学	3	5	
55	講師	43010	分子生物学	魚類メダカの発生期におけるテロメア動態の解明			
56	講師	42020	基礎獣医学	エクソソームの特性変化を支配するインデューサー因子の探索			
57	講師	420, 205, 804, 047, 030	毒性学	生体・死体における毒物の変化とその検出			
58	講師	7602	獣医病理学	伴侶動物のがんオルガノイド培養・がんのエピジェネティクスを標的とした治療法開発のための基盤構築			
59	講師	42020, 53020	獣医循環器病学	犬猫の循環器疾患、画像診断学			4
60	講師		獣医外科学				
61	講師		獣医麻酔外科学	犬猫における麻酔疼痛管理・関節再建手術の生体力学評価			
62	講師	42020	獣医外科学	犬猫における心疾患の治療に関する研究			
63	講師	42020	獣医臨床病理学	犬のがん免疫抑制機構に関する研究			
64	講師	39060 42020	野生動物学	1) 外来動物の防除戦略 2) 日本産野生動物の管理			
65	講師	42020	獣医公衆衛生学	感染症における再発予防法の開発			
66	講師	42020 42030	獣医学関連、動物生命科学関連	消化器疾病制御のための基礎医学研究			6
67	講師	42020	分子ウイルス学	産業動物のウイルス感染症を中心とした研究			
68	講師	50020, 42020	動物遺伝学	犬と猫の血液型関連遺伝子解析			
69	講師	5-21	自然共生学	生理学的視点からの自然共生都市の創出に向けた研究			
70	講師	42020	動物リハビリテーション学	犬猫に対する理学療法実施時における安全管理			

71	講師	42020	臨床動物看護学、 代謝内分泌、臨床 栄養学	犬猫の代謝性疾患の看護管理、栄養管理			
----	----	-------	-----------------------------	--------------------	--	--	--

【麻布】

1	教授	42020	獣医内科学	乳牛の代謝生理と泌乳・反芻動物の代謝性疾患	3	5	0
2	教授		動物衛生学	牛の乳房炎	3	5	0
3	教授		獣医内科学	獣医再生医療	3	8	0
4	教授	42020, 09070, 50010	臨床獣医学	獣医学映像教育とその効果、犬のがん微小環境と免疫療法	2	1	1
5	教授	42020	獣医組織学	哺乳類の模様の形成に関する組織学的研究	0	15	0
6	教授		獣医生化学	糖脂質に関する基礎的研究	0	0	0
7	教授	42020	獣医放射線学	獣医臨床における画像診断に関する研究	2	2	0
8	教授	42010, 42020, 49060	動物生産科学、獣 医学関連、ウイル ス学関連	ブタの時間栄養学に関する研究、心臓疾患を有するイヌの血糖値管理に関する研究、ヒト腸管オルガノイドにおけるヒトノロウイルスの感染に及ぼす脂質の影響	2	0	0
9	教授	42020	獣医病理学	アミロイド症の病理発生機序の解明	7	2	0
10	教授	47040	薬理学	獣医臨床薬理学的研究	5	9	0
11	教授	42020, 43010, 42030	(獣医)分子細胞生 物学	動物(イヌ、ネコ、ウシなど)の遺伝子発現制御機構、DNA鑑定	7	7	4
12	教授		動物感染症学	ウイルス感染症	1	3	0
13	教授	42020	獣医微生物学	ウイルスの病原性と性状の解析	2	1	0
14	教授		獣医循環器病学	犬猫の循環器疾患病態、診断、治療に関する臨床的研究	3	5	0
15	教授	42020, 56020 48010	獣医整形外科学	犬における膝関節疾患に対する診断法および治療法に関する研究	0	2	0
16	教授	42020	獣医寄生虫学	消化管内寄生虫の生態, 病原性	1	3	0
17	准教授	7602, 6301	実験動物学、獣医 薬理学	齧歯類の麻酔に関する研究	5	6	0
18	准教授	42020	獣医外科学/呼吸 器病学/循環器病 学	小動物心臓外科に関する研究/咳モデル犬を用いた鎮咳薬の研究	1	3	0

19	准教授	42010, 42020	獣医栄養学	ウシのルーメン発酵産物による繁殖能・代謝能改善への時間生物学的アプローチ	0	1	0
----	-----	--------------	-------	--------------------------------------	---	---	---

【日大】

1	准教授	42030	獣医解剖学	形態学的解析から迫る外分泌細胞における分泌顆粒成熟機構の解明			
2	その他	42020	獣医神経病学	タイムスリップ法を用いた犬の脳脊髄液循環障害に起因する神経疾患の病態解明		2	
3	教授	40040	獣医衛生学	鯨類好酸球における活性化機構の解明：イルカはなぜアニサキスの終宿主になれるのか？	1	3	
4	准教授	49030	実験動物学	筋強直性ジストロフィーの加齢性病態の解明とアンチセンス核酸療法の開発		1	
5	教授		獣医微生物学		1	5	
6	准教授	42020	獣医生化学	好中球の活性化およびアポトーシスにおけるカルシウムシグナルと IRBIT の役割			
7	その他		獣医臨床病理学				
8	准教授	42020	獣医臨床病理学	犬における先天性巨大血小板性血小板減少症の遺伝子診断法の確立および分子疫学調査			
9	その他		獣医公衆衛生学		1	1	
10	教授		獣医毒性学	アクチビン E-KO マウスの NAFLD/NASH モデルとしての有用性			
11	准教授		獣医病理学			1	
12	教授	42020	獣医解剖学	分子ラベリングによる分泌顆粒ダイバーシティの細胞基盤			
13	教授	40040	獣医生理学	小型鯨類における心臓生理学に関する研究	3	2	
14	准教授	42020	獣医公衆衛生学	次世代シーケンサーを用いたサル由来バルトネラ菌のベクターと遺伝的多様性の解明		2	
15	その他	42020	実験動物学	ヘモプロテウス原虫のベクター探索：国内未確認の原虫感染サイクルの解明	2	2	
16	教授	42020	獣医消化器病学	犬の腸内アンモニア産生に対するプロバイオティクス（酪酸菌）の効果		3	

17	教授	42020	獣医麻酔・呼吸器学	4次元CT呼吸機能検査による犬の呼吸困難レベルの数値化に関する研究	1	2	
18	教授	50010	獣医薬理学	膵内分泌細胞とマクロファージのがんスフェロイド形成における TRPM チャンネル制御系		6	
19	教授	42020	獣医外科学	臨床応用可能な犬の iPS 細胞を活用した動物用再生医療製品の開発のための基盤技術の確立	1	2	
20	教授		獣医病理学			5	
21	准教授	42020	獣医伝染病学	猫伝染性腹膜炎ウイルスの病原性を決定づける S および 3c 遺伝子の役割			
22	教授		獣医伝染病学	双方向構造活性相関解析と深層学習によるウイルスプロテアーゼ阻害剤予測技術の確立		5	
23	教授	42020	医動物学	人獣共通寄生原虫ブラストシスチスの動物疫学		2	
24	教授	40040	魚病/比較免疫学	抗原特異的なサイトカイン産生を指標とした魚病ワクチンの検定法の開発	2	6	
25	准教授	42020	分子生物学	イヌ肝細胞癌のマーカー候補としての解糖系代謝産物の探索			
26	教授		獣医外科学		9	4	
27	教授	42010	獣医臨床繁殖学	乳牛のルーメン内エンドトキシン上昇が肝臓および子宮を介して繁殖機能へ及ぼす影響		1	
28	教授	42020	獣医放射線学	イヌ悪性黒色腫細胞の TRPA1 誘導性細胞死とエピジェネティック制御による耐性獲得	5	7	
29	教授	42020	獣医食品衛生学	野生動物に分布する新規人獣共通感染 Campylobacter の生態解明と病原評価	1	2	
30	准教授	40040	魚病/比較免疫学	魚類獲得免疫機構の解明 – リンパ球の一生を追う –			
31	教授	42020	獣医神経病学	犬猫における脳腫瘍治療指針構築のための治療成績調査	2	2	
32	教授	42020	産業動物臨床学	産業動物獣医師（行政及び臨床）と生産者のコミュニケーションに関する基礎調査		1	

33	教授		獣医内科学		3	5	
34	その他		獣医放射線学				

9. 大学院担当教員の学会などでの活動状況（過去5年間：平成31年4月～令和6年3月）

過去5年間（平成31年4月～令和6年3月）の大学院担当教員の学会などの活動状況は、各大学の大学院の各資格階層によって様々であった。

【酪農】

No	資格 ^a	区分 ^b	活動状況（件数）									
			所属学会数	研究会数	国内学会発表			国際学会発表			学会役員数、学会研究会事務局など	その他 ^c
					一般	特別	シンポジスト	一般	特別	シンポジスト		
1	教授	応用系	20	3	80	5	3	3	2	1	4	0
2	講師	応用系	5	0	9	3	3	0	2	0	2	0
3	准教授	応用系	3	3	36	6	0	1	0	0	1	0
4	准教授	臨床系	3	1	9	0	0	0	0	0	1	0
5	教授	臨床系	5	0	7	1	0	1	0	0	2	0
6	教授	基礎系	3	1	35	0	2	7	0	0	2	0
7	講師	基礎系	3	1	5	0	0	0	0	0	0	0
8	准教授	基礎系	2	1	17	2	0	7	0	0	0	0
9	助教	基礎系	5	1	16	2	1	3	0	0	0	0
10	教授	応用系	2	0	27	0	0	0	0	0	0	0
11	教授	基礎系	5	1	6	0	2	0	0	0	1	0
12	講師	基礎系	3	0	3	1	0	5	0	0	0	0
13	准教授	基礎系	3	2	33	0	0	7	0	0	2	0
14	教授	基礎系	6	2	39	0	5	5	0	0	3	0
15	講師	基礎系	3	0	4	1	0	10	0	0	0	0
16	教授	基礎系	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0
17	准教授	臨床系	3	0	10	0	4	2	0	0	2	0
18	教授	応用系	4	2	20	0	0	2	0	0	0	0
19	准教授	臨床系	6	0	14	19	0	0	0	0	3	0
20	教授	臨床系	3	1	0	0	0	1	0	0	1	0
21	教授	基礎系	2	3	10	0	0	0	0	0	2	0
22	講師	臨床系	2	0	7	0	1	0	0	0	1	0
23	講師	基礎系	3	0	11	2	1	1	0	0	2	0
24	教授	応用系	4	1	35	15	15	10	1	2	3	0

25	教授	応用系	4	1	32	0	1	1	0	0	1	0
26	教授	応用系	5	1	43	20	8	4	14	5	4	0
27	准教授	臨床系	5	0	20	0	17	1	0	0	3	0
28	講師	臨床系	3	1	24	1	6	0	0	0	2	0
29	准教授	応用系	3	1	21	0	0	2	0	0	0	0
30	講師	基礎系	7	1	15	0	7	2	0	1	2	0
31	教授	応用系	5	2	15	2	1	4	0	0	1	0
32	准教授	臨床系	5	3	20	5	0	5	0	0	2	0
33	教授	応用系	4	2	9	0	5	5	1	1	2	1
34	講師	応用系	5	1	30	2	1	10	0	1	3	2
35	教授	基礎系	5	0	10	0	0	2	1	0	2	3
36	准教授	基礎系	2	0	0	0	0	0	0	0	0	4
37	准教授	応用系	4	1	4	2	0	0	0	0	2	5
38	教授	臨床系	5	0	47	1	0	5	0	0	5	6
39	講師	臨床系	3	0	0	5	0	0	0	0	0	7
40	教授	臨床系	7	1	12	26	2	1	1	0	3	8
41	教授	応用系	8	1	1	7	0	0	1	0	1	9

【北里】

1	講師	臨床系	4	0	10	0	0	2	0	0	1	0
2	講師	応用系	4	2	6	0	0	1	0	0	1	0
3	教授	基礎系	3	0	14	1	0	2	0	0	2	0
4	講師	臨床系	5	1	21	3	0	0	0	0	3	0
5	教授	応用系	9	1	70	0	0	6	0	0	12	0
6	准教授	臨床系	4	0	4	1	0	0	0	0	1	0
7	教授	基礎系	3	0	27	1	0	0	0	0	0	0
8	助教	臨床系	8	0	8	0	0	1	0	0	0	0
9	教授	臨床系	8	1	28	0	2	2	0	0	3	0
10	講師	基礎系	3	0	42	0	1	0	0	0	2	0
11	助教	基礎系	1	0	17	0	0	0	0	0	0	0
12	准教授	基礎系	4	2	30	0	0	6	1	0	2	0
13	教授	応用系	6	1	45	0	1	2	0	0	1	0
14	教授	基礎系	3	0	10	0	0	1	0	0	1	0
15	教授	基礎系	2	0	15	0	0	0	0	0	2	0
16	講師	臨床系	3	0	7	0	2	0	0	0	2	0
17	教授	応用系	4	4	12	12	0	0	0	0	1	0
18	教授	応用系	4	2	4	0	0	0	0	0	2	0
19	准教授	臨床系	2	1	25	0	0	1	0	0	2	1
20	教授	応用系	2	0	15	0	0	0	0	0	0	0

21	准教授	基礎系	4	0	5	0	1	1	0	0	0	0
22	教授	臨床系	3	1	21	1	3	0	0	0	3	0
23	教授	臨床系	5	1	10	0	0	1	0	0	4	3
24	教授	臨床系	7	0	10	0	0	2	0	0	4	0
25	教授	臨床系	3	1	13	5	1	0	0	0	3	0
26	講師	応用系	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0
27	教授	基礎系	4	0	0	0	0	0	0	0	1	0
28	准教授	応用系	3	1	18	1	0	1	0	0	1	0
29	教授	応用系	3	1	15	0	0	2	0	0	3	0
30	講師	臨床系	6	1	15	4	2	2	0	0	2	0
31	准教授	臨床系	7	4	9	0	1	2	0	0	5	3
32	講師	応用系	5	0	33	0	2	2	0	0	1	0
33	教授	臨床系	7	4	20	2	3	1	0	0	3	0
34	講師	基礎系	3	0	41	0	0	1	0	0	0	0
35	教授	応用系	5	1	38	3	1	2	8	1	2	0
36	講師	基礎系	2	2	18	0	0	3	0	0	0	0
37	講師	臨床系	3	2	58	0	1	0	0	0	1	1
38	講師	基礎系	3	2	15	1	6	10	0	2	1	0
39	准教授	基礎系	2	0	19	1	0	2	0	0	0	0
40	助教	基礎系	2	0	6	0	0	3	0	0	0	0
41	准教授	臨床系	2	2	20	0	0	1	0	0	1	1
42	講師	臨床系	3	0	4	2	0	0	0	0	0	1
43	講師	基礎系	5	1	85	0	0	4	0	0	0	0
44	教授	基礎系	7	0	106	1	2	6	1	0	6	0
45	助教	応用系	2	0	49	0	0	3	0	0	0	0
46	講師	基礎系	3	0	10	0	0	0	0	0	2	0
47	講師	臨床系	1	0	5	1	1	1	0	0	1	0

【日獣】

1	教授	基礎系	2	0	5	0	0	0	0	0	0	0
2	教授	基礎系	2	0	15	0	0	1	0	0	2	0
3	教授	基礎系	2	1	2	0	0	2	0	0	0	0
5	教授	基礎系	3	1	12	0	0	0	0	0	2	0
6	教授	基礎系	4	1	4	0	0	0	0	0	1	0
7	教授	臨床系	4	0	15	0	1	0	1	0	4	1
8	教授	臨床系	7	0	20	0	5	1	0	0	4	1
9	教授	臨床系	3	1	60	0	2	3	0	0	2	0
10	教授	臨床系	4	0	0	1	0	0	0	0	3	3
11	教授	臨床系	5	1	9	22	7	4	5	0	3	3

12	教授	臨床系	2	0	2	0	0	0	0	0	2	0
13	教授	臨床系	2	1	5	1	1	0	0	0	2	0
14	教授	基礎系	4	2	5	0	1	0	0	0	3	0
15	教授	応用系	4	1	12	0	0	1	0	0	2	0
16	教授	応用系	5	0	4	0	0	0	0	0	2	1
17	教授	応用系	5	2	30	0	3	2	0	0	2	20
18	准教授	応用系	8	1	0	0	3	0	0	1	6	2
19	教授	応用系	8	1	4	0	1	0	1	0	2	5
20	教授	応用系	2	0	3	0	0	0	0	0	3	5
21	教授	基礎系	4	1	14	2	2	0	0	0	3	12
22	教授	基礎系	4	0	11	0	0	0	0	0	0	0
23	教授	基礎系	10	1	9	3	0	1	0	0	4	0
24	教授	応用系	3	2	10	0	0	0	0	0	0	0
25	教授	応用系	3	1	4	0	0	2	0	0	1	5
26	教授	臨床系	5	1	7	7	2	0	0	0	5	7
27	教授	臨床系	4	0	17	15	1	0	1	0	5	0
28	准教授	基礎系	3	0	4	0	0	1	0	0	0	0
29	准教授	基礎系	3	0	9	2	0	1	0	0	1	1
30	准教授	基礎系	1	1	11	0	0	0	0	0	1	0
31	准教授	基礎系	7	0	5	0	0	0	0	0	2	2
32	准教授	基礎系	2	2	2	0	0	2	0	0	1	0
33	准教授	基礎系	3	0	5	0	0	0	0	0	0	0
34	准教授	応用系	7	4	2	0	0	0	0	0	1	5
35	准教授	基礎系	3	1	42	0	1	2	0	0	2	0
37	准教授	基礎系	1	1	1	0	1	1	0	0	1	1
38	准教授	基礎系	3	1	12	0	3	0	0	0	3	1
39	准教授	基礎系	5	0	1	0	0	0	0	0	1	0
40	准教授	基礎系	5	2	31	5	1	0	0	0	2	0
41	准教授	臨床系	4	0	2	2	1	2	0	0	1	0
42	准教授	臨床系	4	0	0	0	3	1	0	0	2	0
43	准教授	臨床系	6	1	3	0	15	0	0	0	2	0
45	准教授	臨床系	3	0	1	2	0	0	0	0	2	0
46	准教授	臨床系	5	2	5	0	3	0	0	0	3	0
47	准教授	臨床系	3	0	37	2	1	8	0	0	1	0
48	准教授	基礎系	3	2	12	0	1	1	0	0	1	0
49	准教授	応用系	4	1	24	1	1	1	0	0	2	3
50	准教授	応用系	4	0	13	0	0	0	0	0	0	0
51	准教授	応用系	4	2	28	0	0	4	0	0	0	0
52	准教授	応用系	7	2	36	4	3	5	0	0	4	2

53	准教授	臨床系	2	1	4	0	0	0	0	0	2	0
54	准教授	臨床系	3	0	0	10	3	0	0	0	1	0
55	講師	基礎系	6	1	4	0	0	2	0	0	0	0
56	講師	基礎系	4	0	6	0	0	0	0	0	0	0
57	講師	応用系	3	0	3	0	0	0	0	0	3	0
58	講師	基礎系	3	0	10	0	1	1	0	0	2	0
59	講師	臨床系	6	3	37	117	2	12	0	0	4	0
60	講師	臨床系	5	0	30	0	5	5	1	0	1	0
61	講師	臨床系	2	0	32	6	0	0	0	0	2	0
62	講師	臨床系	2	0	25	0	5	0	0	0	2	0
63	講師	臨床系	3	1	2	3	0	0	0	0	1	1
64	講師	応用系	5	2	17	0	1	2	0	0	5	4
65	講師	応用系	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
66	講師	基礎系	4	0	9	0	0	0	0	0	1	1
67	講師	基礎系	2	1	6	0	0	0	0	0	1	0
68	講師	基礎系	2	0	6	0	0	4	0	0	0	0
69	講師	応用系	3	0	14	0	0	1	0	0	5	1
70	講師	臨床系	4	0	12	2	0	0	0	0	1	0
71	講師	臨床系	4	2	2	2	18	0	0	0	5	2

【麻布】

1	教授	基礎系	2	0	7	0	0	0	0	0	2	0
2	教授	基礎系	2	1	74	0	0	1	0	0	1	0
3	教授	基礎系	7	0	0	0	3	0	0	0	2	0
4	教授	基礎系	8	2	16	0	0	0	0	0	1	1
5	教授	基礎系	4	0	15	0	0	0	0	0	1	0
6	教授	応用系	7	0	8	0	0	2	0	0	5	0
7	教授	応用系	4	2	30	0	0	3	0	0	3	0
8	教授	応用系	5	0	1	0	1	0	0	0	2	0
9	教授	応用系	5	1	20	0	0	0	5	0	2	0
10	教授	臨床系	7	1	27	0	1	4	0	1	4	6
11	教授	臨床系	0	0	15	0	3	0	0	0	5	0
12	教授	臨床系	7	1	32	1	12	1	0	1	7	0
13	教授	臨床系	8	1	20	2	2	4	0	0	3	2
14	教授	臨床系	7	1	15	1	1	2	0	0	4	1
15	教授	臨床系	10	0	25	12	0	2	0	0	13	8
16	教授	臨床系	6	1	17	1	5	2	0	0	2	0
17	准教授	基礎系	7	0	23	0	3	0	0	0	1	1
18	准教授	応用系	5	0	2	0	0	1	0	0	1	0

19	准教授	臨床系	3	1	15	2	2	0	1	1	2	0
----	-----	-----	---	---	----	---	---	---	---	---	---	---

【日大】

1	准教授	基礎系	4	0	6	0	0	0	0	0	0	0
2	その他											
3	教授	応用系	4	2	41	0	0	8	0	0	5	3
4	准教授	応用系	5	0	41	0	2	4	0	0	3	0
5	教授	基礎系	3	2	10	0	0	0	0	0	2	0
6	准教授	基礎系	8	0	13	0	0	0	0	0	4	0
7	その他	臨床系										
8	准教授	臨床系	5	2	1	0	0	0	0	0	3	0
9	その他	応用系	6	1	8	5	1	1	1	0	3	1
10	教授	応用系										
11	准教授	基礎系	7	1	71	0	4	8	0	0	11	0
12	教授	基礎系	4	0	11	0	0	0	0	0	1	0
13	教授	基礎系	5	0	30	0	0	5	0	0	2	0
14	准教授	応用系	2	1	13	0	1	1	0	0	0	0
15	その他											
16	教授	臨床系	5	1	20	0	10	0	0	0	3	0
17	教授	臨床系	8	1	13	0	2	0	0	0	5	0
18	教授	基礎系	2	1	17	0	0	0	0	0	2	0
19	教授	基礎系	8	1	25	22	7	10	6	0	7	4
20	教授	基礎系	3	0	38	0	0	7	0	0	0	0
21	准教授	応用系	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0
22	教授	基礎系										
23	教授	基礎系	4	0	22	0	0	2	0	0	8	1
24	教授	応用系	3	1	25	0	0	4	0	0	0	
25	准教授	基礎系										
26	教授	臨床系	11	0	10	5	8	14	7	0	9	0
27	教授	臨床系	9	1	23	0	0	0	0	0	3	3
28	教授	臨床系										
29	教授	応用系	2	1	15	0	3	0	0	0	3	2
30	准教授	応用系	7	1	25	0	0	4	0	0	3	2
31	教授	臨床系										
32	教授	臨床系	6	4	23	0	5	2	0	0	2	2
33	教授	臨床系	6	1	3	14	2	0	0	0	6	1
34	その他	該										

10. 科学研究費補助金および研究助成金などへの申請とその採択状況(令和1~5年度)

過去5年間における科学研究費補助金申請数、同採択数は、全体としてそれぞれ71～239件、17～100件であった。直近の3年間に比べ令和5年度は、申請数で95%～135%、採択数で63～138%の変化率であった。状況は各大学で異なっていた。過去5年間の申請数は日本大学が71件と他の4大学の126～239件と比べて極めて低値であった。一方、採択率は、北里大学が74%、日本大学が67%と、他の3大学の13%～21%と比べ比較的高値であった。

過去3年間の状況と比較した令和5年度の状況としては、申請数は概ね増加傾向にあったが、日本獣医生命科学大学はほぼ横ばいの値であった。採択率の変化については、酪農学園大学、北里大学、麻布大学で2～10%高くなったが、日本獣医生命科学大学では、21%から15%、日本大学では67%から66%に低下した。

過去5年間における研究助成金については、その他の助成金を含めての総合的な判断が必要であるが、より各大学間で差が大きく、特に酪農学園大学で99件、日本獣医生命科学大学で91件と高値であるのに対し、他の3大学は0～20件であった。

	区分	採択状況						
		R1	R2	R3	R4	R5	計	
酪農	科学研究費	申請数	26	23	28	28	34	139
		採択数	7	6	3	6	8	30
	研究助成金	申請数	20	14	28	17	20	99
		採択数	7	4	11	6	5	33
	その他	申請数						
		採択数						
北里	科学研究費	申請数	39	25	23	22	26	135
		採択数	13	18	24	23	22	100
	研究助成金	申請数						0
		採択数	1	3	3	5	8	20
	その他	申請数						
		採択数						
日獣	科学研究費	申請数	49	44	50	50	46	239
		採択数	12	8	14	11	7	52
	研究助成金	申請数	11	17	16	14	13	71
		採択数	3	5	2	3	2	15
	その他	申請数						
		採択数						
麻布	科学研究費	申請数	27	20	25	28	26	126
		採択数	4	1	5	1	6	17
	研究助成金	申請数						
		採択数						
	その他	申請数						
		採択数						

日大	科学研究費	申請数	13	21	7	12	18	71
		採択数	10	12	6	8	12	48
	研究助成金	申請数	0	3	0	1	3	7
		採択数	0	3	0	1	3	7
	その他	申請数	4	7	3	7	12	33
		採択数	4	7	3	7	12	33

11. 教職員等について

11-1. 教員組織

11-1-1. 研究科の理念と目標を実現するための教員組織

教員組織については、それぞれの教育目標を達成するために概ね適切に設置されている。特に酪農学園大学（C）（第7次自己評価結果。以下同）、北里大学（B）日本大学（B）については、第7次評価時からの改善が認められる。一部の大学（酪農学園大学、北里大学、日本大学）においてはより充実した大学院教員数の確保を目指している。

酪農	A 概ね適切である	収容定員から考えると適切に配置されている。ただし研究支援要員が配置されておらず、定員を大幅に超えた院生が在籍している
北里	A 概ね適切である	教育理念を達成するため、基礎、応用、臨床にわたりそれぞれの分野の専門の教員が概ね配置されている。ただし研究を支援する教員や女性教員の数は十分とは言えない。
日獣	A 概ね適切である	現在の組織でほぼ達成しているが、令和8年度より学部での大講座制の導入を計画しているため、将来は学部での組織との相互関係を補正する可能性がある。
麻布	A 概ね適切である	教員組織の編成方針に基づき、大学院設置基準を上回る選任教員を配置しており、教育研究上必要な十分な規模の教員組織を編成している。
日大	A 概ね適切である	教育目標を達成するための教員組織は適切に配置されている。運営組織において充実させる必要がある。

11-1-2. 教員の年齢構成や学位、博士取得者の割合などの資格

概ね適切な編成となっている。特に日本獣医生命科学大学においては学部組織において大講座制を導入予定であり、大学院組織においても相互関係を調整する必要があるとしている。特に酪農学園大学（C）、日本大学（B）については、第7次評価時からの改善が認められる。年齢構成においては適切であるが、女性教員の確保は継続的な課題となっている。

酪農	B 適切な部分が多い	概ね適切ではあるが、外国籍教員や女性教員数には課題がある。
北里	B 適切な部分が多い	
日獣	A 概ね適切である	現在、年齢構成や学位、博士取得者の割合などの資格は、ほぼ達成しているが、令和8年度より学部での大講座制の導入を計画しているため、将来は学部での組織との相互関係を補正する可能性がある。

麻布	B 適切な部分が多い	教員組織の編成方針に基づき、大学院設置基準を上回る選任教員を配置しており、教育研究上必要な十分な規模の教員組織を編成している。
日大	B 適切な部分が多い	

11-1-3. 学内外の大学院・学部・研究所などの教員研究組織間の人的交流

学内外の大学院、学部、研究所などとの人的交流についても各大学概ね適切におこなっており、共同研究や特別講義（日本獣医生命科学大学、日本大学）などを実施している。特に酪農学園大学（C）、北里大学（C）日本獣医生命科学大学（B）については、第7次評価時からの改善が認められる。

酪農	B 適切な部分が多い	卓越大学院という制度を用いて定期的に学外大学院との交流を行っている
北里	B 適切な部分が多い	
日獣	A 概ね適切である	特別講義など多くの大学院・学部・研究所などからの授業での参加、あるいは共同研究を実施し、成果をあげている。
麻布	A 概ね適切である	
日大	A 概ね適切である	特別講義を実施し、学内外の大学等研究者を招聘して講義を行うとともに交流を図っている。

11-1-4. 大学院担当教員の資格審査の運用及び審査基準・審査手続き

大学院担当教員の審査についても、各大学において、資格審査委員会等を設けて実施しており、概ね適切に運用されている。

酪農	A 概ね適切である	教員資格審査委員会を設立し、審議しており適切に運用されている。また、審査基準・審査手続きについては規程にて明文化されている。
北里	B 適切な部分が多い	
日獣	A 概ね適切である	獣医学専攻委員会及び獣医保健看護学専攻委員会内に設けた資格審査小委員会により基準に従って審査を行い、その後各専攻科委員会および大学院研究科委員会での審議を経て、任用を行っている。
麻布	A 概ね適切である	
日大	B 適切な部分が多い	

11-1-5. 大部門化など研究組織を弾力化するための措置

一部、もしくは概ね達成されているとの回答が多いが、酪農学園大学、日本獣医生命科学大学において、一部の具体的例を除き、具体的な大部門化や研究組織の弾力的な運営に係る取り組みが示されなかった。より積極的な取り組みが必要である。ただし、酪農学園大学（D）日本大学（D）については、第7次評価時からの改善が認められる一方、日本獣医生命科学大学では第7次評価時（A）から後退したと評価された。

酪農	C 達成されていない部分が多い	一部伴侶動物臨床系で実施されている
----	-----------------	-------------------

北里	C 達成されていない部分が多い	
日獣	B 達成されている部分が多い	獣医学専攻及び獣医保健看護学専攻は専門分野によって区分されているが、研究は区分間をまたいで弾力的に運用されている。
麻布	A 概ね達成されている	
日大	B 達成されている部分が多い	

11-1-6. 流動研究部門、流動的研究施設の設置・運用の状況

いずれの大学においても具体的な取り組みがなされていない状況で有り、私立大学に共通する課題であると思われた。第7次評価時からの改善が認められず、全ての大学で前回と同じ評価であった。

酪農	C 適切でない部分が多い	
北里	C 適切でない部分が多い	
日獣	D 適切でない	流動研究部門、流動研究施設はまだ設置していない。
麻布	B 適切な部分が多い	
日大	D 適切でない	

11-1-7. 研究支援職員の配置及び研究者と研究支援職員との間の連携・協力

教員組織については概ね適切に配置されている一方で、研究活動を支援するための技術員、事務職員などの研究支援職員については、「適切でない部分が多い」との回答が多かった（北里大学、日本獣医生命科学大学、日本大学）。酪農学園大学（C）、日本獣医生命科学大学（D）日本大学（D）については、第7次評価時から若干の改善が認められる。

酪農	B 適切な部分が多い	
北里	C 適切でない部分が多い	
日獣	C 適切でない部分が多い	研究活動を支援するための技術員、事務職員は充分には整っていない。
麻布	B 適切な部分が多い	
日大	C 適切でない部分が多い	

11-2. 教育・研究活動

11-2-1. 大学院教育活動検証のためのシステムの確立

教員の大学院教育活動を検証するためのシステムについては、多くの大学で自己点検を行っており、特に麻布大学では、「内部質保障規定」に則り、教員活動状況報告書による自己点検を行い、改善、向上に取り組んでいる。北里大学（C）、麻布大学（C）日本大学（D）については、第7次評価時から若干の改善が認められる。

酪農	A 概ね確立されている	
----	-------------	--

北里	B 確立されている部分が多い	
日猷	A 概ね確立されている	年1回発行されている日本獣医生命科学大学研究報告に1年間の著書、原著論文、その他の論文、学会発表などの掲載を義務づけているため、これにより教員の大学院教育活動は毎年確認することが可能である。
麻布	B 確立されている部分が多い	内部質保証のための全学的な方針及び手続並びに内部質保証規程にのっとり、授業レベルでの教育の質向上を図るため、各教員が教員活動状況報告書（ティーチング・ポートフォリオ、業務エフォート及び麻布大学学生へのクレドに基づく自己評価）の作成を通じて、自らの教育活動等の点検・評価を行うとともに、改善・向上に取り組んでいる。 また、教員個人の活動状況を把握することで、教育研究等環境の適切性について点検・評価を行い、必要に応じて改善・向上を図っている。
日大	C 確立されていない部分が多い	自己点検

11-2-2. 大学院教育活動を活性化するためのシステム（FD など）

大学院教育活動を活性化するためのFD研修会については、3大学（日本獣医生命科学大学、麻布大学、日本大学）で実施している。確立されていない大学との情報共有によりFDシステムの構築、ならびに改善に貢献できることが期待される。麻布大学（C）、日本大学（B）については、第7次評価時からの改善が認められる。

酪農	C 確立されていない部分が多い	
北里	B 確立されている部分が多い	
日猷	A 概ね確立されている	学部でのみ実施していた教員の大学院教育活動を活性化するためのFD制度を拡張し、大学院でも実施している。
麻布	A 概ね確立されている	全学教務委員会のもと、大学院のFD活動も計画実施されている。
日大	A 概ね確立されている	大学院FD研修会

11-2-3. 教員の研究時間を確保するための手立て

大学院教員の研究時間の確保のための取り組み等は、全ての大学において、「確立されていない部分が多い」、もしくは「確立されていない」と回答されており、結果として、研究活動をさらに活性化するための諸条件についても、「整備されていない部分が多い」との回答が多く、大学院教育に係る研究活動の活性化は、全ての大学で共通する課題として挙げられる。麻布大学（D）、日本大学（D）については、第7次評価時から若干の改善が認められる一方、日本獣医生命科学大学（B）については、前回に比べてきびしく自己

評価された。

酪農	C 確立されていない部分が多い	
北里	C 確立されていない部分が多い	
日獣	C 確立されていない部分が多い	学部教育などの負担も多く、個人によっては確立されていない部分も多い。
麻布	C 確立されていない部分が多い	各教員によって講義・実習および診療等の担当時間の差が大きく、研究時間の確保は各教員の努力に委ねられている。
日大	B 確立されている部分が多い	

11-2-4. 役職など学内運営に携わっている教員への研究時間を確保する手立て

概ね全ての大学で前回評価時に比べ若干の改善が認められたものの、いずれの大学においても具体的な取り組みがなされていない状況で有り、私立大学に共通する課題であると思われた。

酪農	D 概ね確立されていない	
北里	C 確立されていない部分が多い	
日獣	C 確立されていない部分が多い	役職など学内運営に携わっている教員も多く、個人によっては確立されていない場合も多い。
麻布	C 確立されていない部分が多い	
日大	C 確立されていない部分が多い	

11-2-5. 研究活動活性度を検証・評価するためのシステム

酪農学園大学、日本獣医生命科学大学において、各大学にユニークな取り組みがなされているものの、他の大学では具体的な評価システムの構築に至っていない。研究業績の収集自体は各大学で行われているものと推察できるが、それらのどのように活用するか、確立に至っていないなど、多くの大学に共通する課題である。北里大学 (A, E)、麻布大学 (A, E) については前回に比べてきびしく自己評価された。

酪農	B 確立されている部分が多い	獣医学研究科では毎年英語論文の業績集を発行し公表している。活性度を高めるためにどれだけ効果を上げているかの評価はできていない。
	G 機能していない部分が多い	

北里	C 確立されていない部分が多い	
	G 機能していない部分が多い	
日猷	B 確立されている部分が多い	教員の研究活動の活性度を検証・評価するためのシステムは、毎年1回発行されている日本獣医生命科学大学研究報告により間接的には確認機能している。
	該当するものを選択	
麻布	C 確立されていない部分が多い	
	G 機能していない部分が多い	
日大	B 確立されている部分が多い	
	F 概ね有効に機能している	

11-2-6. 自己申告に基づく教育と研究に対する評価方法

研究や教育に係る報告書の提出が求められている大学は多かった。やはり、それらの活用方法において課題を持っていることが、各大学に共通する。麻布大学 (C) で改善が認められた一方、北里大学 (A) では前回に比べきびしく自己評価された。

酪農	B 機能している部分が多い	また、教員活動評価シートを作成し、事後報告はしている。
北里	C 機能していない部分が多い	
日猷	A 概ね機能している	教員の自己申告に基づく教育と研究に対する評価方法は、任期制教員では、3年及び4年で細かなチェックが行われるが、それ以外の教員についても毎年1回発行されている日本獣医生命科学大学研究報告および隔年発行のリサーチアドバンスにより間接的には確認機能している。
麻布	A 概ね機能している	各教員は、「麻布大学内部質保証」に基づき、教員活動状況報告書を各所属する部局の長に提出している。
日大	B 機能している部分が多い	

11-2-7. 研究活動評価の大学院担当教員資格審査への反映

ほとんどの大学において、概ね反映されているとの回答であった。十分な対応がなされなかった大学との情報共有により、改善されることが期待できる。日本大学 (B) で改善が認められた一方、北里大学 (A) では前回に比べきびしく自己評価された。

酪農	A 概ね反映されている	
----	-------------	--

北里	C 反映されていない部分が多い	
日獣	A 概ね反映されている	大学院での人事評価は学部教員の資格審査および昇格審査に先行して実施されその評価は反映されている。
麻布	A 概ね反映されている	
日大	A 概ね反映されている	

11-3. 研究支援組織その他

11-3-1. 研究活動を支援するための人的体制

いずれの大学においても十分な整備がなされていない状況で有り、私立大学に共通する課題であると思われた。前回の評価時から継続する課題である。

酪農	C 整備されていない部分が多い	
北里	C 整備されていない部分が多い	
日獣	C 整備されていない部分が多い	研究活動を支援するための技術員、事務職員は充分には整っていない。
麻布	B 整備されている部分が多い	
日大	B 整備されている部分が多い	

11-3-2. 大学院教育を支援するための人的体制

酪農学園大学を除き、いずれの大学においても十分な整備がなされていない状況で有り、私立大学に共通する課題であると思われた。酪農学園大学 (C)、北里大学 (C) で改善が認められた一方、麻布大学 (B) では前回に比べきびしく自己評価された。

酪農	A 概ね整備されている	
北里	B 整備されている部分が多い	
日獣	C 整備されていない部分が多い	研究活動を支援するための技術員、事務職員は充分には整っていない。
麻布	C 整備されていない部分が多い	
日大	B 整備されている部分が多い	

11-3-3. 研究活動をさらに活性化するための諸条件

酪農学園大学、日本獣医生命科学大学において、学内の研究助成金補助事業の取り組みが整備されている。他の大学でも類似した事業がある事が推測され、比較的整備されているものと考えられる。一方で、北里大学、麻布大学においては「十分ではない」との回答で有り、各大学で状況が異なるものと思われた。酪農学園大学 (C) で改善が認められた一方、麻布大学 (B) では前回に比べきびしく自己評価された。

酪農	B 整備されている部分が多い	若手研究者育成を図る目的として、学内共同研究制度の応募資格の見直しを図り、年齢制限を設けるなど若手研究者のサポートをしている。
北里	C 整備されていない部分が多い	

日獣	B 整備されている部分が多い	若手研究者の育成と研究活動の活性化を図るべく、若手教員に対する科学研究費補助金採択促進事業(若手研究者支援)や大学院生およびポスト・ドクターを対象とした学術雑誌への投稿論文の英文校閲費用の助成を行っている。
麻布	C 整備されていない部分が多い	
日大	B 整備されている部分が多い	

11-3-4. 教員研究室

ほとんどの大学において適切な整備がされているものと思われた。(酪農学園大学 (B)、北里大学 (C)、麻布大学 (B)、日本大学 (B))。

酪農	A 概ね整備されている	
北里	B 整備されている部分が多い	
日獣	B 整備されている部分が多い	助教を除いてほとんどの教員は個室がある程度整っている。
麻布	A 概ね整備されている	
日大	A 概ね整備されている	

11-3-5. 個人研究費、研究旅費

ほとんどの大学において、学内予算の金額は適切との回答であった。やはり外部資金獲得のための全ての大学に共通する課題であると考えられた。日本獣医生命科学大学では、特に旅費において課題があるとの回答もあった。酪農学園大学 (B)、北里大学 (B)、日本大学 (B) で改善が認められた一方、麻布大学 (A) では前回に比べきびしく自己評価された。

酪農	A 概ね適切である	
北里	A 概ね適切である	
日獣	C 適切でない部分が多い	教員個人の研究費は外部資金の導入を推奨することによって推進しており、研究旅費は大学からの全学負担は年間1件のみでありやや不足する場合がある。
麻布	B 適切な部分が多い	
日大	A 概ね適切である	

11-3-6. 研究論文・研究成果の公表を支援する措置

大学院教員の研究論文の公表を支援するしくみにおいては各大学で回答が異なり、酪農学園大学、北里大学、日本獣医生命科学大学では、「適切でない部分が多い」との回答である一方、麻布大学、日本大学は、「概ね適切である」との回答であった。日本獣医生命科学大学 (A) では前回に比べきびしく自己評価された。

酪農	C 適切でない部分が多い	
北里	C 適切でない部分が多い	
日獣	C 適切でない部分が多い	Article Processing Charge (APC) 費用の補助、論文校閲費用の補助を行っているが、APCの高騰もあり十分とは言えない。
麻布	A 概ね適切である	
日大	A 概ね適切である	

11-3-7. 科学研究費など外部資金を導入するための活動（科研費の応募率・採択率や研究助成、特許取得率などを上げるための大学などでの取り組み等及びバックアップするためのシステム）

外部資金を獲得するための支援については、講習会等を実施（日本獣医生命科学大学、日本大学）したり、添削サービスの外部委託を実施（酪農学園大学）することによって、応募件数の増加に務めている。酪農学園大学(C)、日本大学(B)で改善が認められた一方、麻布大学(A)では前回に比べきびしく自己評価された。

酪農	B 確立されている部分が多い	科研費の応募率を上げる手段として、添削サービスを外部へ委託を行っている。研究助成や競争的研究費などの公募状況を全教員へ定期的に案内し応募件数の増加に努めている。科研費においては教員も利用可能なシステムは導入に至っていない。
北里	B 確立されている部分が多い	
日獣	A 概ね確立されている	研究推進委員会により、科学研究費など外部資金を導入するための適切な方法のための講習会、また予備レビュー制度が確立している。また、研究推進課が、学校法人日本医科大学に設置されている知的財産推進センター及び研究統括センターのURAと連携し、研究成果の発掘及び知的財産化に向けて、活動している。
麻布	B 確立されている部分が多い	
日大	A 概ね確立されている	

11-3-8. 経常的研究資金と競争的研究資金の構成及び運用

全ての大学において適切に対処されているとの回答であった。おおよそ前回の評価時と同様の評価であったが、麻布大学(A)のみ前回に比べてきびしく評価された。

酪農	B 適切な部分が多い	
北里	B 適切な部分が多い	
日獣	A 概ね適切である	このような外部資金は全て研究推進課で集中管理しており、不正の無いよう注意深く進められている。
麻布	B 適切な部分が多い	
日大	A 概ね適切である	

12. 研究論文・研究成果の公表と情報処理について

12-1. 研究業績のデータベース化

各大学における研究業績のデータベース化については、ほとんど全ての大学において、researchmap などの公的な研究者情報のデータベース化に取り組まれている。全ての大学で、前回の評価時と同じ回答価であった。

酪農	有	「酪農学園大学学術研究コレクション CLOVER」によるデータベース化を行っている。リサーチマップにも情報が掲載されている
北里	有	北里大学リポジトリおよび researchmap によりデータベース化され公表されている。
日獣	無	researchmap によりデータベース化され公表されている。
麻布	有	本学の教員ポータルシステムに研究業績を入力し、データベース化されている
日大	有	本学の教員ポータルシステムに研究業績を入力し、データベース化されている

12-2. 研究情報データベース等への接続

研究者情報へのアクセスについて、おもに各大学のホームページから接続可能な状態を確立している。日本獣医生命科学大学では、前回から改善された。

酪農	有	「酪農学園大学学術研究コレクション CLOVER」によるデータベース化を行っている。
北里	有	
日獣	有	学術リポジトリが整備され HP からアクセス可能となっている。
麻布	有	本学学術情報センターにより概ね整備されている
日大	有	オンライン上でいつでも接続可能となっている。

12-3. 国内外の大学や研究機関との研究成果の発信・受信の整備状況

概ね整備されているところ（北里大学、麻布大学、日本大学）と、整備されていない部分が多いとの回答であったところ（酪農学園大学、日本獣医生命科学大学）と対照的な回答であった。概ね整備されていると回答された大学においても具体的な整備状況の説明がなかったものの、これも情報を各大学間で共有することにより今後の取り組みに貢献できるものと思われた。全ての大学で、前回の評価時と同じ回答価であった。

酪農	C 整備されていない部分が多い	
北里	A 概ね整備されている	
日獣	C 整備されていない部分が多い	現在検討中であり、専用サーバーの設置により実施可能と考えられる。
麻布	A 概ね整備されている	
日大	A 概ね整備されている	

12-4. 研究成果等の情報の管理および発表方法の整備状況

全ての大学において適切な整備がされているものと思われる。特に日本獣医生命科学大学では学内の報告書を公表する取り組みが有り特徴的であった。麻布大学 (A) では、前回と比べてきびしく自己評価された。

酪農	B 整備されている部分が多い	
北里	A 概ね整備されている	
日獣	A 概ね整備されている	日本獣医生命科学大学研究報告など全てPDF化されており、大学HPや機関リポジトリに収載している。今後、専用サーバーを設けることにより弾力運営が可能と考えている。
麻布	B 整備されている部分が多い	
日大	A 概ね整備されている	Researchmap・日本大学研究者情報システムを利用し、研究成果等の情報管理を行っている。

13. 特許・技術移転について

13-1. 寄附講座、寄附研究部門の開設状況

寄附講座の開設状況については、各大学で差が認められた。なかでも麻布大学は、特に積極的な取り組みが認められ、現時点で3つの寄附講座が遂行されている。日本獣医生命科学大学においてもJAC環境動物保護財団ワンウェルフェア寄附講座が進められている。日本獣医生命科学大学では、前回から改善された一方、酪農学園大学では前回の評価に比べきびしく自己評価された。

酪農	無	制度はあるが、活用されていない
北里	無	
日獣	有	JAC環境動物保護財団ワンウェルフェア寄附講座（設置予定期間：2024年4月1日～2029年3月31日）
麻布	有	現在、獣医学部に寄附講座が3つある
日大	無	

13-2. 発明取扱い規程、著作権規程等、知的財産に関わる権利規程

前回の評価時から継続して、全ての大学において適切な整備がされている。

酪農	有	規程整備済である。
北里	有	
日獣	有	「学校法人日本医科大学知的財産取扱規程」
麻布	有	担当部署の研究推進課によって取り扱われている
日大	有	法人本部に属する日本大学産官学連携知財センター（NUBIC）により発明取扱い規程、著作権規程等、知的財産に関わる権利規程が整備されている。

13-3. 技術移転等を支援する体制（相談業務、手続業務など）

術移転等を支援する体制としては、各大学に特徴的な取り組みがされているが、いずれも担当部署により知的財産に関する業務を行っている。日本獣医生命科学大や日本大学では、それぞれ同学校法人もしくは同大学本部に知的財産の技術移転の支援を担当する専門部署を有して効率的な技術移転に取り組んでいる。酪農学園大学においては学外の団体（北海道発明協会）へ相談できる体制を整えている

酪農	有	教員に対し研究支援課がサポートしているが、専門的な技術相談は、北海道発明協会へ相談できる体制にある。
北里	有	
日獣	有	知的財産に関する業務は、日本獣医生命科学大学とは別組織の学校法人日本医科大学 知的財産推進センターが担当しており、日本獣医生命科学大学 研究推進課と連携しながら手続きを行っている。
麻布	有	担当部署の研究推進課によって取り扱われている
日大	有	法人本部に属する日本大学産官学連携知財センター（NUBIC）が技術移転等の支援を行っている。

13-4. 「産学連携に伴う利害関係の衝突」に備えた産学連携に係るルール

前回の評価時から継続して、全ての大学において適切な整備がされている。

酪農	有	
北里	有	
日獣	有	「学校法人日本医科大学利益相反マネジメント規程」
麻布	有	企画課によって利益相反に関する
日大	有	法人本部に属する日本大学産官学連携知財センター（NUBIC）により整備されている。

13-5. 工業所有権の取得のための体制の整備状況

全ての大学において概ね整備がされている。特に日本獣医生命科学大学、麻布大学、日本大学では工業所有権の取得のための担当組織が整備されている。特に日本獣医生命科学大学（D）では前回の評価時から大きく改善された。

酪農	A 概ね整備されている	
北里	A 概ね整備されている	
日獣	A 概ね整備されている	工業所有権を含む知的財産権取得のための業務は、日本獣医生命科学大学とは別組織の学校法人日本医科大学 知的財産推進センターが担当しており、日本獣医生命科学大学 研究推進課と連携しながら手続きを行っている。
麻布	A 概ね整備されている	担当部署の研究推進課によって取り扱われている
日大	B 整備されている部分が多い	法人本部に属する日本大学産官学連携知財センター（NUBIC）により整備されている。

13-6. 特許料収入の研究費への還元ルールの整備状況

前回の評価時から継続して、研究費への還元体制としては、各大学に特徴的な取り組みがされているが、いずれも担当部署により知的財産に関する業務を行っている。

酪農	A 概ね整備されている	
北里	A 概ね整備されている	
日獣	A 概ね整備されている	「発明者等への実施補償金等、実施料所得の配分に関する運用基準」に基づき特許料収入として得た利益を発明者に還元するとともに、発明者の所属する部署に研究費として予算配分している。
麻布	A 概ね整備されている	担当部署の研究推進課によって取り扱われている
日大	A 概ね整備されている	法人本部に属する日本大学産官学連携知財センター（NUBIC）により整備されている。

13-7. 特許取得を「研究業績」として認定する学内的措置の状況

整備されている大学（麻布大学、日本獣医生命科学大学）と、そうではない大学と、状況に差があると思われた。麻布大学と日本獣医生命科学大学では、特許取得を研究業績として項目だてされ、評価されている点は特徴的であった。酪農学園大学（A）、北里大学（B）では前回の評価に比べきびしく自己評価された。

酪農	C 整備されていない部分が多い	
北里	C 整備されていない部分が多い	
日獣	B 整備されている部分が多い	学内公募プロジェクトの研究報告書作成時の記載項目として設定しており、日本獣医生命科学大学研究報告に掲載されるようにしている。
麻布	A 概ね整備されている	大学院教員評価や大学独自の研究申請における業績ポイントに加算される
日大	B 整備されている部分が多い	

13-8. 大学における TL0 の設立と運用の整備状況

整備されている大学（日本獣医生命科学大学、日本大学）と、そうではない大学との間に、大きな差があると思われた。整備された大学では、いずれも独立した担当組織が整備されている。北里大学（B）では前回の評価に比べきびしく自己評価された。

酪農	D 概ね整備されていない	
北里	D 概ね整備されていない	
日獣	A 概ね整備されている	日本獣医生命科学大学とは別組織として、法人内に知的財産・ベンチャー育成（TL0）センターが設立され、その後、知的財産推進センターと名称変更され、「学校法人日本医科大学知的財産取扱規程」に基づき、活動している。

麻布	D 概ね整備されていない	
日大	A 概ね整備されている	法人本部に属する日本大学産官学連携知財センター（NUBIC）がTLOとして機能している。

13-9. リエゾンオフィス等の整備状況

整備されている大学と、そうではない大学との間に、大きな差があると思われた。整備された大学では、いずれも独立した担当組織が整備されている大学（日本獣医生命科学大学、日本大学）と、事務組織内で担当部署が定められている大学（麻布大学）に分かれていた。北里大学（D）、日本獣医生命科学大学（D）では前回の評価に比べて改善された一方、酪農学園大学（A）では前回に比べてきびしく自己評価された。

酪農	D 概ね整備されていない	
北里	B 整備されている部分が多い	
日獣	A 概ね整備されている	産学連携の窓口となるリエゾンオフィスとして、日本獣医生命科学大学 研究推進課と、日本獣医生命科学大学とは別組織の学校法人日本医科大学 知的財産推進センター及び学校法人日本医科大学研究統括センターのURAと連携して活動している。
麻布	A 概ね整備されている	担当部署の研究推進課によって取り扱われている
日大	A 概ね整備されている	法人本部に属する日本大学産官学連携知財センター（NUBIC）がリエゾンオフィスとして機能している。

14. 倫理面からの研究に対する学内的規制体制について

14-1. 実験・研究の学内的倫理規制システムの整備状況

実験・研究の学内的倫理規制システムの整備状況としては、全ての大学において、倫理審査を担当する部委員会等の専門組織が構築されている。加えて、大学院生を含む教員等、研究に従事する者に対して、研究倫理教育の受講を義務づけている（酪農学園大学、日本大学）。

酪農	有	研究倫理教育を大学院生と研究生全員に受講を義務付けている。
北里	有	
日獣	有	日本獣医生命科学大学生命倫理委員会にて管理されている。
麻布	有	研究倫理については、実験の対象により動物実験委員会ないしヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理審査委員会の審査を受けるシステムが確立されている
日大	有	併設の生物資源科学部に設置された動物実験委員会が実験・研究の学内的倫理規制システムとして機能している。

14-2. 動物実験を用いる研究を審議する機関の設置および運営状況

動物実験を用いる研究に関する審議についても、それぞれ学内に動物実験委員会を設置し、審議、認証を経てからの動物実験の実施が徹底されている。

酪農	有	動物実験委員会を設立しており、2023年度は計画書96件、変更届43件、結果報告書87件の審査を行った（大学院以外の研究も含む）。
北里	有	
日獣	有	日本獣医生命科学大学動物実験委員会にて管理されている。
麻布	有	動物病院運営委員会と対象によっては、動物実験委員会による審議・承認している
日大	有	動物実験を実施している学部及び本部にて動物実験委員会を設置し、8月以外の毎月委員会を開催している

(5) 施設設備および情報インフラ

1. 施設設備等について

1-1. 校地面積が設置基準を満たしているか？

第7次相互評価当時とほぼ同様に、5大学とも概ね設置基準を満たしている。

酪農	A	概ね満たしている	
北里	B	満たしている部分が多い	
日獣	B	満たしている部分が多い	校地は都会地に位置しているためやや狭いが、獣医学科の使用する教室、実験室、研究室などは、ほぼ拡充しており、山梨県には産業動物のための付属牧場施設および宿泊のための研修施設もあり、設置基準をほぼ満たしている。
麻布	A	概ね満たしている	
日大	A	概ね満たしている	

1-2. 校舎面積が設置基準を満たしているか？

第7次相互評価当時とほぼ同様に、5大学とも概ね設置基準を満たしている。

酪農	A	概ね満たしている	
北里	B	満たしている部分が多い	
日獣	B	満たしている部分が多い	校地は都会地に位置しているためやや狭いが、獣医学科の使用する教室、実験室、研究室などは高層化により拡充し、ほぼ満たしている。
麻布	A	概ね満たしている	
日大	A	概ね満たしている	

1-3. 大学院専用講義室

第7次相互評価当時とほぼ同様に、北里大・日本獣医生命科学大学・麻布大学は専用の講義室を有しているが、酪農学園大学・日本大学は学群・学部と共用している。麻布大学では、AV設備を備えた大学院専用講義室を50名収容3室から80名収容4室に増設した。

酪農	無	
北里	有	
日獣	無	専用の講義室は無いが多目的の小教室があり、ほぼ専用を使用している。

麻布	有	AV 設備を備えた、約 80 人収容の大学院専用講義室が 4 室設置されている。
日大	無	

1-4. 大学院専用演習(実習)研究室

第 7 次相互評価当時と同様に、5 大学ともに大学院専用演習(実習)研究室を設置しておらず、未だ改善が図られていない。

酪農	無
北里	無
日獣	無
麻布	無
日大	無

1-5. 大学院研究用の特記する施設・設備・機器

第 7 次相互評価当時と同様に、酪農学園大学では大学院研究用の施設・設備・機器を有しており、他の 4 大学では学部と共用している。

酪農	有	大型プロジェクトを研究科で推進した経緯があり、その機器、設備、施設を大学院で運用している
北里	無	
日獣	有	一部高度で先端的の研究設備を、特定の実験室に設置し共同利用を可能にしている。
麻布	無	
日大	無	

1-6. 大学院のネットワークあるいは情報関連施設の整備状況

第 7 次相互評価当時と比較すると、酪農学園大学・日本大学では整備が進み、すべての大学でほぼ満足できる整備状況にある。

酪農	A	概ね整備されている	
北里	A	概ね整備されている	
日獣	B	整備されている部分が多い	図書館の施設を利用し、学内のすべての LAN 端末からアクセスすることが可能である。
麻布	A	概ね整備されている	大学内には無線 LAN、Wifi が整備されており、電子ジャーナルにアクセス、ダウンロードできるようになっている。また、学術情報センターにおいては、専門職員がおり、常時相談可能である。
日大	A	概ね整備されている	

1-7. 図書館（大学院関連）について

第 7 次相互評価当時と同様に、各大学とも学群・学部との共用で図書館を利用できる体制が継続されている。日本大学では、第 7 次相互評価当時より状況が改善されている。

酪農	B	整備されている部分が多い	
----	---	--------------	--

北里	A	概ね整備されている	
日獣	B	整備されている部分が多い	充分ではないが本校でのみ所有する貴重な雑誌なども保管され、いつでも利用可能である。また、連携している日本医科大学図書館の利用も可能である。
麻布	A	概ね整備されている	電子ジャーナルとの契約も多く、学外からの文献取り寄せ等についてはも大学院学生のPCから申込みが可能である。
日大	A	概ね整備されている	

1-8. 学外協力施設

第7次相互評価当時と比較すると、酪農学園大学では卓越大学院制度で学外施設を研究に利用できるようになっており、日本大学では「無」との評価になっている。麻布大学は今回も「無」との評価であり、日本獣医生命科学大学では第7次相互評価当時と同様の状況が継続確保されている。麻布大学・日本大学では、今後の検討が望まれる。

酪農	有	卓越大学院という制度を用いることで北海道大学及び帯広畜産大学の施設で研究等を行うことができる
北里	有	
日獣	有	オーストラリア・クィーンズランド大学と関連する現地在住の本学客員教授を設けて研究教育部門の協力体制を整えている。
麻布	無	
日大	無	

1-9. 大学院の厚生施設

第7次相互評価当時と同様に、5大学とも大学院専用の厚生施設はないが、日本獣医生命科学大学・日本大学では大学院も利用できる共用施設を有している。

酪農	有	食堂・学生相談室・医務室が整備されている。
北里	有	学部と共用の施設がある
日獣	無	大学院専用ではないが、山梨県に付属牧場施設に隣接する宿泊施設の利用ができる。
麻布	無	
日大	有	

1-10. 大学院生個人スペースについて

第7次相互評価当時と同様に、5大学とも大学院生に個室は提供していないが、個人用デスクを設置したスペースを提供している。

酪農	C	整備されていない部分が多い	院生室を用意しているが、院生個人で使用できるスペースの用意ができていないケースが多く、多くは複数人で1室を使用している。
北里	B	整備されている部分が多い	
日獣	B	整備されている部分が多い	所属する講座によって異なるが、充分ではない。

麻布	A 概ね整備されている	各研究室においては、大学院学生にはデスクが設置されており、概ね学部学生と比較して広いスペースが与えられている。
日大	A 概ね整備されている	所属する研究室にて設置している。図書館については個室『閲覧スペース』を設けている。

1-11. 特色ある付属研究施設・設備について

第7次相互評価当時と同様に、5大学とも特色ある付属研究施設・設備を有しており、継続して施設・設備の充実が進行している。

酪農	有	フィールド教育研究センターにおいて酪農生産ステーション、作物生産ステーション、肉畜生産ステーションが整備され、研究にも使用されている。 附属動物医療センター、ハイテク診断治療センターも整備されているが、特に附属動物医療センター3Fについては一部獣医学研究科管理となっている。
北里	有	学部と共用の付属動物病院、付属牧場がある。
日獣	有	動物医療センター、富士アニマルファーム、博物館、生命科学総合研究センター
麻布	有	産業動物臨床教育センター、獣医臨床センター、動物医療センター
日大	有	付属家畜病院・動物医科学研究センター・総合研究所

1-12. 大学院の教育・研究施設・設備における整備状況の自己点検・評価

5大学ともに、「概ね整備されている」または「整備されている部分が多い」と自己評価しているが、麻布大学を除いて、第7次相互評価当時と同様に大学院専用の講義室や演習室は整備できていない。すべての大学で大学院生に個室は提供できていないが、大学院生の個人用デスクなどの個人スペースは確保されており、ネットワークや情報関連施設は第7次相互評価当時に比べて確実に整備されている。日本獣医生命科学大学では、自己点検評価の報告書を第三者機関に公表するなど、本相互評価に加えて、大学院の教育・研究施設・設備の整備状況を継続的に確認・改善できる独自のシステムを構築しており、他の大学も同様のシステムを導入し、大学院研究科の施設設備等の充実に繋げることが望まれる。

酪農	B 整備されている部分が多い	大学院専用の講義室や演習室は整備できていないものの、講義室やインフラ、研究設備について整備できている。
北里	B 整備されている部分が多い	大学院専用のものではないが、概ね整備されていると考えられる。
日獣	A 概ね整備されている	自己点検評価を行っており、その報告書を第三者機関を含め公表している。
麻布	B 整備されている部分が多い	研究機器については概ね整備出来ており、年次計画で更新も行っている。
日大	A 概ね整備されている	大学院生に特化した施設ではないものの、概ね研究の遂行上十分な施設、設備は整備されていると考えられる。

(6) 学生生活の支援・配慮等

1. 経済的支援制度（授業料免除など）

5 大学すべてで大学院生への経済的支援制度が実施されている。日本獣医生命科学大学では、第7次相互評価当時に大学院生への経済的支援制度は設けられていなかったが、今回までに設定され、大きく改善された。酪農学園大学ならびに日本獣医生命科学大学では、授業料減免に加え、ティーチングアシスタント（TA）やリサーチアシスタント（RA）も導入され、第7次相互評価当時より積極的に大学院学生への経済的支援が実施されている。

酪農	有	授業料免除（授業料の半額免除）、大規模災害特別授業料等免除、兄弟姉妹等同時修学授業料免除、私費外国人留学生授業料免除の他に、ティーチングアシスタントやリサーチアシスタント制度、学内（附属農場や動物医療センター）でのアルバイトによって経済的支援を行っている。
北里	有	
日獣	有	TA・RA制度、入学金免除制度、私費外国人留学生授業料減免制度などの経済支援を行っている。
麻布	有	大学院学則に、授業料・施設設備費の全部若しくは一部を免除し、又は徴収を猶予する規則を設けている。
日大	有	日本大学生物資源科学部私費外国人留学生授業料減免

2. 学内・学外奨学金制度

5 大学すべてにおいて、大学院生の学内・学外奨学金制度が利用されている。酪農学園大学では、第7次相互評価当時に大学院学生の学内・学外奨学金制度が利用されていなかったが、今回までに学内奨学金制度も設定され、大きく改善された。酪農学園大学、北里大学ならびに日本大学では、複数の学内奨学金制度が準備されており、より積極的に大学院学生への経済的支援が実施されている。

酪農	有	学内では、酪農学園大学給付奨学金、酪農学園大学特待生奨学金（給付）、株式会社丹波屋給付奨学金の制度がある。 学外では、日本学生支援機構奨学金、地方公共団体及び民間団体奨学金等がある。
北里	有	
日獣	有	大学院生対象の奨学事業への応募・採択実績有
麻布	有	日本学生支援機構の奨学金取得と終了時の同奨学金返還免除への応募を積極的にサポートしている。
日大	有	日本大学生物資源科学部後援会奨学金、日本大学生物資源科学部校友会奨学金、日本大学古田奨学金、日本大学ロバート・F・ケネディ奨学金、日本大学創立100周年記念外国人留学生奨学金、高居百合子獣医学奨学財団、日本学生支援機構貸与奨学金

3. ティーチングアシスタント雇用等による経済的支援およびその支給額

第7次相互評価当時と同様に、5 大学すべてにおいて、大学院生はTA雇用等による経済的支援が実施されており、その支給額も第7次相互評価当時と同程度に設定されている。昨今の物価高を考慮すると、TA雇用等の支給額について増額を検討する時期にあると思われる。

酪農	有	ティーチングアシスタント雇用を実施しており、支給額は1コマ/90分当たり2,500円
北里	有	

日猷	有	授業料と実習費の約1/2が支給される。
麻布	有	リサーチアシスタントに採用し、年間60万円を上限として手当している。
日大	有	博士後期課程・博士課程1年次 月額50,000円 博士後期課程・博士課程2年次以上 月額60,000円

4. 大学院学生健康保持への配慮

第7次相互評価当時には、酪農学園大学を除く4大学において大学院生対象の定期健康診断が実施されていたが、今回は酪農学園大学を含む5大学すべてにおいて大学院生対象の定期健康診断が実施されるようになった。酪農学園大学および日本大学では医務室あるいは保健室が開設されており、さらに、日本大学では大学院学生のメンタルケアにも力を入れており評価できる。

酪農	有	定期健康診断を4月に実施している。医務室には3名の保健師・看護師が常勤し、学校医（本学教授）と共に健康管理に係る支援を行っている。また、酪農学園大学医療互助会により、学生が疾病や怪我をした場合の医療費の一部について給付している。
北里	有	
日猷	有	毎春健康診断を実施しており、健康保持を確認保証されている。
麻布	有	毎年1回の健康診断受診（無料）を義務づけている。
日大	有	保健室には看護師が常駐、校医は1日2時間入室しており、体調不良時の対応、怪我の応急処置、健康相談、病院紹介、紹介状の作成を行っている。 メンタルケアとしては、学生支援窓口や学生支援室（相談室）と連携をとり、カウンセリングや医療機関に繋げる等の調整を行っている。 また、年1回の定期健康診断の他、電離放射線・化学物質等使用基準に該当する学生には特殊健康診断を実施し、健康管理を行っている。

5. 大学院学生相談窓口の整備

大学院学生の精神衛生には、うつ病や不安障害のリスクの高さ、研究活動のストレス、指導者との関係、将来への不安などが関係している。大学院学生の健康保持への配慮として、身体的健康に加えて精神的健康を保持する積極的な対策も求められる。大学院学生の精神的な健康を守るためには、大学院が提供する学生相談、カウンセリング、休養のための制度、そして教員や仲間との良好な関係構築が重要である。第7次相互評価当時には、酪農学園大学を除く4大学において大学院学生が利用できる相談窓口が整備されていたが、今回は酪農学園大学を含む5大学すべてにおいて、大学院学生相談窓口が整備され、専門家によるカウンセリングを含む大学院学生の精神衛生に対する配慮が実施されており、評価できる。

酪農	有	学生相談室を設置し、3名のカウンセラー（2名常勤、1名非常勤）により多様な学生の相談窓口として機能している。また、月に一度、札幌医科大学から精神科医を派遣してもらい、カウンセラーとは別の視点での相談体制を整えている。
北里	有	
日猷	有	学生相談室が対応し、面談およびカウンセリングの受付をしている。学部学生と同じ施設であるが整備されている。

麻布	有	大学院学生のみを対象とした窓口はないが、学内・外に専門家による相談窓口を設置している。
日大	有	大学院学生の相談窓口としては、主に修学に関する支援を取り扱う学生支援窓口と、カウンセリングを取り扱う学生支援室（相談室）があり、それぞれ有資格者が常駐して業務にあたっている。

6. 大学院学生の安全への配慮(危機管理マニュアルの作成等)

第7次相互評価当時には、酪農学園大学および日本獣医生命科学大学は大学院学生の安全への配慮が不十分と指摘されたが、今回は酪農学園大学を含む4大学において危機管理マニュアルが策定され、改善が認められた。しかしながら、日本獣医生命科学大学では、第7次相互評価当時と同様に大学院学生の安全への配慮が未だに十分ではなく、東日本大震災等の教訓を生かし、南海トラフ地震の発生に備えるべく、早急な対応が必要と思われる。

酪農	有	「学校法人酪農学園危機管理規程」に基づき、「酪農学園大学危機管理基本マニュアル」を作成している。また、定期的に防災訓練を実施している。
北里	有	
日獣	無	特に設けていない。
麻布	有	大学全体の危機管理マニュアルの中に学生を対象としたものが作成されており、携帯電話メールを利用した「緊急連絡・安否システム」も利用されている。
日大	有	『学生事故防止マニュアル』を毎年発行し、全学生・教職員にポータルサイトを通じて配信している。『日本大学生物資源科学部危機管理マニュアル（令和5年7月1日）』配布。

7. 学生生活の支援体制における整備状況の自己点検・評価

学生生活の支援体制における整備状況について、酪農学園大学・北里大学は「A：概ね整備されている」、日本獣医生命科学大学・麻布大学・日本大学は「B：整備されている部分が多い」と自己点検・評価した。大学院学生における学生生活の支援・配慮等については、5大学とも第7次相互評価当時より整備改善されており、とくに、大学院学生の健康保持への配慮として、身体的健康に加えて専門家によるカウンセリングなど精神的健康を保持する積極的な対策が実施されている。各大学において、持続的に研究活動を活性化して研究業績を積み上げ、獣医学を発展させるためには、大学院学生の確保が共通の課題である。大学院学生を確保し、学位取得を目指して安心して研究活動を継続するためには、身体的健康、精神的健康、経済的（金銭的）安定の確保が重要であり、とくに、昨今の物価高を考慮すると、大学院学生への経済的支援制度のさらなる充実が求められる。

酪農	A 概ね整備されている	奨学金などの経済的支援の他、身体面や精神面を支援する医務室・学生相談室の体制について概ね整備されていると判断する。また、酪農学園大学学生生活援護会により、課外活動団体への備品補助や大会参加補助、短期貸付（三愛金庫）、学生教育研究災害傷害保険に加入している。
北里	A 概ね整備されている	大学院生の支援体制は、経済的にも健康面においても概ね整備されていると考えられる。

日獣	B 整備されている部分が多い	十分でない部分はあるが、概ね整っている。
麻布	B 整備されている部分が多い	経済面及び精神衛生を含めた健康面の支援体制が整備されている。
日大	A 概ね整備されている	学生支援窓口、学生支援室（相談室）における学生カウンセラーの学内常駐、誰でもトイレの設置等で支援体制を構築している。

(7) 大学院の管理運営体制（事務組織含む）

1. 研究科長と学部長（学科長）との兼任の有無

酪農学園大学では、2024年度現在、獣医学群長と獣医学研究科長が兼任している。その他の大学では、両者の兼任を禁止する規程はないものの、それぞれ独立した別のものが担当している。

酪農	有	2024年度現在、獣医学群長と獣医学研究科長が兼任している。
北里	有	
日獣	無	
麻布	無	兼任を禁止する規定はないが、それぞれ独立したポストになっている。
日大	有	※「日本大学生物資源科学部組織図」（令和6年4月1日）のとおり

2. 研究科における意思決定プロセスの明確化

全ての大学において、研究科独自の規程、あるいは研究科教授会（専攻委員会など名称は大学により異なる。）が設置され、意思決定を行っている。それぞれ議事録が残され、意思決定のプロセスについて、対外的に説明ができる体制が確立されている。

酪農	A 概ね確立されている	酪農学園大学大学院獣医学研究科委員会規程において、審議すべき事項が定められている。
北里	A 概ね確立されている	
日獣	A 概ね確立されている	獣医学専攻科の上に日本獣医生命科学大学大学院研究科が位置しており、確立している。
麻布	A 概ね確立されている	獣医学研究科教授会にて審議・決定される。
日大	A 概ね確立されている	獣医学専攻委員会にて、意思決定、議論、情報共有等を行っている。

3. 研究科独自の大学院事務局体制

5大学のうち、3つの大学（酪農学園大学、日本獣医生命科学大学、日本大学）は、独立した大学院事務局を設置せず、学部教育担当事務が兼務している。2大学（北里大学、麻布大学）については、一部兼務されているが、分業体制が整備されている。

酪農	無	
北里	有	
日獣	無	

麻布	有	学部担当と大学院担当部門は一部重なっているが、ほぼ分業体制が整っている。
日大	無	

4. 大学院の管理運営体制における整備状況の自己点検・評価

全ての大学において、大学院の管理運営体制における整備状況等の自己点検、評価組織があり、それぞれ管理されている。麻布大学では、大学院教員全員に報告書が配布され、大学院教育活動に活用されている。

一方、学外者の意見を反映させる仕組みについては、北里大学を除き、外部評価を定期的に行っている。

酪農	A 概ね整備されている	研究科独自の事務局体制は整っていないものの、規程等に則して適切な管理運営体制ができているといえる。
北里	A 概ね整備されている	大学院の管理運営体制は概ね適切に整備され行われていると考えられる。
日猷	A 概ね整備されている	概ね大学院の管理運営体制における整備状況は実施されている。
麻布	A 概ね整備されている	研究科内に、研究科長、専攻主任、研究科長推薦教員による研究科運営委員会が設置されており、研究科における諸問題、研究科会議での報告・審議事項について検討する体制が出来ている。
日大	B 整備されている部分が多い	専攻主任、ならびに教育体系である6分野の郭取りまとめ教員からなる。今後分野間の連携を含めて充実していく必要がある。

(8) 大学院の点検・評価

1. 自己点検・評価制度

前回評価において自己点検・評価制度が整備されていなかった酪農学園大学で自己点検・評価制度が定められた。これにより全大学で自己点検・評価制度が整備され評価できる。

酪農	有	酪農学園大学大学院学則 (自己点検及び評価) 第1条の3 本学は、その教育研究水準の向上を図り、前二条の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うものとする。 2 前項の点検及び評価の項目並びにその実施体制等については、別に定める。
北里	有	
日猷	有	5年おきに自己点検・評価制度により自己点検・評価を実施し、公表している。
麻布	有	
日大	有	

2. 自己点検・評価委員会など自己点検・評価組織

前回評価において自己点検・評価組織が整備されていなかった酪農学園大学において委員会が設置された。これにより全大学において自己点検・評価委員会など自己点検・評価組織が整備

され評価できる。

酪農	有	自己点検評価委員会、自己点検評価専門委員会
北里	有	
日獣	有	自己点検・評価は独立した委員会によって運営管理されている。
麻布	有	
日大	有	自己点検・評価委員会

3. 自己点検・評価結果の活用方法

北里大学、日本獣医生命科学大学、麻布大学、日本大学では自己点検・評価の結果を活用する基盤は概ね整備されており（A または B 評価）、前回評価とほぼ同様であった。酪農学園大学については前回評価の D 評価から C 評価へと改善が見られたが、今後の一層の改善・整備が望まれる。

酪農	C 確立されていない部分が多い	
北里	B 確立されている部分が多い	
日獣	A 概ね確立されている	大学院のみならず学部運営にも反映されながら事業運営が進められている。
麻布	B 確立されている部分が多い	学部、大学院担当教員全員に報告書が配布され、活用されている。
日大	A 概ね確立されている	

4. 学外者の意見を反映させる仕組み

北里大学以外では A または B 評価となっており、学外者の意見を反映させる仕組みが取り入れられている。これらの取り組み内容は前回評価とほぼ同様である。北里大学については前回評価の D 評価から、今回 C 評価と改善が示されているが、具体的な内容については不明である。北里大学については更なる改善が望まれる。

酪農	B 確立されている部分が多い	副指導教員（副査）として学外専門家の指導を受けることができる
北里	C 確立されていない部分が多い	
日獣	A 概ね確立されている	任期制教員の審査を含めて、学外者の点検・評価を行っている。
麻布	A 概ね確立されている	大学院担当教員の教育活動、研究活動、学会・社会活動の再評価に際し、規則によって再評価委員 7 名中 2 名を外評価委員としている。
日大	A 概ね確立されている	獣医学研究科においては、一般社団法人日本私立獣医科大学協会による加盟大学内での相互評価を 4 年毎に実施している。

5. 自己点検・評価結果の客観性・妥当性を検証する仕組み

日本獣医生命科学大学、麻布大学、日本大学はいずれも A 評価であり、自己点検・評価結果の客観性・妥当性を検証する仕組みが構築されている。麻布大学と日本大学は、前回評価の内容 (B 評価) に比べて整備が進んでおり評価できる。酪農学園大学と北里大学については、それぞれ前回評価と同じ C と D 評価であり、今後の改善が望まれる。

酪農	D 概ね確立されていない	
北里	C 確立されていない部分が多い	
日獣	A 概ね確立されている	必ず自己点検・評価結果を公表することによって常に評価結果の客観性・妥当性を検証することが可能となっている。
麻布	A 概ね確立されている	自己点検・評価の客観性と妥当性を確保するため、2021 年度から学外有識者で構成する「麻布大学外部評価委員会」を設置し、毎年度外部評価を実施し、その結果を学長の改善指示に採り入れ、内部保障に生かしている。
日大	A 概ね確立されている	令和 5 年度に生物資源科学部内部質保証推進委員会にて以下の内部質保証体制図及び P D C A 評価図を作成し、内部質保証システムの機能化を図った。また、内部質保証に関連する委員会である I R 委員会及び S D 委員会について内規を制定し、各委員会における役割等を明確化するとともに内部質保証体制の明確化を図っている。

6. 第三者評価の実施

「第三者評価」と次項 7. 「外部評価」の違いについては、前回評価で定義された「第三者評価とは当該組織から独立した認証機関が実施するもの、外部評価とは当該組織が自主的に外部評価委員を指名して行われるもの」に基づき区別されているものとした。評価者の主体は明記されていないが、北里大学、日本獣医生命科学大学、麻布大学については第三者評価が実施されている。おそらく日本獣医生命科学大学は前回の第三者委員会によるものと思われる。北里大学と麻布大学についての詳細は分からない。酪農学園大学と日本大学は「無」のため、早期の対応が望まれる。日本大学は前回の調査で「有」であったが今回は「無」に変更されている。今回は外部評価に該当する「大学基準協会による認証評価」がこの項に含まれていたが、今回は定義に沿って「無」の評価となったのかもしれない。

酪農	無	
北里	有	
日獣	有	第三者評価を実施している。
麻布	有	
日大	無	

7. 外部評価について

7-1. 外部評価の実施

評価機関の詳細は不明であるが、北里大学、日本獣医生命科学大学、麻布大学は外部評価を受けている。酪農学園大学と日本大学については受けておらず、今後の対応が望まれる。

酪農	無
北里	有
日獣	有
麻布	有
日大	無

7-2. 外部評価基準

外部評価を受けている大学においては、評価基準が定められている。酪農学園大学と日本大学については、外部評価基準の策定と共に外部評価の実施が望まれる。

酪農	無	
北里	有	
日獣	有	外部組織による客観的評価を得るために、基準に沿って実施している。
麻布	有	点検・評価項目を定めている
日大	無	

7-3. 外部評価結果の学内への公表と意見・異議などの申出制度

外部評価を受けている3大学については、いずれも評価結果を学内で公表している。麻布大学では評価に対する異議を含めた所見を作成しており評価できる。

酪農	無	
北里	有	
日獣	有	評価結果は報告書などで公表している。
麻布	有	教育研究会議構成員に公表した上で、書面評価に対する意義を含めた大学所見を作成している。
日大	無	

7-4. 外部評価結果の学外への公表

北里大学および日本獣医生命科学大学では報告書などで報告されている。外部評価を受けることと合わせて、評価結果の外部への積極的な公表が望まれる。

酪農	無	
北里	有	
日獣	有	評価結果は報告書などで公表している。
麻布	無	
日大	無	